

# 大川市議会第5回定例会会議録

令和6年12月6日大川市議会議場に出席した議員及び付議事件の説明のため出席した者の氏名並びに付議事件の内容は次のとおりである。

## 1. 出席議員

1番	永尾学	8番	龍誠一
2番	宮崎貴仁	9番	内藤栄治
3番	古賀寿典	10番	川野栄美子
4番	馬淵清博	11番	遠藤博昭
5番	永島幸夫	12番	永島守
6番	宮崎稔子	13番	平木一朗
7番	西田学		

## 2. 地方自治法第121条の規定により出席した者

市長	江藤義行
会計管理課長 (兼) 会計課長 (兼) 税務課長	川野文裕
人事秘書課長 (併) 監査事務局長	仁田原敏雄
総務課長 (併) 選挙管理委員会事務局長	田中準一
企画課長	野中貴光
大川の駅整備振興課主幹	甲斐衛
大川の駅整備振興課主幹	岡美詠子
地域支援課長	島崎恵一
市民課長	中島聖佳
健康課長	江崎くるみ
福祉事務所主幹	山口馨
子ども未来課長	古賀章子

インテリア課長	永	島	潤	一
インテリア課主幹 (兼)大川の駅整備振興課主幹	井	口	秀	成
企業誘致推進室長	鶴		恭	太
農業水産課長 (併)農業委員会事務局長	宮	崎	和	彦
学校教育課長	添	田	宗	孝
学校教育課主幹指導主事	藤	岡	忠	司
生涯学習課長	森			悟

3. 本議会の書記は次のとおりである。

議会事務局長	西	原		真
議会事務局書記	古	賀		直
議会事務局書記	松	家	奈	美子
議会事務局書記	高	口	絵	美

4. 付議事件

1. 追加議案の上程

議案第68号 大川市議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例及び大川市市長、副市長及び教育長給与等に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第69号 大川市職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第70号 大川市第1号会計年度任用職員の報酬、期末手当、勤勉手当及び費用弁償に関する条例及び大川市第2号会計年度任用職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第71号 令和6年度大川市一般会計補正予算

議案第72号 令和6年度大川市国民健康保険事業特別会計補正予算

議案第73号 令和6年度大川市後期高齢者医療事業特別会計補正予算

議案第74号 令和6年度大川市介護保険事業特別会計補正予算

議案第75号 令和6年度大川市水道事業会計補正予算

議案第76号 令和6年度大川市下水道事業会計補正予算

1. 提 案 理 由 の 説 明

(議案第68号～第76号)

1. 一 般 質 問

1. 議 案 に 対 す る 質 疑

(議案第57号～第62号、第64号、第68号～第76号)

1. 委 員 会 付 託

## 5. 一般質問通告

発言 順位	議席 番号	氏 名	質 問 要 旨
7	10	川 野 栄美子	1. 「大川の駅」の様々な事について（第1弾）
8	4	馬 渕 清 博	1. 「消滅可能性自治体」と「地方創生」推進について
9	6	宮 崎 稔 子	1. 大川リビルディング事業の今後について
10	13	平 木 一 朗	1. 今後の大川について「目指すべき大川の姿」
11	2	宮 崎 貴 仁	1. 子育て・教育、文化芸術の振興における市長の政策について
12	12	永 島 守	1. 大川近未来への政治行政

---

午前9時 開議

### ○議長（遠藤博昭）

おはようございます。各位の御参集、感謝申し上げます。

出席議員は定足数に達しておりますので、ただいまから本日の会議を開きます。

この際、お諮りいたします。本日、お手元に配付しておりますとおり、市長から議案第68号 大川市議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例及び大川市市長、副市長及び教育長給与等に関する条例の一部を改正する条例の制定についてなど、9件の議案の送付がなされ、これを受理いたしましたので、この際、御報告申し上げるとともに、これを本日の日程に追加し、直ちに上程したいと思っておりますが、これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

御異議なしと認めます。よって、さよう決しました。

それでは、議案の朗読を省略し、議案第68号 大川市議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例及び大川市市長、副市長及び教育長給与等に関する条例の一部を改正する条例の制定についてから、議案第76号 令和6年度大川市下水道事業会計補正予算までの案件9件を一括議題といたします。

これから提案理由の説明を行います。

議案第68号から議案第76号までの案件9件について、市長の提案理由の説明を求めます。挙手をお願いします。市長。

#### ○市長（江藤義行）（登壇）

皆さんおはようございます。

それでは、令和6年第5回市議会定例会の提出議案を説明いたします。

本日ここに、追加として提案させていただきました議案について御説明申し上げます。

まず、議案第68号 大川市議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例及び大川市市長、副市長及び教育長給与等に関する条例の一部を改正する条例の制定についてから、議案第70号 大川市第1号会計年度任用職員の報酬、期末手当、勤勉手当及び費用弁償に関する条例及び大川市第2号会計年度任用職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定についてまで、一括して御説明申し上げます。

3議案とも、人事院が令和6年8月8日に国会及び内閣に対して、国家公務員の給与に関し勧告を行い、また、国が特別職を含む国家公務員に当該勧告どおり給与改定を実施することを踏まえ、本市においても国家公務員に準じて、市議会議員の議員報酬並びに市長、副市長、教育長及び職員の給与について、また、会計年度任用職員の給与等について、所要の改正を行おうとするものであります。

次に、議案第71号 令和6年度大川市一般会計補正予算について御説明申し上げます。

今回の補正は、歳入歳出予算の補正をお願いするものでありまして、議員期末手当の増額、市長等三役の給料等の減額及び職員の給与改定並びに職員の異動等に伴い、各款における人件費の調整を行おうとするものであります。

以上によりまして、今回の補正総額は3,127万3千円となったところでありますが、これが財源といたしましては、繰越金をもって充当する次第であります。

次に、議案第72号 令和6年度大川市国民健康保険事業特別会計補正予算から、議案第76号 令和6年度大川市下水道事業会計補正予算についてまで、一括して御説明申し上げます。

5議案とも歳入歳出予算の補正をお願いするものでありまして、職員の給与改定並びに異動等による人件費の調整を行おうとするものであります。

議員各位におかれましては、本議案について特段の御配慮をいただき、何とぞ御議決いただきますようお願い申し上げます。

以上です。

**○議長（遠藤博昭）**

提案理由の説明は終わりました。

次に、この際、申し上げます。ただいま議題といたしております議案第68号 大川市議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例及び大川市市長、副市長及び教育長給与等に関する条例の一部を改正する条例の制定についてから、議案第76号 令和6年度大川市下水道事業会計補正予算の以上9件に対する質疑を希望される方は、本日の一般質問終了後までに御通告願いますようお願い申し上げます。

それでは、これから昨日に引き続き一般質問を行います。この際、お願いいたします。

一般質問の発言時間につきましては、答弁を含め60分程度でお願いしたいと思いますので、この点、執行部におかれましても何とぞ御協力のほどをお願いいたします。

なお、感染症対策を講じている状況のため、1人の質問者が終わるごとに10分程度の休憩を取り、議場内の換気やアルコール消毒を行いますので、御了承のほどをお願いいたします。

それでは、順次……（「議長、質問します」と呼ぶ者あり）内藤議員、何でしょう。

**○9番（内藤栄治）**

いいですか、質問。

**○議長（遠藤博昭）**

はい、どうぞ。

**○9番（内藤栄治）**

私は昨日からこの一般質問の名簿を見ておりますけど、私たち会派4人は昨日、今日の6人の中には入っていない。これはやはり議運のとき、自分も議運に参加していたときはくじ引で決めていたわけですね。これもやはりくじ引で決めてあるやろうと思いますけど、このくじ引を議運のメンバー以外の方はどなたが出席されていたかを教えてほしいと思うんです。

なぜかという、私たち会派は4人、今日は6人、合計10人、昨日と今日、2日、2の10倍すると1,024分の1の確率なんですね、こういう確率になるのは。だから、確率が高いん

ですよね、大変難しいんですね、こういう数字が出てくるということは。

だから、このくじ引を引いたときの議運のメンバー以外の方はどなたが出席されていたかを教えてほしいと思うんです。

○議長（遠藤博昭）

分かりました。局長、答えられますか。

○議会事務局長（西原 真）

私のほうからお答えいたします。

まず、執行部のほうから総務課長、また庶務係長、議会事務局のほうから私をはじめ職員4名出席しております。

以上です。

○議長（遠藤博昭）

9番。

○9番（内藤栄治）

なら、市長たちは出席していなかったわけですね。

○議長（遠藤博昭）

市長は出席していらっしゃいません。9番。

○9番（内藤栄治）

今まで議運に自分が参加していたときは、全部市長も三役も出席していたけど、今回からそういうことはなくなったわけですか。

○議長（遠藤博昭）

市長、どうして出席されなかったかいうてお尋ねになっていますけど。（「知らないの」「ちょっと待って」と呼ぶ者あり）（傍聴席より発言する者あり）（「ちょっといいですか」と呼ぶ者あり）9番。

○9番（内藤栄治）

これはどうして出席されなかったというか、あの議運のときに、くじ引を引くときには市長とか三役とか全部おるところで今までしていたでしょうが。それで、なら帰ってくださいとって、帰ってからしたんですか。

○議長（遠藤博昭）

いやいや、市長が出席されなかったもので。なぜだろうと思ったけれども、出席されてい

ない分に関してどうこうできないじゃないですか。

○9番（内藤栄治）続

なら、ちょっと議運委員長にその経過をお願いします。

○議長（遠藤博昭）

川野委員長、御説明できますか。

○議会運営委員会委員長（川野栄美子）

議運の委員長の川野です。

市長出席はされなかったということでありますけれども、出席されなかったことは間違いありません。お越しにならないというようなことがありましたので、くじ引をしたんですけども、くじを私は引いたんですけど、それを議長が確認して、それがこういうふうなメンバー、1日、2日となったわけです。

これが何でこういうふうになったかということですけど、くじを引いた結果がこうだったということであります。

以上です。

○議長（遠藤博昭）

内藤議員、さっき確率と言われましたけど、ギャンブルじゃないんですから、しょうがないじゃないですか、そのときの。

○9番（内藤栄治）

だから、こういう高い確率の中で、こういう結果が出たからおかしいんじゃないですかと私は質問しているんですよ。確率がギャンブルとかなんかそういう言葉じゃないんですよ。

○議長（遠藤博昭）

だから、おかしくはありません。（傍聴席より発言する者あり）

○9番（内藤栄治）続

例えば言いよっとです。

○議長（遠藤博昭）

例えで言われても困るじゃないですか。

○9番（内藤栄治）続

何がですか。確率の問題よ。

○議長（遠藤博昭）

だから、それは数字上の問題で、結果がこうなったんだから、何もこの順番にそこまで言われる筋合いは何もないと思いますけど。（傍聴席より発言する者あり）よろしいですか。

じゃ、納得していただいたようなので。（「納得していないよ」と傍聴席より呼ぶ者あり）誰ですか。退席願いますよ。今の御発言どなたですか。（「はい」と傍聴席より呼ぶ者あり）退席してください。（「議長」と呼ぶ者あり）龍議員、何でしょう。

**○8番（龍 誠一）**

ちょっと今の案件で納得いかなかったもので、納得していただけますかということなんで、納得がいかなかったので手を挙げました。

さっき言われた中にちょっと腑に落ちんやったのが、今まで私はそういう形を取ったことがないのでよく分からないんですが、今までは市長、三役ともに参加してされていたということだったんですよ。

**○議長（遠藤博昭）**

出ていらっしゃいましたね。

**○8番（龍 誠一）続**

順番を決めるのにですね。

で、今回、結局市長は参加されなかったということだったですよ。なら、呼んだんですか。例えば、参加してくださいと呼ばれたんですかね。そこが今ちょっとはつきりしなかったんで、呼ばれて参加しないと市長が言われたならしょうがないんだけど、呼ばれてもおらんのに参加というのもおかしいじゃないですか。

今聞きよってそういうふうに思ったもんだから、ちょっと問いかけをやっております。分かりましたか、今私の。

**○議長（遠藤博昭）**

分かります。

**○8番（龍 誠一）続**

そこに確認ができとったかどうかですよ。ちゃんとそこに参加をするという確認が、参加するとかしないとかいう確認ができとったかどうかということをおちょっと問うて言いよるんですけど。

**○議長（遠藤博昭）**

議運の委員長、お答えできますか。

○議会運営委員会委員長（川野栄美子）

大体市議会は、今まで市長に来てくださいというような感じで言っていて、必ず市長とか副市長を呼ぶというふうなものはないわけです。議会は議会でちゃんとしたルールがあるわけです。だから、今度は市長がそういうふうなものでお越しに——そのところに来てくださいというふうな感じのもので議長を通じて言ったかなんか、ちょっとそこのにきは分かりませんが、今回はそういうふうなもので議運を始めるということでしたというわけでございます。

龍議員、分かりましたでしょうか。分からない場合にはまた後で言います。（「分かりません」と呼ぶ者あり）

○議長（遠藤博昭）

龍議員。

○8番（龍 誠一）

それならそれで、同じ議員なんだから、先に伝えればいいじゃないですか。おかしいでしょう。同じ議員ですよ。その議員がそういう内容を知らないって、そこがおかしいんじゃないですか。

○議長（遠藤博昭）

委員長。

○議会運営委員会委員長（川野栄美子）

議運ですよ、議会運営委員会、ここで決めるんですよ。

○議長（遠藤博昭）

龍議員。

○8番（龍 誠一）

だから、その議会運営委員会の内容等も同じ議員として知っとかなおかしいでしょうと言っているんですよ。それを勝手に、はい、前回の市長までは三役入れておりました、今回の市長から入れません。それはもう議運で決めることやけん勝手でしょうもんで、そんなばかみたいなことがどこにありますか。

○議長（遠藤博昭）

委員長どうぞ。

○議会運営委員会委員長（川野栄美子）

そんなことは言っていませんよ。よく聞いてください。

議会運営委員会は議会運営委員会をしなくちゃなりません。議会運営委員会の中で決めるわけです。みんな知らなくちゃなりませんと言うたら、議会運営委員会の中に入らない人は知らないということ、それは当たり前のことじゃないですか。代表ですよ、私は。代表で決めているんですよ。龍議員、そこはよく分かってくださいよ。

だから、あなたも入っていて、そこでおかしいというふうな感じだったらありますけど、議会運営委員会で、私が今代理でしていますけど、そうでしょうというふうに決めたんですからですね、それは議会運営委員会は議会運営委員会でやっていく、そういうことです。

**○議長（遠藤博昭）**

龍議員。

**○8番（龍 誠一）**

それはおかしいと思います。同じ議員として知っとくべきは知っとくのが筋でありまして、そして、結局その中で、議会の中で結局その形づけをしていくんじゃないですか、代弁者として。これは全体の考え方からして、市民の皆さんの代わりに結局私たちがやっているでしょう。

**○議長（遠藤博昭）**

委員長。

**○議会運営委員会委員長（川野栄美子）**

大川市の市議会の中に、この議会をうまくするために、各会派から2名ずつ、各委員会から2名ずつ、各委員会からと今、会派はちょっと失礼いたしました。各委員会から2名ずつ出ていますね。そこまで龍議員分かるでしょう。（「分かります」と呼ぶ者あり）その中で運営していくのは代表です。その代表の中で、委員長が箴島かおるさんでしたけど、箴島かおるさんが亡くなりましたので、私は副でしたね。だから、私はそれをやっているんですけども、そのときに、こうこういろいろ決めていくわけです。それは代表で決めている。

龍議員が分からなかったというなら、そこの中のあれでどうなっていますかというふうな、そこに委員長もいますので、その各ですね。だから、そういうふうなものを聞いてしなくちゃいけなかったんじゃないだろうかなと思います。

議会運営委員会はしっかりとしたルールでやってきたということは間違いありませんので、誤解しないようお願いいたします。

議長、以上です。

○議長（遠藤博昭）

はい。この問題は議員間の議会の運営に関する問題ですので、また後日、委員長に御意見があるときには、その中でお話をしてください。

それでは……（「はい」と呼ぶ者あり）何でしょう、龍議員。

○8番（龍 誠一）

分かりました。

○議長（遠藤博昭）

はい。

それでは、順次発言を許します。まず、10番川野栄美子議員。

○10番（川野栄美子）（登壇）

皆さんおはようございます。川野栄美子でございます。

今回私が一般質問いたしますのは、「大川の駅」の様々なことについてということですが、「大川の駅」のことについて、これを聞いてください、あれを聞いてくださいと、いろいろ聞かれました。でも、あまり多いものでございますので、今日は3つ選んで質問させていただきます。

もう12月になりまして師走です。1年たつのは大変早いものでございますけれども、1年間振り返ってみまして、この大川市、1年間どうだったろうかと思いますと、やはり今までなかったことは、大川市、市制をしいて今年で70年になるということでございます。昭和29年4月1日に合併いたしまして大川市が誕生いたしました。この誕生したときの人口が4万9,349人から発足いたしました。ただし、今は約3万1,000人と人口がずっと減ってきているということです。これは皆さん、既に御存じのとおりと思いますが。

そういう中に、第1代の市長さんとなられたのが龍野喜一郎氏、これが1代目の市長さんであります。龍野マツ子氏というのは大川市連合婦人会の第1代目の会長でありまして、夫は政治をする、妻は奉仕、今でいうならボランティア活動をされたということでございます。

この龍野マツ子さんが女性を代表してどういう活動をされていたのかといいますと、その当時は売春禁止法というものがありまして、そういうものがないようにというふうに盛んに活動されています。

それと、今でいうならば生活困窮者、戦争が終わって未亡人になった女性たちをどうやっ

てサポートしていくのかというふうなものをやっております。

今回は江藤市長が第11代の市長に当選されましたけれども、江藤市長は大体三又のお生まれでございますが、三又の中にも市長さんがたくさん出てあります。まず、中村太次郎さん、これは清力の社長さんでしたけど。中村晃生氏、それから倉重良一氏、そして江藤氏ですね。そういうふうには市長さんが出ているところであります。

この三又の中に鐘ヶ江というまちがありますが、ここに中村太次郎さんの御先祖さんになります中村綱次さんという方がいらっしゃって、この方がたくさんお酒を売って、お金持ちになって、このお金で鉄道を敷いたり、銀行をつくったり、それはそれは大川のまちづくりの基礎をつくった方です。この方が、やはり晃生さんの御先祖さんになりますけれども、ある日、そこに落ちていた成績表を見て、わあ、ここにもこんな成績のいい人がいる、これはもったいないから東京に行って大学まで出してやろうという、今でいうなら奨学金、こういうふうなものを出して、中村晃生さんはそういうふうには恩恵があったから、ここに来て市長をしたいというふうな感じがあったんですけれども、そういうふうには、やっぱり市長になるということだったら、この大川を何とかしたい、いい方向に持っていきたい人がやはり手を挙げて市長になられたわけでございます。

今70周年と言いましたけど、もう一つ、1年を振り返ってみますと、大川市市長選挙、これは今でもいろいろ、昨日から一般質問があっていますが、なかなか市長選挙で「大川の駅」をどうするかということになりまして、していますけれども、選挙で一番大事なことは、どこをポイントに見るかということ、これがとっても大事だと思います。この大川のまちをどう変えるのか、この大川のまちがどう変わるのか、この選挙のポイントはここだろうと思うわけです。

前市長、倉重市長は、どう変えるのかといたら、「大川の駅」を造って、そして、にぎわいと稼ぐ力、そして、将来の子どもたちにつなげたい、これをしないといけないだろうと。どう変わるかというのは、造って、これからこう変わりますよというふうなところでいったんですけれども、どう変えるかというところで、選挙で負けてしまったということでありませぬ。

江藤市長はどう変えるかというところに、やはりあそこは莫大なお金で、みんなはこんな生活をしているのに、あそこはそういうふうなものをしてはいけないじゃないだろうかというので、簡単に申し上げておりますけどですね。

何でそんなふうになるのかといたら、選挙は皆さん平等です。1票ずつ票を持っています。これは平等ですね。そして、選挙の平等の中に正義の平等というのがある、正義の平等。選挙権もそうですけど。それと、精神の正義の平等。精神的にどう思うのか、お金、どう思うのか。これが選挙の中で一番大事なものと私は思っています。

だから、あそこの「大川の駅」にあんなお金を使ってする、私たちはこういうふうな生活をして、あんなところ、橋渡って、何で道の駅のところに買物ができるか、そんなふうなものじゃなくて、もう少し自分たちの生活を楽にしてよというふうな感じですね。

精神の平等をすると、あそこはこんなになった、私はこうなの、冗談じゃないよというふうなものがある。こういうふうなもので選挙は負けたんじゃないだろうかなというふうには思いました。

これから江藤市長は、今さっき言いましたように、どう変えるのかというのは、もう選挙できちっと分かりましたので、これからどう変わるのかというのをやっぱりしていかなきゃいけない。これはどう変わるのかというふうなものをいろいろと提案をしてこられるだろうと思います。その提案を、市議会もよかった場合にはどんどん押して、そして、みんなのためになるようにするのは議会の仕事でありますので、一生懸命それはさせていただきますと思います。それは江藤市長に十分そのにきは応援をしてまいりたいと思いますので、どう変わるのかというふうなものの御意見をたくさんいただいて、具体的にこういうふうなものをしたい、こんなものをしたいということをたくさん出していただきたいと思います。

その中で、今日私が質問いたしますのは、「大川の駅」の様々なことについてと、様々なことといって何をされるだろうかと思って、市長もこんな失礼な発言をと思っていらっしゃるかも分かりませんので、今日はぎゅっと絞りましたので、何を質問するかということをお願いしたいと思います。

まず、「大川の駅」計画反対の署名、再提出の署名、これについてまずお伺いします。

2つ目に、新聞の記事による跡地利用について質問いたします。

3番目に、市報11月号に掲載されました市長の挨拶についてを質問したいと思います。

では、質問いたしますのは質問席において質問させていただきます。

それでは江藤市長、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

○議長（遠藤博昭）

10番。

○10番（川野栄美子）

江藤市長、ここに資料をちょっと持ってきていますけれども、おやりでしたらこれを差し上げたいと思いますが、どうなさいますか。要りますか、要りませんか。——要りませんね、はい。

11月1日に市長は、大川市の将来を考える会が集めた「大川の駅」事業計画の反対署名を受け取られました。このことについて質問いたします。

この署名は市長が就任前、中心となって集められたものですか。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

中心という意味がよく分かりません。前もってそういうのを言っていただくと考えておきますけど、何で前もってそういうのを言っておいてくれないんですか。中心てどういう意味ですか、中心というのは。

○議長（遠藤博昭）

10番。

○10番（川野栄美子）

中心も分からないんですか、中心。分からないんですか。（「分かりません」「漢字もいろいろある、中心」と呼ぶ者あり）

江藤市長、資料は要らないとおっしゃいましたが、ここに書いてあるとをここから言いますので、これを見て思い出してください。3点ありますので、ちょっと見てください。

就任前で集められたものですから中心はのかしまして言います。

○議長（遠藤博昭）

今の質問分かりましたか。市長。

○市長（江藤義行）

いや、分からない。何を言っているのか分からない。全然分からない。

○議長（遠藤博昭）

就任前に集めた……

○市長（江藤義行）続

ちょっと待って。もう一回説明、あなた説明しなくて。何を言っているのかよく分からな

い。

○議長（遠藤博昭）

10番、お願いします。ゆっくりお話ししてください。

○10番（川野栄美子）

はい。11月1日に大川市の将来を考える会が集めた「大川の駅」の事業計画反対署名がありましたね。

○議長（遠藤博昭）

いいですか、それで。

○10番（川野栄美子）続

ありましたね。（「ありましたねて何ですか」と呼ぶ者あり）

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

川野議員が言われていることがよく分からない。滑舌が少しおかしいんじゃないですか。ありましたねとか急に言われても、前もってそれを言っておかれると私がきちんと確認しておきますけど、私もいっぱいいろんな仕事があって、ありましたよとか言っても、何がどこに、どういうものがよく分からない。だから、もう答弁しかねます。前もって言っとしてそういうのを出してもらうときちっと準備しますが、ほかにもおられます。川野議員のために周知しているわけじゃないんです。だから、前もって出してください。

○議長（遠藤博昭）

10番。

○10番（川野栄美子）

これはもらったでしょう、新聞に載っていたじゃないですか。それも忘れたんですか。それを言っているんですよ。もらいましたね。もらったかもらっていないか言ってください。

○議長（遠藤博昭）

市長、受け取ったか受け取っていないかです。

○市長（江藤義行）

署名用紙を、新聞を受け取ったという意味ですか。（「何で新聞ね」と呼ぶ者あり）

○議長（遠藤博昭）

もう一度ゆっくり説明します。10番。（「ゆっくり」と呼ぶ者あり）

○10番（川野栄美子）

ゆっくり言いますね、ゆっくり。江藤市長、よく分かるように。

江藤市長、その考える会が反対署名を市長に持ってこられましたね。持ってこられたでしょう。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

川野議員ね、そんなふうにゆっくり言ってください。言わないと、あなたはもう早過ぎるもん。もうぺらぺらぺらぺら、本当早過ぎる。何かほかのことを言っているかと思えば、次のことを言ったりして、もうぺらぺらぺらぺらしゃべるから早過ぎて私自身が理解できないんですよ。

○議長（遠藤博昭）

市長、質問に答えてください。

○市長（江藤義行）続

いや、だから理解できないということを言っているんですよ。

○議長（遠藤博昭）

だから、ゆっくりお話しされたじゃないですか。

○市長（江藤義行）続

議長も少し中立になってくださいよ。もう少しゆっくりして、ポイントだけ言ってください。そうしないと、ほかにいろいろ言うからよく分からない。受け取りました。

○議長（遠藤博昭）

10番。

○10番（川野栄美子）

このゆっくりというのは、私、先ほど市長が言われたのを聞いていましたけど、やはり市長はゆっくりですね。だから、そのペースで言えばいいということが分かりましたので、ゆっくり、分かりやすく今から言わせていただきます。

それでは、ここに集められたこの用紙があったと思います。そこに「100億円を大幅に超える「大川の駅」計画の見直し・撤回を求め、署名活動を行う」との趣旨が新聞に書かれて

いました。そして、「身の丈に合わない巨大事業、政策決定のプロセスが闇の中、将来の市の負担も闇の中」と書いてあります。

市長にお尋ねいたします。100億円を大幅に超える事業費とは幾らのことですか。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

先ほども申しましたように、通告外案件になっています。タイトルだけです、あなたがそれを通告外案件のために答えられません。

○議長（遠藤博昭）

10番。

○10番（川野栄美子）

江藤市長に言います。それは答えられないから、そういうふうなものを通告外とおっしゃっているんですか。そう聞こえますよ、市長になったら何でも答えるような前向きの姿勢をしないと駄目ですよ。教えてください。（「言うほうがおかしい」と呼ぶ者あり）

分かりました。具体的なお答えがありませんでしたので、何もやっぱり100億円を超えるというふうなもののお答えは、またゆっくり市長にお尋ねをしたいと思います。そして、こうやったということを皆さんに知らせたいと思います。

それでは、次の質問に入ります。

署名を集められましたが、その署名はどれだけの署名を集められましたか。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

どのぐらいあったかな。ちょっと記憶にないんですけど、8,400ぐらいではなかったかな。ちょっと詳しくは覚えていないですよ。だから、8千五、六百かな、そこらぐらいだったかなというふうに記憶しています。

○議長（遠藤博昭）

10番。

○10番（川野栄美子）

新聞には約8,400人分、市長、そこに資料をやっていますからそれを見てくださいよ、そ

この新聞に書いてありますから。今やった中に書いてあります。約8,400人分の署名があったということですね。

そこを見ますと、「18歳以上で大川市在住の方で自筆でお願いします。」と書いてあります。見てください、そこに書いてあります。

ここで質問しますけれども、受け取られたものの18歳以上で大川市在住であると確認をされましたか。確認をしたかしていないかお尋ねいたします。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

私は確認しました、私は。

○議長（遠藤博昭）

10番。

○10番（川野栄美子）

18歳以上で、それは全員合っていましたか、それは確認されて。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

私の記憶では合っていると思います。ただ、私はあんまり集めていないんですよ、私自身が。だから、記憶にはないんですけど、合っていると思います。

○議長（遠藤博昭）

10番。

○10番（川野栄美子）

18歳以上で大川に在住している人は大体それぐらいで合っているんじゃないだろうかという今のお答えでしたね。

では、これは自筆で書かなくちゃいけない、自分で書かなくちゃいけないという、その字の確認はされましたか。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

私は確認しました。

○議長（遠藤博昭）

10番。

○10番（川野栄美子）

どうでしたか。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

それは、今ははっきり覚えていないけど確認できたと思っています。

○議長（遠藤博昭）

10番。

○10番（川野栄美子）

江藤市長たちが、前の市長に署名を持っていかれましたね。そしたら、受け取れないと言って一時預かりになりました。一時預かりのときには、私もそれをちょっと見せてください、どうなっているんですかと言ったら、いや、これは預かりだから見せられませんと。今度は市長自らお取りになりましたですね。これはやっぱり8,400、本当だったのかどうだったか、これは確認する必要があります。

議会はやっぱりそれはいいかげんはできないと思いますので、確認したいと思いますので、これが正確な署名だったか、自分で書いたかということ、もう一度市長、確認して、議会にお知らせ願いたいと思います。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

川野議員、私が確認するんですか、私が。えっ、私に確認せろと言っておられるんですか。

○議長（遠藤博昭）

10番。

○10番（川野栄美子）

市長のところにあるからですね。議会が確認していいですか。（「個人情報よ」と呼ぶ者あり）

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

やっぱり様々なことに悪用されるおそれがあるから、恐らくそれはいろんな方に私自身の、私は受け取っただけだから、私自身の判断ではできません。

○議長（遠藤博昭）

10番。

○10番（川野栄美子）

おかしいじゃないですか、市長が受け取ったんですよ、これは。受け取ったんです、これは市民ですね。これが8,400かどうかは、まだ自分が確認したって分からないじゃないですか、数字を。それをはっきりするということはとても大事なことですよ、これは。（「個人情報よ」と呼ぶ者あり）

議長、個人情報を乱すようなふうな感じのものはありませんよ、これは。議会は市民代表ですからですね。（発言する者あり）

○議長（遠藤博昭）

答えますか。市長。

○市長（江藤義行）

何を言っているかよく分からない。

○議長（遠藤博昭）

よく理解がなされていないみたいですので、もう一度。

○市長（江藤義行）続

もう少しね、軟らかく言ってくれませんか。ゆっくり言ってください。議長、そこら辺……。

○議長（遠藤博昭）

はい。10番。

○10番（川野栄美子）

ゆっくり言え、ゆっくり言えと言いますが、どれくらいゆっくり言えばいいのでしょうか、そのところですね。

市長が8,400……（発言する者あり）

○議長（遠藤博昭）

大きい声でゆっくり言ってください。（「怒らんで言ってください」と呼ぶ者あり）

○10番（川野栄美子）続

怒りませんよ、そんなところで怒らんで。江藤市長にはこんなに優しく言っている。私はもっと厳しく言いますよ。今日は非常に優しく言っています、私は。（発言する者あり）違う違うと言って笑っていますけど、本当ですよ。江藤市長は同じ三又ですから、そんなに怒るもんですか、私は優しく言いますよ。

じゃ、ゆっくり優しく言いますね。

江藤市長、8,400というふうなものを受け取りました。これが18歳以上で、ここの大川に住んでいる人か、そして、自筆で書いているのかというふうなものを市長、もう一度確認し、それは人事秘書課の方に確認してくださいと言われても結構です、市長がしなくてもいいだろうと思いますので、確認をしてもう一度、それが本当でした、いや、違っていましたというふうなものを議会のほうまでいただきたいと思います。よろしいでしょうか、お分かりでしょうか。（「検討する」と呼ぶ者あり）

○議長（遠藤博昭）

どうぞ市長。

○市長（江藤義行）

検討します。よろしいですか。

○議長（遠藤博昭）

10番。

○10番（川野栄美子）

検討されるということでございますので、期待しております。ぜひお願いしたいと思いません。御検討のほどよろしくお願い申し上げます。

それでは、次の質問に移ります。

これも西日本新聞とか有明新報の記事によりますと、「大川市の将来を考える会の代表が、跡地利用も考えてもらえば市民に希望を与えられると要望した。」とありました。市民に希望を与える「大川の駅」の事業を中止させたので、その代わりとして跡地利用を要望されたということになりますね。跡地利用として、何をどう考えているのかということをお聞かせ願いたいと思います。

○議長（遠藤博昭）

分かりましたか、今の。市長。

○市長（江藤義行）

川野議員、もし本当にそんなことを質問されるなら前もってですね、私もその新聞も見えていないし、前もって通告していかないと、新聞は見えていないしですね。ほかの方にもいっぱいあるから、前もって言ってもらうときちんと答えられると思います。

○議長（遠藤博昭）

10番。

○10番（川野栄美子）

そこに新聞を置いているじゃないですか。それ見てくださいよ。だからそこに持ってきているじゃないですか。見てください。持って見せましょうか。（「前もってせにゃ、前もって」「前もって」「今じゃあるもんね」「前もって」と呼ぶ者あり）

○議長（遠藤博昭）

川野議員、お席へ戻ってください。10番。

○10番（川野栄美子）

これは、市長から前もっていろいろ言ってくださいということでありますけれども、やはり市長、これをなかなか言いたくないというようなものが何か伝わってきました。だから、もう聞きません。

○議長（遠藤博昭）

市長どうぞ。

○市長（江藤義行）

やっぱりいっぱいあるもんですからね、川野議員、あなたみたいにベテランじゃないですよ、私はまだなつたばかりです。ですから、何度も言うように、前もって言ってもらって助かります。

○議長（遠藤博昭）

10番。

○10番（川野栄美子）

江藤市長、あなたもベテラン、会社の社長さんやったやなかですか。私たちよりも世間いろいろなものを経験しているでしょう。これを前もって前もってせろというような感じ、私は江藤市長がそういうことを言われるということが信じられなかった、もう本当。いろいろ

なものに積極的に答えるというふうに前向きの市長であってほしいと思いますよ。

今から市長になってありますから、やっぱりそれをして、前もって言ってから、前もってというような感じのものを言われるのは非常に残念でございます。残念、私は。江藤市長にすごく期待しておりましたけど、もう本当に残念であります。

じゃ、前もって言ったほうが良いということだったら、3日前ぐらいから前もって言います、私は。3日前か1週間前から言います。（傍聴席より発言する者あり）えっ。（傍聴席より発言する者あり）そりゃ分かつつ。

○議長（遠藤博昭）

うるさいですよ。

○10番（川野栄美子）続

分かって言っております。いろいろ言わんでくださいね、議長、静まらせてください。

○議長（遠藤博昭）

静粛にお願いします。

10番。

○10番（川野栄美子）

昨日、一般質問にもありましたけど、この「大川の駅」、経緯検証で諮問委員会などを設けるとかいうふうな感じで言ってありましたが、本当にそれは設けられるんですか。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

まだ構想段階で、数日したらお知らせすることができると思います。

○議長（遠藤博昭）

10番。

○10番（川野栄美子）

私ですね、市長、これだけはちょっと聞いておきたいなというのが1つだけあります。

選挙のときでしたけど、跡地のところ、大野島の件ですけど、整備予定地は軟弱地盤で、高潮のハザードマップが真っ赤で、こんな大野島になぜ大規模な計画を進めるのかということですね。大野島が非常に軟弱地盤で、高潮が入るということで悪いということを盛んに言ってありましたけど、大野島のどこが悪いですかね、ちょっとお聞かせください。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

川野議員、それももう少し前もって事前通告していただくと助かります。ただ、あまりにも金額が大き過ぎると。軟弱地盤対策にお金がかかると。それはもう川野議員も御存じだと思いますけど、そういう意味があったと思います。

○議長（遠藤博昭）

10番。

○10番（川野栄美子）

じゃ、そういうところでお金がかかるから駄目だと言ってあって、大野島自体が悪いとは言っていないわけですね。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

様々な御意見があります。しかし、民意が出ています。それをぜひ御理解いただきたい。ただそれだけです。

○議長（遠藤博昭）

10番。

○10番（川野栄美子）

それでは、次の質問に行きたいと思います。

次、そこにも市長が市報に御挨拶を書いた文も入っていますが、11月に掲載されている市長の挨拶の文について質問いたします。

この市長挨拶の原稿を作成されたのはいつですか。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

いつって、出す前ですよ。出す前というか、ずっと刻々少しずつ変化していますから、いつしたというのは、いろいろやっぱり変化があります。だから、確定的にいつというのは申し上げられません。

○議長（遠藤博昭）

10番。

○10番（川野栄美子）

はい。それでは、質問を変えますね。

市長就任の11月23日の前ですか、後ですか、これだけ教えてください。（「11月」と呼ぶ者あり）10月。（「11月23日」と呼ぶ者あり）

取り消します。10月23日の。（「10月」と呼ぶ者あり）10月です。失礼しました。

○議長（遠藤博昭）

市長どうぞ。

○市長（江藤義行）

いや、それもちょっと時間的には、私もこれだけ年齢を重ねているものですから、記憶がそこら辺の前後が定かでないんですよ。本当、それはもう御理解いただきたいと思います。

○議長（遠藤博昭）

10番。

○10番（川野栄美子）

市長、あなたは77歳で、こんなに元気で、今日はこんなに年を取っているからと、いいかげんに言葉を使わないでくださいよ。議会のときは真剣に考えてください。年を取るのそれは自然だから仕方ありません。でも、市長、再度申し上げますけどね、やっぱり市長と議員はボールを投げたり、もらったり、出したり、こうするわけですね。そして、両輪のごとくとなっています。これをやっぱり、ああ、どうしようと、私たちに本当に一生懸命答えていただいてというふうな感じになると思いますが、そんなふうな感じで言われますと、どんどん間が外れてしまうやないですか。そんなことはやっぱりいけないと思います。

お年を召して、そしてするというふうな感じのものは、議会はもうそんなふうな感じで年は関係ありません。若い人も年配も同じだと思いますので、その言葉だけはお使いにならないほうが私はよろしいんじゃないだろうかなと思います。

私、市報がやっぱり締切りがありますので、よく覚えてください。これは10月23日の前に私は出されたんじゃないだろうかなと思います。

○議長（遠藤博昭）

仁田原人事秘書課長。

○人事秘書課長（仁田原敏雄）

市報の原稿締切りということで、就任前ではございましたけれども、江藤市長のところに訪問させていただきまして、市報の原稿作成について御依頼をさせていただいております。できましたら15日の週にいただけないかということでお願いをしてみました。

○議長（遠藤博昭）

10番。

○10番（川野栄美子）

だったら、前ということですね。就任される前に原稿を頂いたということになりますね。

○議長（遠藤博昭）

仁田原人事秘書課長。

○人事秘書課長（仁田原敏雄）

はい、そのとおりでございます。

○議長（遠藤博昭）

10番。

○10番（川野栄美子）

はい、分かりました。

では、市長、挨拶の文に「建設会社が予算が合わないことを理由に参加辞退の表明」とありますが、参加表明した建設会社が辞退したということを就任前に知っていたということになりますね。どうですか。（「私が言うた」と呼ぶ者あり）

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

これは……（「議長、それは注意せないかんばい」と呼ぶ者あり）

○議長（遠藤博昭）

はい。どうぞ市長続けてください。

○市長（江藤義行）続

よろしいですか。

○議長（遠藤博昭）

はい、続けてください。

○市長（江藤義行）続

ああいう言うのはいいんですか、ここは。やじみたいなのは。

○議長（遠藤博昭）

いやいや、左のほうから要らぬことを言うたから注意しなさいと言われたんです。

○市長（江藤義行）続

ああ、そういうのはいいわけですね、僕が言おうとしたのに。

○議長（遠藤博昭）

いやいや、だから市長、止めて発言をお願いしますとお願いしたわけです。市長お願いします。

○市長（江藤義行）続

この経緯については、議員に私、求めていいんですか。私が……。 （「議長、市長に質問していますのに、何でそこで話すんですか」と呼ぶ者あり）

いや、じゃ、私が聞いたことを説明いたします。

ある辞退された会社の管理会社という——私が聞いたことですよ。管理会社が東京にあるそうです。その東京と取引している地元の会社の方が、もうこれは全然価格が合わないというところで、選挙の発表のある前に通達があったそうです。そして、29日かな、ちょっと時間的にはですね。そして、その週か何かはその大元の会社の方が辞退届を出されたというふうに聞いています。だから、選挙期間中にそれがあって辞退された。そして、私どもも——一応それでよろしいですか。すみません、もし何かもうちょっと詳しく言ってと言われれば、ちょっと聞いて、言っているものかどうかを聞いて、また発言したいと思います。

○議長（遠藤博昭）

10番。

○10番（川野栄美子）

つまり、支援者を通して参加予定だった建設会社と接触をしていたということですね、そんなふうな聞いたということはですね。

○議長（遠藤博昭）

今の意味はわかりますか。 （「いや、分かりません。接触していた、私が」と呼ぶ者あり）  
市長。

○市長（江藤義行）

接触していたという意味ですか。（「はい」と呼ぶ者あり）いや、していませんよ。  
（「聞いていたと」と呼ぶ者あり）ただ単に情報が入っただけです。それは接触になりますか、情報が入っただけで。接触というのは川野議員と僕が今しているように、こういう格好で相対で話すのが接触じゃないですか。

○議長（遠藤博昭）

10番。

○10番（川野栄美子）

じゃ、聞いたて、電話か何かで聞いたんですか、それを聞いたのは。（「これは」と呼ぶ者あり）

○議長（遠藤博昭）

市長、発言は立ってお願いします。市長。

○市長（江藤義行）

これは——言っていていいんですか。（「言ってくださいよ」「議長、ちゃんと注意せんとさ、市長が何で一々尋ねにやいかんとですか」と呼ぶ者あり）

○議長（遠藤博昭）

そうですね。議場内で別の議員に尋ねるのはおかしいですよ。

○市長（江藤義行）続

それは、ここにおられる内藤議員からそういう情報が入ったということをお聞きしました。

○議長（遠藤博昭）

10番。

○10番（川野栄美子）

じゃ、遠藤議長、後ほど内藤議員に聞きたいことがありますので直接聞きたいと思いますので、議長も御参加の上、聞きたいと思います。

○議長（遠藤博昭）

立ち会えということですね。

○10番（川野栄美子）続

御協力のほどお願いいたします。よろしいでしょうか。

○議長（遠藤博昭）

はい、分かりました。続けてください。

○10番（川野栄美子）続

はい。

では、次の質問、同じですけど、市長は木材とか家具とか建具、建材、それから、販売や輸入事業、住宅事業を行われていたとお伺いしていました。

「大川の駅」の事業にグループの一員として参加を検討されたことがありますか。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

全くありません。

○議長（遠藤博昭）

10番。

○10番（川野栄美子）

分かりました。全くないということですね。はい。

江藤市長もその中に一回ぐらい検討されたことがあるんじゃないだろうかなとお聞きしましたので今の質問をしましたが、全くないということで、それを全くないということをお伝えしたいと思います。

もうちょっと、あと5分になっていますけど。

○議長（遠藤博昭）

いえいえ、まだ大丈夫ですよ。

○10番（川野栄美子）続

あ、10分までですね。

○議長（遠藤博昭）

20分まで結構です。

○10番（川野栄美子）続

あ、20分まで。

一度も検討したことがないという御返事をいただきました。少し安心しました。建設会社と参加を検討したことがないということも聞きましたのでですね。

「大川の駅」の事業に参入はとても大事なことでありますけれども、その前にやっぱり知っていて、市長の文にそのように書かれたというふうなものが分かりましたので、いや、

これはちょっとどうかということ、内容を内藤議員にまたしっかりと聞きたいと思います。

○議長（遠藤博昭）

ちょっと待って、まだ続いていますので。

○10番（川野栄美子）続

いいですよ、どうぞ。

○議長（遠藤博昭）

市長、はいどうぞ。

○市長（江藤義行）

川野議員、何言っているか分からない、あなたが何を僕に言おうとしているのか。何かぐじゅぐじゅと言って、もうちょっとはっきり言ってもらわないとですね。ぐじゅぐじゅと言われるからよく分からない。

○議長（遠藤博昭）

10番。

○10番（川野栄美子）

江藤市長もね、あれでしょうが、あなたが言うのに私ば言う段ではないでしょうが、あなたのことも考えてくださいよ、私に言える立場ですか。（「ゆっくりゆっくり」と呼ぶ者あり）ゆっくりゆっくりと言ってね、どれくらいゆっくり言えばいいですか、ちょっと見本を見せてください。（発言する者あり）どれくらいゆっくりか見本を示してください。

○議長（遠藤博昭）

川野議員、それはなかなか難しいんで、それを質問されても。（発言する者あり）10番。

○10番（川野栄美子）

はい、分かりました。ちょっといろいろと申し上げたいことがございますけれども、この挨拶文の中に、やっぱりそういうふうなものを検討したと——ちょっともう一回読んでみましょうかね。ちょっと読んでみますよ。

「今回の市長選挙は、「大川の駅」計画の是非を問う選挙であり、私たちの大川市の将来を左右する重要な選挙となりました。多くの皆様がこの計画に反対の声を上げ、約7,000筆の署名が集められました。しかし、残念ながらその署名は受け取られないままでした。この署名は私が責任を持って預かり、真相解明を含め、しっかりと対応してまいります。「大川の駅」計画につきましては、公募に参加予定だった建設会社が予算が合わないことを理由に

参加辞退の表明をしており、大幅に予算が上がる可能性があったことがうかがえます。公約にも掲げていましたとおり、「大川の駅」大野島建設の撤回、そして、見直しを進めてまいります。」と書いてあります。

これが公募により参加予定だった建設会社の予算が合わないということは、選挙のすぐ、その就任前にこれを聞かれたということを今さっきはっきりおっしゃいましたね。それは本当ですか。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

これはきちっとした責任者に、皆さんが、副市長もお辞めになり、教育長もお辞めになり、それで私たちは引継ぎをすることができなかつたんですよ。ですから、きちっと確認をして、さっき内藤議員から聞いたことの真偽とかそういうのを確認して、そこで載せていると思います。

○議長（遠藤博昭）

10番。

○10番（川野栄美子）

市長就任の挨拶の中に、それをしていない前に、「公募に参加予定だった建設会社が予算が合わないことを理由に参加の辞退を表明しており」と、これは議会も全然知りませんが、どこからどうなっているんだろうか。こういうふうなものを載せたら駄目ですよ。どうぞ。

○議長（遠藤博昭）

市長お願いします。

○市長（江藤義行）

強いですね、川野議員の言葉は。私みたいな新米にそんなに怒られるとですね、川野議員の顔が怖い。本当に怖いです。

それで、このことについては私どもも非常に迷いました。普通一般に工事費というのは、大体5年ぐらいすると、6割、7割、ひよっとしたら倍ぐらいになるんですよ。だから、常識的に以前の見積りは2割か3割ぐらい上がるのが当然なんです。だから、それはもう納得できるというふうで、そして、道の駅の、まあまあ最高責任者というか、その方からも聞いています、それは。しかし、ちょっとこういう議会ですから、聞いていますと、誰それ

とは言えません。

○議長（遠藤博昭）

10番。

○10番（川野栄美子）

議会だからこそ言うべきじゃないですか。議会だからこそ本当のことをです、私は思います。

今、市長が川野議員は怖いと言いましたけどね。（「怖い」と呼ぶ者あり）怖いという……（「あなた、眼鏡を外すといいかも……」と呼ぶ者あり）

○議長（遠藤博昭）

ちょっと雑談はやめてください。御静粛に。

○10番（川野栄美子）続

市長、人のことをそんなふうな感じでから、議会ですよ、みんな聞いています。そんなふうな感じで言う市長はいませんよ、そんなところはですね。怖いでいいですよ、怖いですから、それは当たり前なことだろうと思います。優しくありませんので。ばちばち聞いていきます。

この件はやっぱり内藤議員も知っていらっしゃるということでもありますので、よく、議長も入っていただくということで、これはどんなになっているのかということをしつかりやっぱり真相を分かるような感じでしていきたいと思いますので、江藤市長もどうぞ御協力のほどお願いいたします。

今日は質問を3つだけするというふうなことでしましたので、今日はこれくらいにしてやめたいと思いますけれども、市長に申し上げたい言葉があります。やっぱり議会運営、これから市長としてやっていかれる場合に、昨日ちょっとテレビを見ていましたので、テレビのコマーシャルの中に「そこに愛はあるんか」という言葉がありました。やはりそれだろうと思います。

市長、いろいろ今から大きく市長になっていかれると思いますが、そこに愛はあるのかと、やっぱりそこに愛がないとなかなか難しいところがあるだろうと思いますので、この言葉を市長にお贈りして、一番意地が悪いと言われました川野栄美子の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（遠藤博昭）

ここで暫時休憩いたします。

午前10時12分 休憩

午前10時26分 再開

○議長（遠藤博昭）

休憩前に引き続き本会議を再開し、一般質問を続行します。

次に、4番馬淵清博議員。

○4番（馬淵清博）（登壇）

皆さんおはようございます。今日も傍聴の方がお見えになっております。一般質問という形で議員が市長に質問をする、行政に質問をする、これはちゃんと決められたことでもありますので、通告に従いまして、市長の考えなり行政の考えを伺いたいと思いますので、市長、その点はよろしく願いをいたします。

江藤市長におかれましては、去る9月29日に行われました市長選挙で第11代市長として就任をされました。12月議会初日の2日の日、一部新聞でも報道されておりますけれども、大きな課題のある中での就任ですが、大川市民の皆様の負託に応えるべく、私の持てる力の全てを傾け、市政発展に努めていきますという挨拶をなされました。その後、所信の一端を話され、大川市政に対する思いや問題点、また、諸政策、施策を述べられました。就任直後の挨拶では、市長室のドアはいつでも開けているので、市のためになることはぜひ話しに来てほしいとも話されたそうです。最後のくくりとして、どんなときにも市民の皆様の声にしっかりと耳を傾け、それを市政に反映するという姿勢を忘れずに次の世代へ公平公正で明るい大川市をつなげてまいりますと結ばれました。

これからも多様な意見、応援の意見、助言の意見、苦言などあるかと思えます。市長室のドアはいつも開けられているということですが、いつでもどんなときでもしっかりと市民の声をお聞きになり、市政の発展に御尽力をいただきたいと思います。

壇上での発言は以上とさせていただきます。

これから質問に移りますが、通告に従いまして質問席にて質問を行います。どうぞよろしく願いいたします。

○議長（遠藤博昭）

4番。

○4番（馬淵清博）

それでは、通告に従いまして質問をしたいと思います。私もどちらかというところちょっと早口になってしまうものですから、できるだけゆっくりとお話をしたいと思います。

それではまず、消滅可能性自治体ということから質問を行いたいと思います。

消滅可能性自治体、よく御存じない方もおられますかと思いますが、市長はお勉強になられましたか。——はい、いいです。分かりました。お聞きになりましたということですね。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）（登壇）

以前ありました判断基準と今回の判断基準は、どこがどう変わったのかがよく分からなかったもので、一応担当事務局と昨日いろいろ打合せをして、消滅可能性の自治体、質問があっているように、こういう疑問については昨日一応打合せして、私の答弁をまとめてもらっています。だから、一応野中課長のほうから答弁するようにしています。

○議長（遠藤博昭）

4番。

○4番（馬淵清博）

答弁のことはいいです。私の質問を聞いてからお答えいただきたいと思いますので、消滅可能性自治体ということをよくお分かりかどうかだけお聞きしたいと思いますが、分かりますか。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

それはもう分かっています。

○議長（遠藤博昭）

4番。

○4番（馬淵清博）

ありがとうございました。

質問をする打合せのときに、こういう質問をしますからということで、地方自治体「持続可能性」分析レポート、これを事務局のほうに渡して、事務局が市長のほうに見ていただいたというふうに伺っております。

それでは、そういうことで質問を続けさせていただきます。

御存じない方もおられるかと思しますので、ちょっと簡単に説明したいと思います。

これは2014年、10年前になりますけれども、日本創成会議という普通の民間の会議体ですけれども、そこが日本の地域別将来推計人口というのに基づいて、将来の自治体の人口の動きを推測して発表したものです。その将来推計人口における20歳から39歳の女性の人口、若年女性人口といいます、その将来の動きに着目し、この若年女性人口が減少し続ければ出生率は下がると。そういうことで、また人口の減少が止まらなくなるという定義で推測をされたものです。

2010年から2040年までの30年間で50%以上半減すると仮定すると、その地域では、70年後には人口は2割、100年後には1割程度にまで減っていくと。そして、最終的には消滅する可能性があるのではないかということで、消滅可能性都市という名をつけられ、そのリストが発表されました。その当時は通称増田レポートと言われて、どこの市町村も増田レポートに関心を持ったところがございます。

そのとき、全国約1,800市町村のうち896の自治体が該当するとされました。この中に大川市も含む筑後の5市、大牟田、柳川、みやま、八女も含まれております。該当した自治体では、人口減少、特に若年層が減るということで、単純な人口減だけではなくて、地域の労働力や経済活動が低下をし、地域社会の維持が困難になるなど複合的な要素も含まれる場合があるとして、かなり影響を与えたと考えます。

ここで質問をいたしますが、当時、当該自治体、大川市も含むところには何らかの影響があったと考えますが、大川市としてそのときに特別な施策とか、増田レポートに対して施策とか取組とかをされましたでしょうか、お伺いいたします。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

野中課長が昨日から話合いしてまとめていますから、野中課長に答えていただきます。

○議長（遠藤博昭）

4番。

○4番（馬淵清博）

分かりました。それでは、ちょっと後でまたお話をしたいと思います。

重要な点は野中課長に答えてもらうということで結構ですが、ポイントとして市長にお尋ねしたいことがありますので、またそのときは市長、よろしく願いいたします。

○議長（遠藤博昭）

野中企画課長。

○企画課長（野中貴光）

お答えいたします。

2014年11月にまち・ひと・しごと創生法が制定され、この法律に基づきまして、国では日本の人口の現状と将来の展望を提示するまち・ひと・しごと創生長期ビジョン及び今後5年間の国の施策の方向を提示するまち・ひと・しごと創生総合戦略を策定されております。これを受けまして、本市でも2015年度に第1期総合戦略を策定しております。ただ、それ以前よりも様々な施策を総合計画に位置づけ、人口減少対策等に取り組んできております。

したがって、2014年に民間機関の日本創成会議により発表された消滅自治体の発表を受け、人口減少対策を新たに始めたわけではございません。発表以前より様々な取組を行っているところでございます。

以上でございます。

○議長（遠藤博昭）

4番。

○4番（馬淵清博）

ありがとうございました。

あれから、最初の消滅可能性自治体の発表があってから10年が経過をいたしました。市長も御存じかと思いますが、今年4月、再び人口戦略会議が自治体の将来の分析を公表いたしました。今回は10年前の同じような分析を踏まえた上で、封鎖人口という他の要素も加えて別途分析をし、2020年から2050年の30年間の若年女性人口が半減するとされた自治体は、今回、1,729自治体のうち744自治体と減りました。前回の896から七百幾つになって、その中に前回指定されていた大川市、大牟田、柳川、八女、みやまはいずれもそれから脱却したというふうに新聞に書かれております。

ちなみに50%以上が消滅可能性ですが、新聞によりますと、大川市が37.7%、大牟田市が41.1%、柳川市は42.3%、八女市は47.8%、みやま市は45.3%と書かれております。いずれも脱却したということになっておりますけれども、そこで、消滅可能性自治体から脱却した

ということを市長としてはどのようなふうを受け取られているのかをお伺いしたいと思えます。

○議長（遠藤博昭）

野中企画課長。

○企画課長（野中貴光）

お答えいたします。

あくまでも民間団体の分析で、詳細な分析は不明でございますけれども、20歳から39歳までの若年女性人口を今回2020年から2050年まで推計した減少率と前回2010年から2040年までの推計した減少率の比較で若年女性人口減少率が10%ポイント以上改善したため、脱却したものとされております。

その考えられる要因といたしまして、国際医療福祉大学による学生の増加が考えられます。学生の男女比を見ますと、令和6年5月1日現在ではありますが、男性が456人に対し、女性が1,035人と全体の7割近くが女性であること、あと別の要因といたしまして、外国人の増加などが考えられるのではないかと考えております。

以上でございます。

○議長（遠藤博昭）

4番。

○4番（馬淵清博）

適切な答弁ありがとうございました。

こういうことは、やはり新人である市長にはなかなかお答えができないと思って、課長も一生懸命答弁をされて、つくられたことだと思います。ありがとうございました。丁寧に説明をいただきました。

ですが、人口戦略会議は、やはり脱却したとはいえ、自治体の人口の減少は止まらないと。流出を是正する社会減対策というんですが、それに重点が置かれ過ぎていて、地域の特性に応じた出生率を上げる自然減対策を組み合わせる必要があるというふうに人口戦略会議は判断をいたしております。

それで、また今後、鋭意努力をしていただきたいと思いますし、次に持続可能性、先ほどは消滅可能性でしたけれども、持続可能性ということをお伺いという計画でしたけれども、その政策とか施策は今から第2に質問するようにしてございました地方創生の取り組み方とほ

ば関連すると思いますので、次の質問に移りたいと思います。

それでは、地方創生推進のほうについて伺いたいと思います。

地方創生というのは、先ほど課長が言われましたとおり、消滅可能性都市、増田レポートをきっかけに第2次安倍晋三政権が掲げた看板政策でした。人口減少の対策として、まち・ひと・しごと創生法というのを2014年12月施行により、それから地方創生というのが知られるようになりました。まち・ひと・しごと、地方創生における長期ビジョンを踏まえ、総合戦略では次の4つの基本目標を国レベルで設定、地方における様々な政策による効力を集約して人口減少の歯止め、当時は東京一極集中ということが言われておりましたので、その是正を着実に進めていくとして計画をされました。

1つ、地方における安定した雇用を創出する。2つ、地方への新しい人の流れをつくる。3つ、若い世代の結婚、出産、子育ての希望をかなえる。4つ、時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに地域と地域を連携するというところでございます。大川市でもこの4つの基本目標を基本に施策をされ、第1期まち・ひと・しごと創生総合戦略、平成27年度から平成31年度として取り組まれ、現在は第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略で策定目標を挙げて取り組み中のことだと思います。

この第2期創生総合戦略が令和6年度ということになっておりますが、今後の計画はどのようなになっているのでしょうか、お尋ねをいたします。

○議長（遠藤博昭）

野中企画課長。

○企画課長（野中貴光）

お答えいたします。

今、議員がおっしゃられましたとおり、第2期総合戦略は今年度までとなっております。今現在、第3期総合戦略に向け、策定中でございます。

以上でございます。

○議長（遠藤博昭）

4番。

○4番（馬淵清博）

ありがとうございます。

第3期を作成中ということは、これは市長の考えも入ったところで策定をされるというふ

うに理解してよろしいですか、市長。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

と思います。

○議長（遠藤博昭）

4番。

○4番（馬淵清博）

ありがとうございます。

ここに第6次総合計画、この中で第2期大川市まち・ひと・しごと創生総合戦略というのがあります。課長にこれを市長のほうに説明していただきたいということでお話をしておりました。市長、見られましたか。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

それは見ました。それで、今日持ってくるつもりだったんですけど、ちょっと忘れてきました。その私も本は持っています。

○議長（遠藤博昭）

4番。

○4番（馬淵清博）

それでは、この基本目標に沿って質問をさせていただきたいと思いますので、小さいことは課長のほうにお伺いしたいと思いますが、大きい要点だけは市長のほうに答えていただきたいと思います。

基本目標1、産業振興と安定した雇用の創出、成果目標は有効求人倍率が2018年度は1.16倍だったけれども、それを2024年度には1倍にしたいというふうに書いてあります。その雇用の創出の中にインテリア産業・商業、それから農業、水産業、それに雇用創出とか就業支援、企業誘致というのも下に小さく書いてあります。

市長、これを持ってあれば、それが市長も一番分かれると思います。これを持っていないということなので、渡してもらえますか。——じゃ、この項目に沿って質問させていただ

きます。

雇用の安定ということで、有効求人倍率ということで、2024年度は1.0倍を目指すというふうになっておりましたけれども、現在、求人倍率がどれぐらいやろうかということは、市長、お考えになったことはございますか。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

昨日聞きました。それで、それもきちっと答えさせます。

○議長（遠藤博昭）

4番。

○4番（馬淵清博）

ありがとうございます。

じゃ、9月に発表があった倍率というのは分かっておられるんですね。

○議長（遠藤博昭）

野中企画課長。

○企画課長（野中貴光）

お答えいたします。

有効求人倍率、4月から3月までの平均で出しておりまして、令和5年度につきましては0.86でございます。

以上でございます。

○議長（遠藤博昭）

4番。

○4番（馬淵清博）

ありがとうございます。

私もこの質問をするに当たって、ハローワークへ行ってまいりました。自分も知っておかないと市長に失礼に当たると一生懸命勉強いたしております。

ハローワークに行って、資料を頂いてきました。大川市は、9月は0.75。0.75ということは、仕事をしたいという人が1,000人おれば、仕事をしてほしいという求人は77人ということです。求職者、仕事をしたいという人が仕事を求めてくる人よりも多い、分母分子の関係

で0.77ということになっております。分かりますね。

○議長（遠藤博昭）

数字が770だと指摘されています。

○4番（馬淵清博）続

すみません、1,000人に対して770人ですね。失礼いたしました。

それで9月が0.75、8月は0.77、7月は0.82。大川市の平均が、今、課長が言われましたとおり0.79ですね。今年の平均は0.79ということになっております。

雇用創出ということであれば、仕事を探している人は多いけれども、なかなか職に就けないというふうで、所長とお話をしておりましたら、大川市は卸業とか医療、福祉、製造業で仕事を求めている会社が多いということです。若い人たちはなかなかそういう職に就きたくないというふうな形で、若年層がなかなかその仕事にマッチングしないということで、0.7幾つになるということでございまして、そういうお話を聞きながら、やはり景気があまりよくないのかなとか、そういう判断をしてきたところですよ。

それから、インテリア産業、ここに書いてあります1番、市長、見ていただけると分かりますが、基本目標の1番、その下の①インテリア産業・商業ですね。これはインテリア産業の雇用の創出ということで、昨日、古賀議員がお尋ねになったときに若干外国のほうに仕事を求めたりとか、そういうふうな形で仕事というか、商業を広げていきたいというふうに答えられましたので、それは質問しても多分同じだと思いますので、質問は省きます。

それから、雇用創出・就業支援とか企業誘致のことにつきましては西田議員が昨日お話しになりましたので、そのことも省かせていただきます。

2番目の農業、水産業につきましては、私は一応農業をやっておりますので、ちょっと自分の意見を述べさせていただきたいと思います。

農業は、自ら、自分の地域資源、田んぼ等を活用する、その活用次第では大きな潜在力を持っていると思っております。だから、それを最大限に引き出せば農業は産業としてもっと強くなるというふうに思っております。

○議長（遠藤博昭）

馬淵議員、少しゆっくりしゃべってください、聞き取れなくなっていっちゃうので。

○4番（馬淵清博）続

はい。今言いましたように、農業は産業としてもっと強くなっていくというふうに考えて

おります。食料自給だけではなくて、多面的機能も持ち合わせておりますので、これからは問題になっております農業の後継者、それから経営規模拡大、生産性の向上、昨日も若干問題になっておりました新規農産物の6次化、それから、そういう付加価値を高めるということなどで、農家の皆様も頑張っていけますし、行政の取組ももっと実施してほしいというふうに思いますので、農業に関してはそういうところで今後の御支援をよろしく――農業水産課長はおりませんけれども、行政のほうとしては市長によろしくお伝えしたいと思います。

それから、第2番、これは市長、よく読んでください。結婚から子育てまでの切れ目ない支援ということで書いてございます。そこに成果として、合計特殊出生率1.37、2018年度から2024年度には1.8に上げたいというふうに書いてございます。

今、出生率が幾らぐらいということは市長はお知りでしょうか。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

大川のですか。（「はい、そうです」と呼ぶ者あり）ちょっと昨日聞きましたから、ちょっとまた発表します。

○議長（遠藤博昭）

野中企画課長。

○企画課長（野中貴光）

お答えいたします。

令和5年度でお答えいたします。令和5年度1.15でございます。

以上でございます。

○議長（遠藤博昭）

4番。

○4番（馬淵清博）

それでは、本来、市民課のほうになると思いますけれども、生まれた数ですね、それは企画課長、そちらは分かりませんでしょう。――私のほうから、調べておりますので言いましょうか。

それでは、私もここも勉強してきて、ちゃんと質問する以上知っかないかんということで勉強させていただいております。出生率がこれに載っているのは、2018年度1.37を1.8に

したいというふうに記載しておりますけれども、実際下がってきております。2021年度は1.38、2022年度は1.26、2023年度は1.15、それから出生、生まれた人の数ですね、これを2023年度は——すみません、逆にいきます。2021年度は193人、2022年度が174人、2023年度は154人というふうで若干減ってきております。その減ってきた理由が何かということは、人口減少、それから、結婚、子育てということで、まず最初にやはり結婚から子育てまで切れ目ないというふうに指摘をされております。

総合的な結婚から子育てまでの、その切れ目ない支援に関して、今、江藤市長は何か御意見とかありましたら、市長御自身の意見をお伺いしたいと思います。

**○議長（遠藤博昭）**

市長。

**○市長（江藤義行）**

馬淵議員、ありがとうございます。こんなに詳しく調べていただいて、本当に感謝申し上げます。

この推移からすると、かなりずっと減ってきていますね。だから、この始まった当初、基本目標というのがあって、それに全く達していないというようなことで、年々また出生率も下がっているということで、本当に深刻だなという気がしています。

じゃ、今後どうするかなんですけど、それは私のマニフェストに書いてあるように、今、本当に子持ちのお母様方が、1人や2人、3人、4人とか持つておられるお母様方と話す機会がございまして、やっぱり給食費も上がっているからということで切実な意見を聞いています。これは昨日、私も申したと思いますけどね。本当に今、大川が非常に地場産業が不振なために、昨日議員も言われたとおり、賞与もあまり払えないとか、それから、物価が上がって厳しいとか、特に子持ちの人たちに対しては打撃が大きいということをつくづく聞いています。私も本当にそういうことを、今回の選挙も含めていろんな方からそういうのを聞いて、これは何とかせないかんということで、特に給食費とか子どもさんの費用に大きな影響、扶養するのに大きな影響があると思っていて、ぜひこれは公約どおり実行したいということで、私の給与も下げたりしながら支援したいというふうに思っています。

それと、一応マニフェストに書いていますとおりなんですけど、とにかく大川は今不振だからこそ、市民サービスを充実させにやいかんということの思いで、ああいうマニフェストに上げさせていただきました。

○議長（遠藤博昭）

4番。

○4番（馬淵清博）

結婚から子育てということでございましたので、生活苦のほうはまた別にお伺いしたいと思います。

まず、結婚ということで、結婚していただかなければ子どもも生まれないと普通考えますので、その結婚に関して、やはりこども家庭庁とかは若い人の結婚や出会いに関する検討会とかを開きながら、既婚者の4人に1人がアプリで知り合って結婚したと、そういうふうな情報があります。マッチングアプリについてとか、重視するZ世代というふうに書いてございますけれども、やっぱりZ世代がそういうふうな形で、アプリが二十歳代を中心に普及していると指摘をしております。

大川市では、そこまではまだいっていないかとは思いますが、企画のほうで本来ならば明日ですかね、結婚の出会いの場をするようにしてあったというふうには伺っております。そこは詳しく言いませんけど、ちょっと人数が集まらなかったということで延期だというふうに聞いておりますが、その点についてお伺いしたいと思います。

○議長（遠藤博昭）

野中企画課長。

○企画課長（野中貴光）

お答えします。

女性の数がちょっと少なかったもので、改めて3月9日に実施しようというところで今進めているところでございます。

以上でございます。

○議長（遠藤博昭）

4番。

○4番（馬淵清博）

ありがとうございます。出会いの場ということで、高木病院の映画のところでしょう。3月9日ということでございます。よければ、そこに市長もぜひ御出席をいただいて、現状を見ていただきたいし、また、御意見もいただければと思っております。

それで、次の子育てにつきましては、大川市では前市長がつくられましたモッカランドと

いうふうな形で、妊娠、出産、子育てという形で倉重前市長がつけられたモッカランド、かなりその評判がよくて、よそからも来てあるということでございますので、また今後その点はよろしくお願ひしたいと思ひます。

それから、3番目の新しい人の流れの創出、移住・定住問題。目標は、2018年度が3万4,000人弱だったのが2024年度には3万3,000人ぐらいにしたいなと思っていたということですが、3万1,000人ということで、これまた大幅に人口を下回っております。

その中に、市長、目を通していただきたいと思ひますけれども、その下に観光振興・地域交流、そして、5番、広域的産業・観光振興の連携強化と拠点づくり、23番、景観・まち並みの保全と書いてございますよね、市長。

それでは、その点でちょっとお伺ひしたいと思ひます。倉重前市長は、今言った観光振興の拠点「大川の駅」というのを推進してまいられました。江藤市長はその点は反対の立場でございましたので、「大川の駅」に代わるような何か取組を考えておられるのか、お伺ひしたいと思ひます。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

今、様々な英知を結集して計画を練っております。

○議長（遠藤博昭）

4番。

○4番（馬淵清博）

今から取り組まれるということで、ひょっとしたら通告外と言われるんじゃないかなと思いつつ、ちょっと市長にお尋ねしたところでございます。

そのほかに、大川Rebuilding（リビルディング）事業も倉重前市長が立ち上げられました。これはまた後で宮崎稔子議員が質問されると伺っておりますので、宮崎稔子議員のほうに質問を委ねたいと思っております。また市長の的確な答弁をお願いしたいと思ひます。

それから次に、市長が言われた観光振興の拠点として、地域には今から大きな課題が——課題というか、いい材料がございます。1つは九州佐賀国際空港、外国路線にも進出しております。それから、陸上自衛隊佐賀駐屯地、空港のそばに約700から800名の隊員が駐屯をすると。それに付随してというか、その家族、2人にしても千何百人、子どもがいれば約3,000

人ぐらいの方がこちらに来られるのではないかと推測をいたしますが、そのような国際空港や佐賀自衛隊の駐屯地のことは市長はどのように捉えてございますでしょうか。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

どのようにですか、どんなふうな表現を。いいことだとか、そんな表現でよろしいですか。

○議長（遠藤博昭）

4番。

○4番（馬淵清博）

何というんですかね、表現、どのように捉えているかという私の言い方が悪かったかもしれません。佐賀国際空港に来られる外国の方のそういう——前市長は佐賀空港からどこへ行くのにも大川を通過して、大川が一番近いんだから、福岡県のほうに行かれるのには大川のほうを通過して行かれるので、その観光拠点の一つとして「大川の駅」を立ち上げたというふうに言っておられました。陸上自衛隊駐屯地は、簡単に言えば、そちらのほうの人口も大川市に取り込むためにはどういうふうなお考えがあるのか。これもどういうふうな表現をしているのか、市長から言われると分かりませんが、私としては、答えとしては、自衛隊が来れば家族が来るので、その人たちが大川のほうに住宅を造って住んでもらうように勧めるとか、自衛隊の駐屯地に行って、大川はこういうところですよとかお話をするとか、仮定としてそういうふうなことを自分は考えておりましたけれども、そういうお考えというのが市長にあるかどうかということをお話ししていただければと思ったところです。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

もちろんそういう方が来られれば、ぜひ大川のほうに住んでもらえれば、本当に大川市にとって幸いなことだと思っています。それについては、私よく承知していませんけど、いつ頃来られるのか、その時期を馬淵議員に教えていただいて、その誘致活動をしていければなと思っています。

○議長（遠藤博昭）

4番。

○4番（馬淵清博）

大体こういうことは私が言う前に、佐賀国際空港の500メートルの滑走路の延長、この時期も御存じではございませんか。（「はい」と呼ぶ者あり）それでは、佐賀駐屯地がいつできるかも御存じではありませんか。（「はい」と呼ぶ者あり）分かりました。

それでは、そこは市長のほうにお勉強していただいて、またその後にお話をいただければと思いますので、いろいろ市長はほかにもいっぱいすることがあると思います。それでも、そういう重要なことは最重点に置いて——全てのことが最重要でございます。市長の仕事というのは、大川市民一人ひとりの生活を守ることから始まって大川市を発展させるということまである。市長は大変な負託を持って市長になられましたので、そこら辺はしっかり決めて、今後またお勉強もしていただきたいし、取り組んでいただきたいと思います。

それから、観光というのは、なかなか大川だけではならないということで、連携強化という話は常にございます。その近隣ですね、佐賀とか柳川とかございますが、そこら辺の連携強化について、市長のお言葉を一言だけでございますので、よろしく願いいたします。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

連携強化は、よく沿線の首長さんと出張の機会に会うし、いろんな催し事があるときはしょっちゅう会います。これについては、連携強化ということを目的に私自身はまだそういう会合に出ていませんけど、今後、積極的に進めていきたいというふうに思っております。

○議長（遠藤博昭）

4番。

○4番（馬淵清博）

ありがとうございました。これははっきりお答えいただきましてありがとうございます。

それでは次に、移住・定住促進ということでございます。この資料は、市長、頂きましたか。大川の移住パンフレットです。これも企画課長のほうにお話をしております、企画課長からやっているというふうに伺っておりますので、頂いているということで質問したいと思います。

頂いて、この中身は見られましたでしょうか、市長。（「はい、見えています」と呼ぶ者あり）今見えていますということですか。（「はい」と呼ぶ者あり）では、これを頂いて、私が

質問する間にこの中身は見られましたでしょうか。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

質問する間にですか。

○議長（遠藤博昭）

いえ、通告をした間にです。4番。

○4番（馬淵清博）

通告をいたしました。野中課長のほうに打合せをいたしました。このことを質問しますよということで、先ほど野中課長に伺いましたら、市長にそれはやっておりますということで伺いました。中を御覧になったかどうかをお伺いします。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

一応見ていると思います。

○議長（遠藤博昭）

4番。

○4番（馬淵清博）

市長、それは失礼じゃないですか、見ていると思いますと。自分のことですよ。見ましたか、見ませんでしたか。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

見えています。

○議長（遠藤博昭）

4番。

○4番（馬淵清博）

見ておられるというふうでございます。理解をいたしました。

この中に今から質問しようとする場合がありますけれども、直接また聞いても野中課長が

答えるのかなと思いますので、要点だけ話をさせていただきます。

これの4番と符合いたします。時代に合った地域づくりと地域間連携ということで、高齢者福祉、健康・保健・医療、新たな情報技術の活用、防災、ごみの減量化、公共施設最適化、連携体制というのが書いてございます。その中で高齢者福祉、今、お困りごと相談ということで、断らない相談支援、アウトリーチ支援、おおかわふくまるネットというのがございますが、御存じでしょうか。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

知りませんでした。

○議長（遠藤博昭）

4番。

○4番（馬淵清博）

正直にお答えいただきました、知らなかったと。それは市長になられたばかりで知らなかったと言われればそれまででしょうけれども、やはりさっき申しましたように市長は大川市全部を見渡せなければいけません。こういうのは一番に見て、大川市民がどういうふうに困っているのか、市長は皆さんから要望がある、困っている困っていると。どういうところが困っているのか、ここに困りごと相談、おおかわふくまるネット、重層的支援体制整備事業に力を入れると書いてございます。一番最後のページです。

よく見ておられなかったということで理解して、次はこれをきちっとお読みになって、市長もお勉強されまして、大川市民の負託に応えるように——市長、私の話を聞いていただきたいと思います。

○議長（遠藤博昭）

前を向いてしっかり聞いてください。（「今見えています」と呼ぶ者あり）

○4番（馬淵清博）続

今見えていますじゃなくて、見なくて、私のほうを見てお答えいただきたいと思います。それは今までに見ておくべきだったと私は判断しますが。

それでは、時間も参っておりますので、次の最後の質問をさせていただきます。

地方創生推進特別交付金ということについて伺います。市長、私のほうを見てお聞きいた

だきたいと思います。

これは平成28年、1,000億円、地方版総合戦略に基づく地方公共団体の自主的、主体的で先導的な仕事をするのに支給すると。まち・ひと・しごと創生事業でこの交付金は、平成28年に当初予算で1,000億円が計上されました。自治体が実施する地方活性化事業の財源となっております。1,000億円がですね。

この交付金の利用状況というのを企画課長のほうに、どのような事業にどれくらい直近使われたのか、お伺いしたいと思います。

○議長（遠藤博昭）

野中企画課長。

○企画課長（野中貴光）

お答えいたします。

主な活用状況を申し上げますと、現在はデジタル田園都市国家構想交付金という名称で幾つかのタイプに分かれておりますけれども、まず、拠点整備タイプでございますけれども、令和2年度子育て支援事業としまして、大川市子育て支援総合施設モッカランドの設置、これにつきましては2分の1の補助で交付決定額が3億4,330万7,564円となっております。

次に、地方創生推進タイプでございますけど、1つ目が令和3年度から令和7年度事業といたしまして、産業活性化事業として久留米広域連携中枢都市圏、4市2町で取り組んでおります「新たな日常」における地域間連携による「民需」「人の流れ」創出計画でございます。こちらでも2分の1の補助で、令和6年度交付決定額が4,300万円となっております。

同じく令和5年度から令和7年度事業、いわゆるRebuilding（リビルディング）事業につきましては、こちらでも2分の1の補助で、令和6年度交付決定額が6,998万500円となっております。

最後に、デジタル実装タイプでございますけど、令和6年度事業といたしまして、1つ目、大川市公共施設予約システム導入事業、こちらでも2分の1の補助で交付決定額が544万円でございます。

最後に、同じく令和6年度事業といたしまして、介護認定調査支援システム導入事業でございます。2分の1の補助で交付決定額が167万5千円となっております。

以上でございます。

○議長（遠藤博昭）

4番。

○4番（馬淵清博）

詳しくお話いただきましてありがとうございました。

地方版総合戦略に基づく地方公共団体の自主的な事業ということで先ほど申されました。仕事のこと、観光のこと、地域社会のこと、それから働き方改革など、そういうふうな形に、福祉まで全般的に交付金を活用していただいているというふうに判断をさせていただきます。

これを今回、石破首相は今年の地方活性化ということで、地方創生推進特別交付金を倍増するというふうに発表されました。先ほど言われましたが、ちょっと名前が違うデジタル田園都市国家構想交付金ですか、ちょっとややこしい名前ですけども、それを今後どのように市のほうとしては活用されていかれるのかを最後に質問したいと思います。

○議長（遠藤博昭）

野中企画課長。

○企画課長（野中貴光）

お答えいたします。

人口減少社会におきましても豊かな地域づくりを行っていくために、産業活性化や子育て支援、デジタル技術を活用した市民サービスの向上など本市のまちづくりに寄与する事業などにつきまして、国のデジタル田園都市国家構想交付金のメニューに従い活用していきたいと考えております。

以上でございます。

○議長（遠藤博昭）

4番。

○4番（馬淵清博）

ちょうど時間となりました。早めに進んだわけでもありませんし、ゆっくり自分では言ったつもりですけども、市長におかれましては、私が提示しました資料、こういうのはよく見ていただきたいと。それだけではなくて、やはり市長として職務は激務でございます。それは市長が一番お分かりのことだと思いますけれども、大川市民一人も取り残さないという覚悟で当選をされましたので、それこそ昼休みも何もないと私は思っております。一生懸命努力をされまして、私たちも——私も議員として頑張ってきております。やはり質問するにはこれだけの資料も集めて、歩き回っております。それは議員の仕事です。市長は市長の仕

事があります。一人ひとりを見守っていただきたいと。

例えば、モッカランドで子どもが1人けがをしたら、市長は謝りに行かなければなりません。お分かりですよね。そういうぐらいの気持ちを持って今後臨んでいただきたいと、そういうふうに切望いたしまして、私の質問を終わります。ありがとうございました。

**○議長（遠藤博昭）**

ここで暫時休憩いたします。

なお、再開時刻は11時30分といたしますので、よろしく願いいたします。

午前11時20分 休憩

午前11時30分 再開

**○議長（遠藤博昭）**

休憩前に引き続き本会議を再開し、一般質問を続行します。

次に、6番宮崎稔子議員。

**○6番（宮崎稔子）（登壇）**

皆様こんにちは。6番、公明党、宮崎稔子です。お昼にかかってしまうかもしれませんがけれども、申し訳ありません。

それでは、質問に入らせていただきます。

今回質問させていただきます大川Rebuilding（リビルディング）事業とは、その理念として、新たなマーケットへの船出、価値を再発見し発信、持続性と迅速性を持った組織の構築という3つのポイントを掲げ、地方創生交付金の一つであります3年間のデジタル田園都市国家構想交付金を活用し、ハード面、ソフト面から多くの担当課が連携し、志を同じくして進められてきた事業だと思っております。

このデジタル田園都市国家構想とは、デジタルの力で地方の課題解決と価値創造を図る日本の新しい成長戦略であります。地方の社会課題解決と魅力向上や心豊かな暮らしの実現など多岐にわたる効果が期待されるもので、全国のたくさんの自治体がこの交付金を活用するため、取組のプロジェクト推進に向け、アイデアを出し、様々な企業と官民が連携し、企画し、そして、先進的な成功事例が数多く生まれています。やはりそこには首長のリーダーシップが不可欠でありますので、首長が取組の重要性を理解し、明確なビジョンを示すことが必要であり、そこから庁舎全体が課題解決に向け前に進んでいくのではないのでしょうか。

前回の9月議会でこの事業について質問させていただきましたが、そのすぐ後に市長選も

あり、大川市は新市長ともなられましたので、今回、大川のこれからの地域の活性化に向けた大きな屋台骨ともなりますこの大切な事業について、改めて今後の進め方など一つ一つを、大川の首長となられました新市長のお考えを質問席にてお聞きさせていただきますので、どうぞよろしくお願いたします。

○議長（遠藤博昭）

6番。

○6番（宮崎稔子）

それでは、質問に入らせていただきます。

この大川Rebuilding（リビルディング）事業とは、先ほど壇上でも述べましたように、その理念として3つのポイントを掲げ、4つのテーマに区分して、これまでの産業振興施策と観光振興施策をリビルドしようというものですよね。そのテーマに沿ってお聞きさせていただきます。

まず1つ目に、市内には雄大な筑後川の恩恵にあずかり、港町として栄えた歴史的文化遺産が数多く残る我が市にとりまして大切な地域があります。近年はインバウンドで日本を訪れる外国の方々や日本の若い世代等も求めるものがモノからコトへ変化している。このような動向に我が市としても一番体感をしていただける地域、小保・榎津藩境の観光まちづくりを一つのテーマに掲げ、取り組んでありますよね。本年7月には、株式会社はんざかい及び大川信用金庫さんと歴史的資源を活用した観光まちづくりの推進に関する連携協定も締結され、その後の計画等も、9月議会でソフト面、ハード面ともに詳しくお話をいただきましたように現在も推進されて事業が進んでいると思っております。

市長は、この小保・榎津藩境のまちについてどのように今思っているのか、また、このテーマについてどのように進めていこうと思われているのか、今後の方針をお聞かせください。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）（登壇）

宮崎議員が言われたように、この大筋ですね、これはぜひ進めていきたいと思っています。

○議長（遠藤博昭）

6番。

○6番（宮崎稔子）

ありがとうございます。

市長は、この小保・榎津地区藩境のまちについては、どういうふうにお感じになられてありますか。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

あの通りにも私の友人が何人もいます。そして、同じ仲間である人たちもいます。よく知っています。本当に大事なまちだという認識はすごく持っています。

○議長（遠藤博昭）

6番。

○6番（宮崎稔子）

本当に大川の歴史をかいま見ることのできる歴史的文化財、非常に国、県、市の重要文化財がたくさんあるまち並みでありまして、今はハード面での福岡県指定文化財となりました旧緒方家住宅の改修も大川市が進められていることを前回もお話しいただきましたけれども、そこも昔の武家住宅の造りと、江戸期のお医者様の生活や診察室も感じることのできる旧緒方家住宅をはじめ、あの地域は本当に歴史的時代背景が色濃く残る藩境のまち並みでありまして、伝建地区にもなり得る、大川市にとりまして市の発展の歴史をかいま見ることができ、貴重な地域でありますので、どうかこの地域が多くの皆様にゆっくりと歴史を堪能していただける場所となりますように事業に力を入れていただきますことを深くお願い申し上げたいと思います。

また、この地域を今、市長がおっしゃったように、大事な地域と思っていますよと言っただけですけれども、さらにここをどのように進めていこうと、今後人に集まっていたくためにはどのような地域にしていこうと思うか、何かアイデア等がございましたら教えていただけますか。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

今のところないんですけど、何人も私の親しい知り合いがいますが、本当に中心人物とし

てあそこで活動しています。ですから、時間があったら、その人たちとも話し合いをしてやっていきたいと思っています。

**○議長（遠藤博昭）**

6番。

**○6番（宮崎稔子）**

大川市にとりまして大切な観光の場所でもありますので、ぜひよろしくお願ひしたいと思いますし、あそこは今お話ししたようにインバウンドでも、本当に日本のみならず、外国の方も日本の歴史を体感していただける、大川の歴史を体感していただける大切な場所ですので、ぜひ市長のいいアイデアを御期待申し上げますので、よろしくお願ひ申し上げます。

次に、2つ目のテーマに移らせていただきます。リバーサイド観光の活性化についてお尋ねいたします。

我が市は雄大な筑後川の恩恵にあずかり、本市の基幹産業が発展してきました。その筑後川に架けられた筑後川昇開橋は世界的にも珍しく、今でも稼働する日本最古の鉄橋の雄姿の姿は、少し離れたところから望みましてもその背景は見事なもので、市の一番のシンボルであります。

昨年は、この筑後川昇開橋を中心とする川辺でスカイランタンフェスティバルが行われ、9月にお答えいただきましたように、想定を上回る約3,000人が夜のイベントの開催時刻に集客されております。そのうち市外からの方が8割だったということで、本年度はどのような計画をされているのか、お尋ねいたします。

**○議長（遠藤博昭）**

永島インテリア課長。

**○インテリア課長（永島潤一）**

お答えいたします。

筑後川は、本市の歴史や発展を語る上で欠かせない要素であり、潮の満ち引きによって水位が変動する感潮河川の河口部に位置することは近隣自治体でも際立った特徴でございます。全国的にも河川敷などの空間を活用したミズベリング、これは日本の水辺の新しい活用の可能性を創造していくことを目的とした国土交通省が推進する官民一体のプロジェクトでございます。こういったプロジェクトが盛んに行われている状況を踏まえますと、筑後川周辺の環境は観光資源としての高いポテンシャルを有し、磨き上げの素材としてふさわしいと認識

しております。

議員お尋ねのリバーサイド観光の活性化につきましては、本年9月の市議会定例会一般質問で答弁いたしましたとおり、市民の方を交えたワーキンググループにおいて、筑後川や昇開橋などの観光資源の魅力を生かしたイベントや情報発信に関する御提案をいただいております。このようなアイデアを基に昨年度のスカイランタンイベントに続く取組として、筑後川ならではの景観の中で地元の食を満喫するキャンプイベントの開催に向け、現在、鋭意準備を進めております。

報道等で既に御存じかとは思いますが、先日、12月1日は大野島にごぞいます筑後川総合運動公園においてリハーサルを兼ねたプレイベントを実施いたしました。約20名の参加者の皆様には、船からの筑後川遊覧や流木を活用した日よけ、雨よけのためのシェルター作り、それから、木の端材を使った火おこしなど、本市の魅力を取り入れたメニューを体験していただいたところでございます。

参加者の皆様からの御意見や感想を踏まえたポストイベントといたしまして、デイキャンプを来年3月に開催することとしており、今後とも地域資源を活用した特別な体験などの観光コンテンツの造成、それから、各種メディアを通じたPRによりまして、来訪者1人当たりの消費額の増加、地域の稼ぐ力の強化に努めてまいりたいと考えておるところでございます。

以上です。

○議長（遠藤博昭）

6番。

○6番（宮崎稔子）

ありがとうございます。私も新聞等で拝見をさせていただきまして、非常に興味深く思ったものであります。本当に大川の大切な食を生かして、また、大川の地形を生かした、ほかの地域では体験することのできないようなすばらしい企画をしていただいているのではないかと思います、20名ほどリハーサルとしての参加があったということですが、本番ではより多くの方にぜひ参加をしていただきたいと思いますと思っております。

この地、ここでまた先ほどしていただきましたデイキャンプですね、ここが先ほどもお話がありましたように干潮ともなりますと、あそこにデ・レーケ導流堤も出て、見ることができるのではないかと思うんですね。先日、商工会議所の女性会での大川再発見とか、また、

大川女性ネットワーク等でもこの地域をすごく勉強されてありますので、私も参加をさせていただいたんですけれども、そのときに筑後川交流館はなむねのほうで国土交通省の方にお話をお聞きいたしましたけれども、あの導流堤は枝とか、ああいう木とか石のみで造られているんですね。今の技術では絶対にあれを造ることができないんですよと国土交通省の方がおっしゃいました。本当に見事な技術だと感激したんですけれども、そのような貴重な珍しい光景も見ることもできる大川ならではのリバーサイドでの魅力的な、本当に多くの方にこのことを体験していただきたいなと思いますけれども、どうか昨年同様——昨年もスカイランタンフェスティバルのチラシはすごく見事で、あれだけのPRの力もあって多くの方が集まってこられたのではないかと思いますので、ぜひそちらのほうにも力を入れていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

市長にお尋ねいたします。

市長は、このようなリバーサイドで行われている市の事業とか、先ほど言いました昨年のランタンフェスティバルとか、先日あったキャンプ等もそうですけれども、木の香マラソンとか、2週間ほど前かな、シマンマルシェもふれあいの家のほうであってございましたけれども、本当に大盛況で市外の方がたくさん来られてありましたけれども、そのようなところに行かれてみられましたかね。どのような感想を感じられたのか、ちょっとお聞きしたいなと思っておりますけれども。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

木の香マラソンですか。（発言する者あり）と様々なことですかね。（「そうです」と呼ぶ者あり）

私も10年ぐらい前ですかね、参加しました。とてもきつかったです。5キロぐらいですかね、一番長いのは。参加して、本当にその思い出があるんですけど、とてもきつかったことを覚えています。そして、それ以外のキャンプとかマルシェについては参加していません。しかし、ここに議事録——議事録というか、ここにもありますとおり、大盛況だったということはここに書いてあって、そうだったなということをつくづく思っています。

○議長（遠藤博昭）

6番。

○6番（宮崎稔子）

ありがとうございます。本当すばらしいんですね。

先ほど言いましたように、先ほどのキャンプのところからも干潟になるとすばらしいデ・レーケ導流堤、本当に見事で私もびっくりしたんですけれども、そのお話を聞いてですね。こういうところを見ながら、市長も今、すばらしい体験もしたというお話もお聞きしましたが、今のいろんなやり取りの中もお聞きされまして、このリバーサイド観光に関して、何かこんなことをやったらもっと皆さんにアピールできるんじゃないかなというアイデア等が現在もしあられましたら教えていただけますか。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

昨日、インテリア課といろいろ話をして、リバーサイド観光というのはぜひ大事だと思っています。私も以前よくエツ船に乗ったりしていましたから、すごく大事だと思っています。ただ、一つ危惧していることがありまして、エツ船が今、大川で動いているのが2艘らしいんですよ。その1艘が来年3月まででやめるという話を聞きました。それで、私もびっくりして、そういうこともありますよということで昨日インテリア課と話しました。

何か佐賀のほうは結構お客様の照会が多くて、エツ船が結構忙しく動いているらしいんですけど、大川のほうがいろんな照会というんですか、エツ船を使うようなそういうお客がなくて成り立たないというようなことを聞いて、昨日、インテリア課と対策みたいなのを練りました。今後、リバーサイド観光を強化するためにはどうすればいいかということは、議員の皆さんも含めて、それから、職員の皆さんと一緒に話合いをして、どう対応していくかを決めていきたいというふうに思っています。物すごく大事な仕事だと思っています。

○議長（遠藤博昭）

6番。

○6番（宮崎稔子）

ありがとうございます。課題も見えてきたということですね。

そして、本当に大川市ならではの、大川市でしか体験できないようなすばらしいリバーサイド観光というのは、昇開橋も含めて本当にシンボルでありますので、それも活用しながら、皆さんでしっかり、私たちも知恵をお互いに出し合いながら話をいろいろ進めて、本当にこ

の大川が活性化するように進めていきたいと思いますので、ぜひよろしくお願ひ申し上げます。

それでは、次のテーマの市場開拓について、市長のお考えをまたお聞かせいただきたいと思っております。

大川市は、33.6キロ平米とコンパクトながらも、日本一の木工のまちとして発展してきました。とはいえ、住宅事情とか生活スタイルの変化などにより、年々我が市の基幹産業は非常に厳しい状況となっています。昔ながらの職人のまちが今も息づく非常に温かみのある大川市ではありますけれども、時代の変化の対応に得手不得手がはっきりと企業の間に出ていることを感じております。DXに苦手意識が大きい企業ほど、企業の業績の伸びに影響しているのも事実ではないかと思っております。

その課題の解決に向けて、市場の開拓のテーマを一つに掲げて、企業へのデジタル技術の向上に向けた支援として、ネット販売に必要なスキルとか写真撮影講座など、るる推進をされてきておりましたけれども、今後はどのような方針をお考えなのか、江藤市長のお考えをお聞かせください。

**○議長（遠藤博昭）**

市長。

**○市長（江藤義行）**

インターネット販売等はすごく大事なことで、本当に今後強化していかなきゃいけないと思っております。私も持てる力はその方面にも発揮していきたいというふうに思っております。よろしくお願ひします。

**○議長（遠藤博昭）**

6番。

**○6番（宮崎稔子）**

もちろんこの業界でずっとお仕事もされてきたノウハウもあるかと思っておりますので、ぜひそういうところの手腕を御期待申し上げますので、より充実したこのテーマに沿った内容を組み込んでいただければと思っております。

それでもう一点、ふるさと納税についても、昨日の江藤市長の御答弁の中でこれも大切な取組だよということは分かりましたけれども、家具も含めて、そのほかの商品につきましても、新たな市場開拓というのはこれからの大川市にとりまして重要な課題なんですね。家具

も含めて、そのほかのふるさと納税、大川市は本当にふるさと納税の産品がすごく多いので。今後、このようなことをしたら市場開拓になるのではなど、何か市長の新たなお考えなど今ありますでしょうか。もしありましたら教えてください。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

家具というのいろいろございまして、だから、従来の家具の概念にとらわれず、例えば、マットレスとかも含めて様々な家具をネットで販売するのは本当に重要だと思っています。それとともに農産物もネットで販売することは各地でやっていますから、どういうのがネット販売に向くのかとか、それも今後力を入れていきたいと思っています。いろんな方と話し合いながら力を入れたいと思っています。どうぞよろしくお願いします。

○議長（遠藤博昭）

6番。

○6番（宮崎稔子）

ありがとうございます。

今お話しいただきましたように、家具だけではなく、いろんな産品があつて、大川市は本当に豊富なものがたくさんありますので、そういうところもネット販売する、もちろんそこですけれども、それが目につくように何かPRというの大きな課題ではないかと思しますので、そういうところに、みんなが大川市の産品に目がいくようなトップセールスのほうをぜひよろしく、アイデアがたくさんあられるかと思しますので、御期待申し上げます。

それでは、それに連なりますけれども、最後に食に関する商品メニューの開発のテーマについてお尋ねいたします。

自然環境に恵まれた大川市にはいろんな農産物や海産物がございまして。これを生かす開発につきましても9月議会で御質問をさせていただいたときに、倉重前市長より重点施策の一つとして施策ごとにワーキンググループ、先ほども川辺のほうでお話がありましたこのワーキンググループを組織して事業を進めていて、6次産品開発などの取組については、この地域にある食材等を最大限に生かしながら、ここでしか買えないといった特別性を持たせることをコンセプトに魅力ある商品等の開発に向けた取組を進めていくとの御答弁をいただきました。

この取組について、昨日の遠藤議長とのやり取りを私も聞かせてもらいながら、今のやり方はいろいろお考えがあって中止の方向である意向を昨日聞かせていただいたのかと思いますけれども、ただ、先ほどもこの部分も、家具以外のいろんなところは大切だよという思いはいっぱいられるかと思います。この食に関する取組は何か違う形ででも行われていこうというおつもりがあるのかどうか、今後の市長のお考えをお聞かせください。

**○議長（遠藤博昭）**

市長。

**○市長（江藤義行）**

昨日、遠藤議長と激しいやり取りがありました。当然のこと、食は一番大事ですから、昨日、内藤議員が言った有機農法ですね、あんなのも広げながら、ぜひ食の開発は違ったやり方というか、新しくやり方を加えながら構築していければなというふうに思っております。物すごく大事なことだと思っています。

**○議長（遠藤博昭）**

6番。

**○6番（宮崎稔子）**

分かりました。非常に食は大事だということもお答えいただきましたけれども、昨日のやり取りの中で、私はお話を聞きながら非常に残念なお話だなと実は感じたんですね。私も食の研修のコンサルタントをしていただいて、昨日の話の中であったコンサルタントをされていたR&SのKAWABA様なんですけれども、群馬県の川場村にあります田園川場プラザのほうで、直接代表の方より数時間にわたって詳しくお話も聞かせていただいたことがございます。本当に20年以上にわたり、人口3,000人ほどの小さなまちに毎年200万人を超える方々が訪れる。その運営のノウハウというのは、やはり世界を渡って培われたそのスキルと感性、ノウハウというのは群を抜いたものを私感じまして、お話をお聞きしながら、次々に飛び出される視点の発想が飛び抜けて違うということをも痛感したんですね。心から感銘を受けましたし、誰にもまねすることができない引出しの中身というのは、それだけの対価を——少し高いよというお話もあっていましたけれども、その対価を払う貴重な価値がある、ある意味大切なブランドではないかと思ったんですね。そのような企業が遠く離れた大川市に価値を見いだしてくださって伴走支援をしてくださるということなどは、本当に私は夢のような、飛び上がるほどうれしくありがたいお話ではないかなと思ったんですね。多くの自治体がこ

のようなお話は、飛びつきたいほどやらましがられるお話ではないかと思ったんですけども、そのような点は、何かお気づき、自分の思いとかお話しいただけますか。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

宮崎議員、昨日、議長と議論したとおりなんです。それで、あれは再構築できる部分があれば再構築したいと思っています。しかし、あれは「大川の駅」のためのというのが契約書にあったものですから、そのためにやっぱりよくないということでした。メンバーの方と今度お会いするようにしていますから、どうできるのか、いろんな人の意見を聞いて——昨日言ったとおりなんです。メンバーの方でさえそんなに思っておられるのはよくないから、昨日言ったとおり、皆さんとお話ししながらやっていきたいと思っています。食の開発は物すごく大事だと思っています。ただ単にここでしか売れないとか、それではなかなか難しいんですよね。それは難しいけど、何か再構築できないかなということだと思います。

○議長（遠藤博昭）

6番。

○6番（宮崎稔子）

ありがとうございます。

今、もし形が変わればみたいな一言もあったかと思うんですけども、昨日のお話の中でも何名かの方からそういうお話、メンバーの方からというお話もあっていますが、メンバー全体、17名いらっしゃるのかな。その中で、多くの方からも非常に中身がいいと、すごく発見があるというようなお話も、そういうお声もあるということも聞いております。だから、やはり感じられる方は十人十色ではないかなと思うんですね。

本当に私何度も言いますが、ここに少し高いんじゃないかというお話もありましたけど、そこにかけられた対価以上の大きな効果が大川市にもたらされることを私は間違いないんじゃないかと思っていました。昨年度末にKAWABA様より策定していただいた、本当にここでしか買えない魅力的な商品開発支援業務調査報告及び商品開発の計画ですね、それに沿ってプロジェクトメンバーによります商品開発の研修が行われてきていたと。その資料も私拝見したんですけども、実に細かく大川市の特産品をあらゆる観点から、あらゆる視点から、一つ一つ吟味して詳しく調査されて、こちらがこれは当たり前と思っていることが当たり前

ではないことに気づかされたんですね。本当に大川市にとりまして大切な、そして、二度と受けることのできない契約ではなかったかなと思っております。

市長の今のお話の中でも、業務の目的が「大川の駅」の事業を前提とした商品開発に係る内容であるというその目的があったから、業務の継続は困難というような、契約をちょっと中止に向けて、解約に向けて進めているよという昨日のお話ではなかったかなと思いますけれども、先ほどちょこっと言っていただきましたように、業務の目的を変更した上で、市長なりの変更をした上で、昨日リーガルチェックとかとも言われましたね。私知らなかったのので、教えていただいて勉強させていただきました。そういう点もお話しされていまして、市長が御納得いかれるやり方で、今のKAWABA様との契約のやり直しということにはできないのかと思っております。

本当に地域食材等を生かした魅力ある商品の開発は、本市の産業、観光振興にとりまして大変重要なテーマであり、まちづくりの屋台骨であります。今後も継続されるべき取組と思いますが、いかがでありますでしょうか、市長のお答えをいただけたらと思います。

**○議長（遠藤博昭）**

市長。

**○市長（江藤義行）**

食の開発というのは、私は今までずっと民間だったんですけど、何でも開発というのはやっぱりリスクを伴うものであって、メンバーの方がリスクを伴わない形で何の負担もなく市の補助金でやっていくと、そして、メンバーがどうやって選定されたのかとかいうのもよく分からないから、そのメンバーの方自身が——私も全然知らなかったんです、これは。契約書がどんなになっているのかというふうに調べました。メンバーの方自身が言われて、ああ、そうなんだというようなことで、それからいろいろ調べ始めたという経緯がございます。

しかし、これは何か開発、市が主導でやっていくのか、それともどこか民間に任せてやっていくのか。今はこの開発業務だけじゃなくて、市の人件費もいっぱいかけているんですよ。すごくかけています。それは道の駅と一緒に。莫大な費用をかけています。だから、このやり方、市としてのやり方の工夫が要るなど思っているんですよ。そして、民間の方が本当に自分たちでリスクを取ると日夜研究開発をするんですよ。しかし、おんぶにだっこだとなかなか成功しない事例はいっぱいです。これがコンサルタント漬けになっていると、地方自治体がコンサルタント漬けになっていると言われるゆえんかなと思って、そこは何と

か再構築できないかなという思いで、メンバーの方と今度いろいろ話合いをしようとしています。よろしくをお願いします。

○議長（遠藤博昭）

6番。

○6番（宮崎稔子）

分かりました。本当に商品開発はリスクを伴うものかもしれませんが、大川市にあります農業、漁業の方々も6次産品を一步前に進めないと、本当に後継者不足も大きな痛手となっているのも現状でありますけれども、そこにかける一つのアイデアに、じゃ、次のアイデアはなかなか発想が出ないのが今の現状だと思うんですね。そこにKAWABA様のようないろんな引出しを持たれた方がいろんな角度から大川市の商品を見られて、この見方じゃなくてこっちから見るんだよと、そのことに気づかせていただけるということを私は本当にお話をお聞きしながら感じたんですね。だから、本当にもったいない話だと思って、昨日のやり取りをお聞きしながら、これが頓挫してしまうというのはもったいないなという思いで今日も改めて質問させていただきまして、申し訳ありません。もし何か市長のお考えの中で、新しい商品を開発、それで終わりじゃないんですよ。そこから次の裾野が大きいというか、そこから次の開発に、ああ、こういう視点からだったらこうなるんだ、ならこっちからどうだろうというそこに気づかせていただけるためのコンサルタントではなかったのかなと思っております。

この食に関する商品等の開発は、市内で生産されているあまおうとか福岡有明のりなど、日頃から農漁業者の方々が丹精込めて生産されている食材を最大限に生かして、特別性を持たせた魅力ある商品等の開発、販売を進めていく計画だったと思っております。食の取組はこれからの大川市の観光産業にとって大変重要なテーマであり、加えて農漁業の6次産品開発が後継者への意欲となり、商品開発が終わりではなくて、そこから次に本当に大きく開いていく糸口であり、様々な観点への課題解決、冒頭でお話ししました大川Rebuilding（リビルディング）事業の理念として掲げた新たなマーケットへの船出、価値を再発見し発信、持続性と迅速性を持った組織の構築、ここに繋がっていくのだと思っています。

デジタル田園都市国家構想交付金の活用についても、先ほど馬淵議員のほうから、その一つを活用して大川市がやる、これには官民が一緒に連携して行うという条件ではなかったのでしょうか。行政に何ができるのか、行政だからできること、そこにしっかりとまた目も注

いでいただければと思っています。

今後どのような取組で大川Rebuilding（リビルディング）事業をされていくのか、状況は待ったなしでありますので、大川市の農業も漁業も木工業におきましてもそうですが、後継者へとつないでいく一手の模索を今現在しております。市として道を開く後押しをすることが市の力ではないかと思っておりますし、そのことで光が見えて、アイデアが次々と広がる、市全体の活性化につながる、市が立て直っていく。どうかそのような大川Rebuilding（リビルディング）事業となりますことをぜひお願い申し上げ、江藤市長の力を発揮していただく大きな事業となりますことを御期待申し上げます。

以上で私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

**○議長（遠藤博昭）**

ここで暫時休憩いたします。

なお、再開時刻は13時5分といたしますので、よろしく願いいたします。

**午後0時6分 休憩**

**午後1時5分 再開**

**○議長（遠藤博昭）**

休憩前に引き続き本会議を再開し、一般質問を続行します。

次に、13番平木一朗議員。

**○13番（平木一朗）（登壇）**

皆様こんにちは。議席番号13番、平木一朗でございます。

まずもってでございますが、また、改めましてになると思えますけれども、箴島かおる議員が先月お亡くなりになりましたことに関しまして、心から哀悼の意を表したいと思えます。

箴島議員におかれましては、副議長、また、各委員長、また、副委員長として、しっかりと支えていただいたこともあり、また、何度か意見が食い違って討論したことも正直あります。彼女は彼女なりの自分が思うことをしっかりと議会において発言をされ、また、まちづくりに生かしていただいたことじゃないかなと思っておりますし、あまりにも短い人生で、本当に悔いもたくさんあるんじゃないかなろうかと、5期目の挑戦にしてもやりたいこともたくさんあったんじゃないかなろうかと思っております。

同じ議員といたしまして、本当に心から哀悼の意を表したいと思えますし、また、こういう発言のところでございますけれども、彼女自身、3回目の選挙、また4回目、また5回目

の選挙ですかね、SNS等で思いもしないような、全く関係ないような被害、誹謗中傷というんですかね、そういうふうなことで苦勞されていたことは事実であります。何度もその話は聞かせていただいたし、いわれもないことを言われているということも認識しております。今、SNSというのは非常にやっぱり怖いと感じる次第でございますし、捉え方としても大きく間違っただけの情報というのものもあるのじゃなかろうかなと思う次第でございます。

オーストラリアの国のほうでは、2024年11月ですね、先月、ソーシャルメディアのSNSの利用開始年齢を16歳以上とする法案を可決した。国民の77%が賛成をしたということでもありました、その関係については。

また、アメリカのほうでも、各州によりますけれども、フロリダ、ユタ、アーカンソー、そういったところでも、親の同意なくして、保護者の同意なくして15歳未満の子どもの利用を禁止しているということでございますが、この情報、また、こういうふうなメディアというものは、やはりその利用の仕方によって大きな問題があるわけでありまして、我々、日本国内においても、このSNS、相手が分からない、誰が発信したかも分からない、匿名による誹謗中傷によって自殺したお子様、また、大人社会もプロレスラーの女性の方がお亡くなりになったのも皆さん御存じのとおりだと思いますので、やはり社会人として、また、子どもたちの利用の仕方も、この行政の中ではしっかりと市民の方たちにSNSの上手な活用の仕方、そういうものを教えるべきじゃないかなと感じる次第でございます。

我々議会人としてもやっぱりその辺のところを一番、この行政、また法律、そういうところに詳しくいなきゃいけないと思いますので、それぞれの新しい情報、また、不特定とかそういうふうな匿名による発信等は、そういうことに関しては責任のある発言をされてこの議場の中にいらっしゃると思いますので、そういうところに関してはしっかりと守るべきことは守っていただきたい、そのように感じている次第であります。

このSNS等の問題で、兵庫県議会の件でもありましたけれども、国会でも早速その話がありました。立憲民主党の若元清美参議院議員が、選挙においてSNSで偽情報、間違っただけ情報が拡散されている現状を指摘。公職選挙法では候補者の偽情報を公表することが禁じられているとした上で、SNSへの偽情報の投稿も該当しますかということで、村上誠一郎総務相のほうに問うことがありました。その中で村上氏のほうが公職選挙法に定める虚偽事項公表罪の対象になるという見解も示されたということで、国内においても皆さん御存じのとおり、このSNSによる不特定、また、匿名による発信等について誹謗中傷等が見られた際

には、即座に開示請求かれこれを行うことということで法改正があったばかりでありますので、その辺のほうもつけ加えさせていただきたいと思います。

さて、今回の一般質問、新しく江藤市長のほうが生誕されたわけでございますけれども、やはり今通告等にいただいた部分で、文書かれこれ読みました部分で、まだまだ市民の方たちも、同じく江藤市長のほうに投票をされた方もいらっしゃるれば、もちろん違う、別の対抗馬のほうに、候補者のほうに票を入れた方もいらっしゃいます。

そういう中で、今後、大川市がどのように進んでいくのかということが市民の方たちは非常に関心が高いものじゃないかと思えます。市長が替われば一気に物事が変わってしまうのかとか、そういうことで議員の皆さんのほうにもそういう質問が多々来ているかと思えますので、江藤新市長のほうは今考えていらっしゃる今後の大川について、目指すべき、自分自身が市長に立候補されたわけでございますので、自分自身が目指したい大川の形、大局観、そういうものについて、市長が選挙時、また今回、今議会において開示されました文書等ですね、そういうものを活用させていただいた上で、江藤市長の今後の大川の思想、考え方というのを質問席のほうで聞かせていただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

**○議長（遠藤博昭）**

13番。

**○13番（平木一郎）**

江藤市長に関しては初めての質問になるかと思えますが、議場でありますので、できることであれば回答いただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたしますと思います。

この中で市長のほうが開示討論会やメディア、そういったものでいろいろと発言されたと思えますし、今回も所信表明という形で発言されているかと思っております。その中で、かいつまんで大変申し訳ございませんが、やはり大川市といえば基幹産業は、木工業を中心とする基幹産業があります。また、農業、水産業のことだってあります。公開討論会の中では江藤市長のほうは、大川市は産業低迷、人口減少とか財政の悪化とかそういったことを言われて、三重苦に直面しているということで言われてあったと思えます。その中で、国内最大の家具・インテリア産業を持つ大川市は、この地場産業に最大限の支援をすべきということが発言されております。AbemaTVのほうにもたしか当選をされたときには、また最大限と

という言葉じゃなくて、そのときのあれだったと思うんですけども、違う表現の仕方もされてあったんじゃないかなと思いますけれども、支援をしていきたいということは間違いなかったんじゃないかなと思っております。

そういう中で、販路拡大、やはりこれは誰が市長になっても同じことですが、自分の地域のところの産業、また販売、そういったものが、商業もそうですけれども、販路拡大していくことは非常に大事なことだと思いますし、農業、水産業に関しても同じことだと思っております。

そのような中で、販路拡大ということも今回の一般質問、前日か何かの中でも言っていただいたと思っております。非常に裾野が広いインテリア産業でございますけれども、具体的に今現在思っていることの手始めとか例えばの話でも結構でございますけれども、このような産業の振興のことについて、江藤市長のほうから今後こういう形で大川は進んでいきたいと思っておるということを回答いただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）（登壇）

もう何度も今まで聞かれたんですけど、今まで申しているとおります。

○議長（遠藤博昭）

13番。

○13番（平木一朗）

じゃ、私が先ほど申しましたような形の販路拡大、また、海外への進出ということで、そういうことを視野に入れた中で今後政策をつくっていききたい、そういうことを考えていらっしゃるということでよろしいでしょうか。——よろしいですね。はい。

また、農業、水産業のことに関しましてですけども、同じように販路拡大の中で海外の話があったかと思えます。この海外の販売というのは非常に、やっぱり基準というものがあまして、厳しいところも多々あるんじゃないかなろうかなと。御自身の中で、商売ももちろんされておりましたもので、いろいろな苦難も乗り越えていらっしゃるのだと思いますけれども、そういう農業、水産業に関して、どの部分に関したら海外の市場かれこれを攻められるような大川の魅力、そういう商品というのはあるのか御確認したいと思っておりますが、今現時

点で結構です。あるかどうかを教えてくださいたいと思っております。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

農産物、それとも家具。（「農産物、水産業ですね」と呼ぶ者あり）水産業。

非常に食品というのは輸出が難しく、それは様々な物流が絡んでいますから、様々な検討が要ると思います。しかし、今農産物について、どこがどういう販路があるかというのは今後検討しなければいけないというふうに思っています。

○議長（遠藤博昭）

13番。

○13番（平木一郎）

今のところでいうと正直な答えじゃなかろうかなと感じはいたします。

本当に国によって農薬の基準かれこれが全然違うもので、例えば、福岡県産のあまおう、確かに有名なブランドで、海外から来られる方たちは非常に喜びます。おいしい、本当にこれは大粒でおいしいねと言われます。しかし、使われている農薬の基準によって出せる国と出せない国があったりするわけなんですよ。そういうところに関しては、よくよく農業水産課のほうと話し合った上で、また、商品開発をする中で、そういう一つ一つの基準をクリアすることも大事だし、これは倉重前市長も同じように販路拡大を目指しておりましたもので、これは一朝一夕にはできないことかもしれませんが、ちゃんと地に足をつけて一步一步、職員の意見を聞きながら、前に進めるべきことは進めていかなければいけないと思うし、継続できることはやっぱり倉重市長のいいところの部分は継続してもらいたいこともありますもので、その辺のことを御理解いただきたいと思っております。

この木工に関してでありますけれども、やはり木工といっても、アメリカの話がたしか討論会の中でたくさん出てきたと思っております。アメリカといえば、言われるように、討論会の中でござとかそういったふうなことを含めたところで、インテリア産業ということで言われてあるけれども、やはり基準というのが全然、体格だったり、生活スタイルだったり、昨日の一般質問の中ではヨーロッパの市場といっても言われるとおりになんです。あそこはいいものを長年大事にすることがあるので、メンテナンスかれこれということで全然売り方というのが変わってくるかと思えます。しかし、大川の中にも伝統的工芸だったりとか、ま

た、箱物で売れるものだったりとか、様々に大川の中にも幅広い形で商品作りというのはさ  
れているもので、やっぱりその辺のところ、必要不可欠なところ、また、売れるだろうと、  
市場調査というのは非常にしなきゃいけないんじゃないかなと思っております。

そういう中では、行政としてインテリア課というのがありますけれども、やっぱりそう  
いうところの販路拡大について、海外に進出するに当たり、大川市として販路拡大しよう  
とするわけですから、インテリア課とそういったところは共有して前に進んでいきたいのか、  
それとも市長自らのほうが何かしら提案を持ってくるのか、そういうところを詰める、また、  
協議をする場所というのはどのようにお考えになられているのか、お聞かせいただきたいと  
思います。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

もちろんインテリア課とは綿密に打合せしながらやっていきたいと思っています。それで、  
私のほうでも何か情報があれば、インテリア課と協議しながらやっていこうと思っています。

○議長（遠藤博昭）

13番。

○13番（平木一郎）

ありがとうございます。倉重前市長、その前の鳩山市長の時も、せっかく大川のインテ  
リアの基幹産業、このままにしておくのは非常にもったいない。だから、自分の力によって、  
できる範囲、トップセールスで何とか広げていきたい。いわゆるふるさと納税の商品、返礼  
品にしても、しっかりあそこの場でPRをしていただいて、大川家具というブランドの底力  
というんですか、底上げをしていただいたのは事実でありますので、その辺のところに関し  
てはしっかり行政のインテリア課のほうの課長をはじめとして、職員というのは非常に今、  
「大川の駅」のときもたしかそうだったんですけども、いろんな企業に出向いて行って、  
やっぱり職員は職員でしっかりとクリエイティブに、大川はこうやったらもっとよくなるん  
じゃないかということで職員はいろいろ考えてくれています。そういったところを大事にし  
てもらいたいなというところがありますので、先ほど江藤市長が言った言葉、そのままのほ  
うはぜひそういったことで引き続きをお願いしておかなきゃいけないんじゃないかなと感じ  
るところでもあります。

また、そのところで、これはまた含めて総合的に後で申したいことでもあるんですけども、次に、公開討論会の中ですかね、子育て、この話がありましたね。その中で一部、分らなかったと言われるけど、「大川の駅」の話をされて、また止められたこともあったと思うんですけども、大川市の子育てはもっと力を入れなきゃいけない。そういう中に、政策として18歳までの子どもについて、保育園、認定こども園の副食費、小・中学校の給食、これは前回、昨日の一般質問、また、今日の一般質問とかでもあったように、完全無料化を目指していきたいということでありまして、私の観念で物事を申させていただきますと思うんですけども、基本的にこれは地域格差があまりにもあり過ぎるんですよ。大川も財政調整基金だったりとか、経常収支比率とか、その辺のことを所信のほうで述べられましたけれども、もともと大川は自主財源がそんなに多いわけでもありません。国、県からの補助金かれこれを活用しながらやっているのが事実でありまして、無駄を削るといっても、とことん大川市の多分実情を知っていらっしゃると思うんですけども、大川市だけの単独の財政だけでは扶助費も賄えないぐらい正直厳しいわけなんです。

そんな中で給食無料とかそういう話をされる際に、やはりこれは市長、それはしたいのは私たち議会の中でも何度もそういう話は出ているんです。養育費の軽減だったり、たしか前市長、前々市長のときもそうだったんですけど、出ているけれども、本来はこの地域の格差、福岡市や東京都、それと大川とか地方というのは、これは柳川市にしても大木町にしても全く同じ問題じゃないかなと思います。自主財源比率からいうと、そうそう変わらないものだと思います。

そのような中で、やはり本来は行政としての仕事、そして、我々議会としての仕事というのがあると思います。それに関しては無償化じゃなくて、やっぱりそういう格差をしっかりと、地方の行政のトップであるんだしたら、国や県に訴えていただくことが本来の一番早い仕掛け方としては正しいことだと思うし、我々議会としても本当にこの問題に関しては、やはり国や県、そういう格差を設けてどうするんだと、東京都あたりは高校無償化までやっている、そういうことじゃなくて、本来地方から仕事を求めて都会とかそういうふうに出ていくわけですから、1人子どもを成人まで育てるために約2,000万円の経費が行政としてかかるというデータだって出ております。2,000万円つくって、その子がよそに行ってしまう、そして、よそで働いてしまうということがありますから、やはりそういったことに関してみれば、この給食費を無償化するとかということじゃなくて、財源としては何かと必ず求めら

れることかもしれませんので、我々議会としてはそれがまずは先手のうちだと思っております。

この子どもの無償化については、おいおいまたそういった形の討論はしなきゃいけないんじゃないかと思っておりますし、私の前提としては、まずそこが入り口じゃないかと思っておりますので、その辺のことを御理解のほどをお願いしておきたいと思っておりますので、その辺のことを御理解のほどをお願いしておきたいと思っておりますので、その辺のことを御理解のほどをお願いしておきたいと思っておりますので、その辺のことを御理解のほどをお願いしておきたいと思っております。

そういう中において、英語教育とか何かそういったことも出ております。これは少子化、また、高齢化対策ということでございますけれども、高齢者の方たち、そういった方でお風呂の話とかいろいろ出てきたかと思っております。今現状の時点で、住みやすい大川を描く中で、高齢化対策について今現時点で、具体的に来年度の予算とかもあるとは思いますが、今、江藤市長の中で高齢化対策に対して、自分自身がこういうふうなまちづくりをして高齢者の方たちが生きやすいようにしていきたいというのがあるかと思っておりますので、その辺のことをよかったですらお話しいたきたいと思っておりますので、お願い申し上げます。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

平木議員、これは今までの議会で全く同じ質問なんですけど、私は高齢化対策というのは大事だと思っております。まず、要介護にならないとかですね、そんなことも大事だし、一つ近々の課題としては、この前も言ったとおりに、まず、和式のトイレを洋式に変えていきたいと思っております。それで、この前も言ったと思うんですけど、グラウンドゴルフをしているおばあちゃんが、一旦座って立ち上がれないとか、そういう苦情がいろいろありまして、現状を把握しながら、まずそれを第一歩としてやっていきたいと思っております。

そして、そのほかについても、今後様々なことを市の担当課と協議しながらやっていきたいと思っております。それは以前の議会でも申しました。

○議長（遠藤博昭）

13番。

○13番（平木一朗）

形、ハード面の話になってくるかと思っておりますが、やっぱりソフト面というのが非常に大事なところもあると思っております。最近でいうと、病気だと未病という言葉がありますね。

病気、健康の間のちょうど未病というところですね。やっぱりこのような方たちが、1つ何かが欠けたら病気になってしまう、また、外出の機会を増やさなきゃいけなかったり、また、頭の体操だったり、好きなことをやって発言、言葉を交わす環境だって大事になってくるかと思っております。

そのような高齢者に対しての具体的な話というのは、今後、今から煮詰められるんじゃないのかなと思いますが、先ほど言った和式を洋式に変えるということであれば、また、和式は和式の――高齢者に向けてのことであればそうかもしれません、ここは議場ですが、踏ん張る力というか、やっぱりそういうことでもあると思うので、そういったところもですね、やっぱり何が何でも全部変えたらいいということでもないかと思えます。バランスということも大事でありますし、まずはやっぱり健康面、大川の場合はどうしても健康でいていただく、健康年齢をいかに増やすか、多くするかということが結局はさっき言った扶助費の部分にも大きく軽減になってつながってくるかと思えますので、その外出の機会、そういったものについて、ハード面のトイレかれこれのお話は聞かせていただいたんですけども、大川は認知症予防だったりとか、外出の機会ということで高齢者の人たちが集まるまちづくりとか、そういったふうな拠点をつくって今現在動いておりますもので、その辺のところについて市長もそういったものは継続していくつもりなのか、やはりその予算の関係があって見直しをしたいと思っていらっしゃるのか。その辺りとか、物事によっても全然違うと思うんですけども、一言で言うと、いいものは継続したいということが正直な答えになるのではないのかなと思いますけど、そういう形でよろしいですか。

**○議長（遠藤博昭）**

市長。

**○市長（江藤義行）**

平木議員の言われるとおり、いいものは継続していきたいと思っています。

日曜日に学習療法という、これも議会で答えましたですけどね、そういうのがあるらしいので、ただ、なかなかそれは難しいので、大川市ではなかなか取り組むところがあまり増えていないと。しかし、全国では1,050か所ぐらいそれを取り入れているという話を聞きました。それをすることによって介護度が下がっていくとかいうふうなことも聞いています。あるいは10年たっても介護度が上がらないとか、そんな話も聞いていますから、どういう格好で老人対策をしていくのか、今後いろいろ考えていきたいと思っています。ぜひ協力をお願い

いしたいと思っています。

○議長（遠藤博昭）

13番。

○13番（平木一朗）

所信表明で得たことの内容だけでは十分には私たちのほうも伝わらないもので、具体的に、ここは議場でありますので、討論する場、大所高所からの論議をする場所でありますので、できる範囲のことだけは回答いただければと思っているのが、普通の議場であればそうじゃないかなと思っています。

私自身も副市長の案件かれこれの反対の討論をさせていただきましたけれども、やはりできるだけ冷静に、そして、できるだけ回答いただきたいようにしていることをごさいますので、その辺のことは御理解のほどまたいただきたいと思います。

そういう中で、今度は少子化のほうですね。先ほどからも、午前中の一般質問の中でも、やっぱり大川市、目標とする数値がありますけれども、なかなか達成数、これは正直言って、絵に描いた餅と言われる議員さんたちは正直いらっしゃいますけれども、現状からいえば、それに関して邁進していくことが政策としては非常に大事なわけなんですよ、計画というものは。計画でマイナスにするようなことを出すようなところはほぼないと思っています。

じゃ、その部分に関して、この少子化対策のほうで給食費かれこれのことがありましたけれども、やはりそういうことでは——もちろんそれもあります。我々は、この大川というのは、以前という言葉になるかと思いますが、今でも私は非常に社長さんたち、会社の社長さん、零細企業を含めまして、いろんな商業のほうの社長さんたちもいらっしゃるし、そういうところが非常に多いかと思っています。子どもたちというのは、確かに保護費に当たる部分を手厚くすれば、近隣からの方たちは来るかもしれないけれども、近隣は今度減るかもしれない。そういうことよりも、インテリア産業のまち大川だからこそということで、大川の子どもたちにいろんな経験をさせなきゃいけないと思っています。海外に留学するときの補助金であったりとか、ものづくりに関する、特例で夏休みの期間中に椅子を、例えばの話ですよ、例えば椅子を作らせたりとか、そういうことでいろんな経験をさせて、この大川で俺は育ったんだ、私はここであったからこそパン屋をやったんだとか、そういうものが子どもの政策、少子化とかそういったもので特色のあるまちづくりじゃないかなと感じているところがあるんですよ。

そういう中において江藤市長のほうは、昨日、今日の話のことの中でですけども、その少子化の中で回答のほうで、もうちょっとやっぱり、ちゃんと会社のほうもされてあったと思うし、子どもも育てられたと思いますので、こういう経験をさせておけばよかったなというのが多々いろんなものがあったと思います。その部分について、やっぱり将来の大川の子どもを育てるという部分で、どういうものに対してエネルギーを費やして、どのような形で子どもを、この大川に子どもを育てていきたいのか、そういうことをお聞かせいただければと思います。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

平木議員、もう少し幾つか分けてもらいたいんですけどね。今までに私が述べたようなこともあるしですね。まず最初、幾つか、2つか3つか分けていただくと分かりやすいんですけどね。

○議長（遠藤博昭）

13番。もう少し的を絞って質問してください。

○13番（平木一郎）

じゃ、的を絞った上でいかせていただきます。

少子化対策、大川の魅力、大川で子どもを育てる魅力ですね、そのことに関して、江藤市長が考えるこの魅力、大川の魅力、そういったことで政策があれば教えていただきたいということです。（「大川で育てる魅力。それだけでいいんですか」と呼ぶ者あり）はい。

○議長（遠藤博昭）

子育てをする（「魅力」と呼ぶ者あり）魅力は江藤市長はどう考えていらっしゃるか。

（「大川で子育てをする魅力ですね」「いやいや、いいですよ」と呼ぶ者あり）市長。

○市長（江藤義行）

ぜひ平木議員ともこの問題についてはいろいろ協議しながら、本当に大川で、大川が本当に住みやすいと、子どもを育てやすいというようなまちづくりをしたいのは十分思っています。そのために、緑多いまちとか、きれいなまちとか、クリークがきれいになってきたとかですね。それから、こういう大川が好きなんだというような、そういうまちにしていきたいと思っています。ぜひ平木議員とそこら辺は話合いをして、どうすれば大川を魅力があるま

ちにできるかをぜひ検討、議論して、今後とも具体的に議論していただけたらなと思っています。これは大事なことです。それが子育てにもつながります。子育てしやすいまちにもつながると思っています。

いろいろこれから意見も聞かせていただいて、今後の大川の施策に反映させていければなと思っています。よろしくお願いします。

○議長（遠藤博昭）

13番。

○13番（平木一郎）

その辺のところは子ども未来課のほうの課長かれこれも、モッカランドとかそういったことで十分に子どもと接して、わざわざよそからもやっぱり大川で、その空間を共有したいということで来られる方がたくさんいらっしゃいます。そして、木工業の力だと思うんですけども、子育て支援センターは木育ということで木のおもちゃかれこれというものもあります。大川ならでは、木を通してから五感を育てるということは非常に大事なことじゃなかろうかなと思います。そういうものがもともと大川にある木工という魅力ですから、やっぱりそういったことで子どもを育てることも非常に大事なわけであるし、先ほど言うように大川に行かせたら年間的に留学とかそういったものでいろんな経験、知識を学んで帰ってこれるよ、そういうことで大川市にぜひとも住みたい、親が住みたいと思わせること、そういうものがやっぱり本来子ども、大川市の魅力をつくっていくことだと思うので、無償云々ということももちろんそれは苦しい方とかそういったことにはいいかもしれませんが、近隣の自治体かれこれのことを考えて、また、国の情勢かれこれを考えて、地方の格差、限られた自主財源のことを考えれば、やっぱり大川だからこそ、ここで子育てせんといかんとよねと思わせることは考えてもらいたいと思っていますし、これは今、私は議会の立場として発言させていただいています。今、江藤市長に関しては行政のトップとしてそこに座っていただいておりますので、いち早くそういったところに関しては、自分の所信表明をもっと肉付けされた部分をまた発言のことをお願いしておきたいなと感じているところでございます。

そして、次の質問に移ります。

防災対策ですね。防災対策についてということでもありますけれども、これは江藤市長には本訂正してほしいなと思うんですけれども、これも「大川の駅」のことを、公開討論会の話をしてあったときに、大野島みたいなところということだったりとか、あんなところと

いう発言があつて、大野島だつてあそこでもたくさんの方が住んでいらつしやるし、あんなところと言われたら物すごくやっぱりそれで私のほうにも電話があつたんですよ。やっぱりそういうことであつて、幾ら候補者といえども、聞く人が聞いたらそれは差別に聞こえてくるところもあるし、やっぱりそういうところに関しては、今どのようにそういうふうな自分の発言に対して思つてあるのか。あんなところというのは今でもそう思つていらつしやるのか。そういったところを市長のほうにもお願いしたいと思つています。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

そのような表現をしたりして不愉快な思いをされた方にはおわびしたいと思つています。

あのようなとかいうような表現、あんなじゃなくて、あのようなというような表現にできればなと思つています。あのような地域ですよ。中州になつたようなというような地域——ような表現でいいのか、そこら辺もまた聞かせていただければ。

○議長（遠藤博昭）

13番。

○13番（平木一郎）

表現の仕方がこれまた、この議場だけではなくて、いろんな場面で、手法においてもいろんな形であると思つています。正すべきことは正してもらわないと、議会とそういったことであつてもやっぱり許せる部分、許せない部分、また感情的なところだつてありますので、住んでいる方たちからして、私は大変この人はと逆に思ったぐらいだつたんですよ。そういったところに関しては、自分の発言、言つてしまったことは仕方がないけれども、その後のきちつとした反省、今日、遠藤議長のときもそうやけど、一軒一軒挨拶にということもありましたけれども、やはりそれを中止かれこれしたときというのは、それなりに、首長というか、会社の社長も同じなんですけれども、その辺の対応というのはお願いしておきたいなと感ずるところです。

また、防災訓練、防災のことに対して、江藤市長のほうは公開討論会のほうでは特段、大川の防災のことについて述べられてはいなかつた、大野島の件をたくさん述べられておりましたけれども、特段述べておらずに、消防団の報酬の増額を検討していますということでありました。消防団の団員数が不足しているというのが現状にあつたんじゃないかなと思

います。そういったことはまたおいおい話しながらしなきゃいけないんですけども、この大川市って今まで防災、一番多いのが、水害が非常に危険で、台風対策、大雨、その水害というのが非常に大川にとっては身近な災害で多いかと思っておりますが、江藤市長のほうはこの災害、水害ですね、この対策について、どのように防災をしていくのか、その辺のところを行政のトップとしてお聞かせいただきたいと思っておりますけれども、お願いできますでしょうか。

**○議長（遠藤博昭）**

市長。

**○市長（江藤義行）**

今感じていることと言われているのは、雨がかなり降ったときですね。線状降水帯ですかね、あれが降ったときに、各地区でクリークから漏れて道路に行って、中庭とか、それから、玄関口まで来るところが何か所かあるらしいんですよ。特に三又とか中古賀にそれが多いというのを聞いていますので、それを現地を確認しながら、なるべく早くそういうことが起こらないように、今まであまりこう大雨が降ったり、そういうのがなかったからですね。しかし、今後、線状降水帯が来て、それがダブルに来たりしたときに物すごく雨が降りますから、その対策に備えたほうがいいんじゃないかなという、今のところ感じは持っています。

**○議長（遠藤博昭）**

13番。

**○13番（平木一朗）**

ありがとうございます。対抗して、前市長であった倉重市長のほうの言葉でありますけれども、本当彼ほど防災意識で水防に対する、特に防水に対しては本気で24時間の使い方の中で、大川市民がこの防水、水害に対して守らなきゃいけないという意識が高かった人間、いろんな市長がいらっしゃいましたけれども、いなかったんじゃないかなと思うんですよ。

梅雨前線のときもそうだったし、もちろん大雨の注意報だったときもそうやけれども、常に雨雲レーダーかれこれを見ながら、行政のほうと判断しながら、行政の内部はそうかもしれませんが、近隣市町村の首長さんやそういった担当者をお願いをして、水門を先に上げとってくれないとか、自治体関係なく近隣自治体をお願いをしながら防いだのが事実なんですよ。大川市の場合は防災が、ここ最近水害がなかったじゃなくて、未然にそういうことを、特に農業に関係あって知識も高いというところだから、彼ほどそういった

ふうを意識をして防いできたことも事実なんですよ。三又のほう、中古賀かれこれというのは、ここ数年、定期的にこうなっておりますので、新橋川の排水ポンプであつたりとか、そういうことも苦勞されてあつたことも事実でございます。

この水害に関しては、大川というのは緩んどつたらすぐ水につかる場所、うちの榎津だつて水につかります。そういったところを考えると、やはり今までの市長、倉重市長はそうやって近隣自治体との関係と、そして、大川でつかりやすいことの把握、そういったふうな災害が起きやすいところの把握というのをしっかりされてあつたと思います。

市長は先ほどからの、ずっと昨日からの答弁の中で、大変忙しい業務というのは誰でもやっぱり市長というのは私たち議会側としてもそれは認識しておりますけれども、大川の市民、それから言うと、やっぱり水害、これは何回もつかればそれは感情的になりますよね、つかる場所に関しては。その辺のところを今後、この大川で災害が起りやすい場所だつたり、そういったことに関して報告ではなくて御自身のほうで確認をするのかしないのか、その辺のところ確認をするのかしないのかということをお願いできますでしょうか。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

それはします。

○議長（遠藤博昭）

13番。

○13番（平木一朗）

これは本当に倉重前市長のことで申し訳ないけれども、そういうところで今までなかったわけじゃない。本当にいろんな場面において気にかけて、常にそういったことを確認した上で行政の職員の人たちとの信頼関係の中にそういったものを連携し合ったことは事実でありますので、やっぱりそういったところに関してはすぐ、この大川の場合はハザードマップでいうと、どこでもレッドゾーンで軟弱地盤であります。そういう中において災害が起りやすい地域でもあるということだけは、御自身で確認をした上で対策というのを練られるほうがいいんじゃないかなと思っておる次第でございます。

また、そのほかのことで申し上げますけど、広域消防、この中で久留米広域のほうでということ、市長のほうは大川市独自の組織に戻すことも大変重要なことだということ公開

討論会で答弁をなされましたけれども、今現在、首長として、行政のトップとして今ある中で、この広域消防のほうを外れるということはまずならないということで認識しておりますけれども、広域消防、これを外したいと、今でもそう思っているんじゃないでしょうか。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

そのことについては私の認識の間違いでした。それは申し上げておきます。

○議長（遠藤博昭）

13番。

○13番（平木一朗）

今、多分、御自身の立場になられて初めてそういったことの、行政の職員から物事の説明かれこれがあつて認識の間違いというのはあつたんじゃないかなと思っておりますので、その辺のところに関してはちゃんと認識していただいて、大川の災害に対しても広域消防は非常に助かっているんですよね。広域になったからこそ助かっていることも多々あります。

はしご、13階建ての、椅子付きのレスキュー車だって大川市単独で買えるような金額ではないにもかかわらず用意していただいていることもあるので、そういったことに関しては認識の間違いであれば、やっぱり認識の間違いということを先ほど言っていたようにやっていただけたらなと思っておる次第です。

また、この財政面ですね。先ほどまずもって自主財源のほうで申し上げました。経常収支比率ということで、これは前市長の言葉だからということで言われておりましたけれども、これは江藤市長が言われる言葉の中のほうですかね、最後のほうだから。私自身はこのことに驚くと同時にということで、これは国ですね、福岡財務支局融資課による財務状況把握の結果概要ということでございますけれども、驚くと同時に、非常に危機感を感じて、早急の対策を行い、大川市の財政を正常化に向け、動く必要があると認識しておるところでございますというような表現をされておりますが、これは前日の質問の中でもありましたけれども、確かに経営として、うちの大川市のほうは裕福ですよとはとても言えるような状況じゃなく、長年において、この財政調整、経常収支比率というのは自由財源があるのかなのかということで大きく違ってくるわけです。

その中で江藤市長のほうは、それを分かった上でと思っておりますけれども、もちろん削減のほ

うの努力をしなきゃいけないけれども、税収も上げなきゃいけないということでございます。この税収を上げるという言葉の中には、やっぱり産業の活性化、そういうことであると思っておりますけれども、そのほかの産業の活性化をするに当たって、インテリア産業かれこれのことはあると思います。御自身も工業関係の出身でありますので、この辺のところ、例えばの話でも結構なんですけれども、こういうことで税収アップ、上がるような経済の活性化を促していきたい、政策ですね、産業の活性化の政策、それを今考えていらっしゃる、例えばの話でも結構です。お聞かせいただけたらと思いますので、お願いいたします。

**○議長（遠藤博昭）**

市長。

**○市長（江藤義行）**

これはもう今までどおり発言してきたように、やっぱり活性化させなきゃいけないというふうに思っています。地場産業も家具の製造業だけじゃなくて、これも今まで説明したとおりなんですけど、運送業とか建築、金物業ですね、それから様々な、いっぱいあって、それもまた地場産業を支えているんですよ。だから、製造業じゃなくて、運送業、卸屋さん、小売店、それから様々な、例えば、建具ですね、建具、木材、そういうのが組み合わさって一つの産地を形成しています。だから、各業種とも支援していかないとよくないなという認識を持っています。

ということは、トラック業界なんかは今は、この前もこれは話したと思うんですけどね、荷物が家具はもう3割以下だと。それ以外、全国にネットワークを組んで様々なところで発展されているところもございまして。そういうのも地場産業を支えている一角になるから、こういう方に対しても何らかの支援、トラック業界に対しても支援するとか、そんなことも必要じゃないかなと思っています。これは今後、各団体、組合と話し合いをしながら、大川は製造業を支えている、これは製造業は物すごく大事なんです。しかし、この前も話したとおり、製造業も勤める人がなかなかなくてですね。それで、海外に発注したり、そういうのもやっています。これはファブレスというんですけどね。

だから、周辺の地場の業界も支援していく必要があると。そして、例えば材木業界は、大川の家具業界に木材を納めるだけというような感じじゃなくて、今は材木屋さんが、聞いていますが、家具の輸出をしたりですね。これはどうしてかと。材木業界というのは海外にしょっちゅう出かけていますから、そういうルートが出来上がるんですよ。だから、そう

いう方たちとも連携をして支援していくような方向で、大川の家具産業を支えている様々な業種、それが全国に、そしてアジア地区に、それから世界に広がるように、何かこうできたらなと思っています。その思いはすごく強いものです。

○議長（遠藤博昭）

13番。

○13番（平木一郎）

私がずっと発言した言葉でございますけれども、物流を制すれば市場を制することができる。やはり大川を支える基幹産業と木工かれこれは非常に大事なわけでございますけれども、今農業の発展しているのも実は物流が強いところが強いわけなんですよね、JAとかはまた別として。水産業にしても同じことだと思います。大川は幸いにしてトラック業界かれこれというのが全国網でまだ持っております。また、海外に輸出する際かれこれもコンテナというのが基本になっております。このようなことを活用していくと、大川の中でも今後、これは倉重市長も言っていたことでありますけれども、やっぱり有明経済の活性化、底上げを図っていくことが大川にとっての相互理解の中で大事な部分かと思っておるわけでございますので、この大川が持っている物流、これを生かすことが、木工業にも農林水産業、そういったところにも生かせることだとは間違いないかと私自身も思っておりますので、これを生かすためには佐賀空港だったり三池港、長洲港、そういったところの今後、車だけじゃなくて有明海自体が電気で、いろんな物流のターミナルが出てくる可能性だって重々にあると思うし、そういうことを考えますと、大川が今から10年後、20年後、ムーンショット計画、2050年までは言いませんけれども、やはりその10年後、20年後に来る未来というのは大体想像が出てくるかと思えます。

そういう中に、やはり我々の大川市が今やらなきゃいけないことというのは、生産年齢の方たちが一人でも多く大川に住んでいただいて、働きやすい環境をつくっていただくことが、一番大川にとっての、これは長年にわたる各市長たちの思いでもあったと思います。この働きやすい環境づくりということで、江藤市長のほうも同じように、住みやすい大川、働きやすい大川ということを何か答弁されていましたね。これは倉重市長からも、また鳩山市長からも同じように、この生産年齢の方たちにいかに大川に多く住んでいただけるかといったら、やっぱり仕事の先があるかないかによって全然変わってくるんですよね。

今後、市長がトップセールスかれこれの中で、企業誘致のほうもそれはしなきゃいけない

かと思えます。こういうふうに働きやすい大川、働き口を増やしていかなきゃいけない中で、どのようなところに関して企業、または地方、そういったものに対する働きかけを行っていききたいのか、その辺のことをお聞かせいただけたらと思っております。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

これは企業誘致のことですかね。

○議長（遠藤博昭）

13番。

○13番（平木一朗）

企業誘致をはじめとして、やっぱり大川は働ける場所を増やしていかなければいけないと思いますので、これは企業誘致で大手の企業も入っていただければそれがいいかもしれませんし、今ある地場産業の方たちが働き、新しくよそから大川に働きに来られることも大事かと思えます。働きやすい、働ける環境を大川はつくっていくために、市長として、企業誘致をはじめとして、どのようなところで働きやすい環境というのをつくっていかれるのか、今の展望でもいいのでお知らせいただきたいと思っていますところでは。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

なかなか幅が広くてですね。要するに、働きやすい環境づくりは、ある意味じゃ住みやすいということも関連してくるんですよね。そして、子育てしやすいとか、様々なことに関連が、恐らく相関状態で関連がしてきます。それで、ぜひ働きやすい、そして住みやすい、これは一緒ですから、必ず相関しますから、そういうまちづくりをしていきたいと思っています。

それとともに、今本当に力を入れていますのが企業誘致です。私もトップセールスで様々な企業に今アタックしています。成果は一応インテリア課のほうに聞いていただくと分かるんですけど、それとともに、あるところには大川に社宅を造ってくれと要望に行っています。そこは二百数十名ぐらい大川のあれにいるから、そこは通勤だけしか採用しないということですから、今トップセールスで、大川に社宅を造ってもらえんדרろうかという要望をしてい

ます。そういう格好で様々な動きはしています。

ですから、ぜひ、今後どのくらい成果が上がるかよく分かりませんが、もう本当に命を賭して頑張りたいというふうに思っています。

そして、大川が将来の子どもたちにとって住みやすい、本当に大川に住んでよかったというまちを、非常に抽象的なんですけどね、それを目指したいと思っています。ぜひ平木議員と一緒にそこら辺はお互いに議論できればなという思いです。

#### ○議長（遠藤博昭）

13番。

#### ○13番（平木一朗）

具体的な話もいただいたことじゃなかったかなと思うし、これからまた広がって話が出てくるんじゃないかなと思っているところでございますけれども、「大川の駅」のことで申し上げさせていただきます。

あくまでやっぱり目的が「大川の駅」のように答弁は聞こえていたんですよね。公開討論会とか様々な中で、SNSで発信されてあったことに関しても、100億円を超えるとか、そういったふうな話を聞いた中で。しかし、誰も、この議会の中でもいろんな形で承認をした上でこの「大川の駅」というのはなっているのは事実、闇の中ということは一切ないわけでごさいます、それともう一つ大事なことで、倉重市長のときだってそうなんですけれども、将来の大川の人口、そして少子化、そういうことに対して対策をもって止めるために、いかにこの生産年齢の方たち、また、仕事があるのとないのとでは介護人口も随分変わってくるんですよね、介護に携わる人たちの職場というのが。

やっぱりそういうことも考えた中で、将来的に大川で住みやすいまちづくりをしなきゃいけないために、その形の手段として「大川の駅」ということの手段を選ばれたことが事実であって、一番大事なところというのは雇用をしっかり考えたまちづくりじゃないと今後、この3万人、今3万1,000人台になりましたけれども、そういったまちづくりだからということで、そういう投資額の云々とかじゃなくて、目的はあくまで、今、江藤市長が言われることと似たような——似たというか、基本的には将来の大川を危惧した中での手段ということとは十分理解をしてもらっておきたい、それを感じるわけなんです。それがなかったらまたいろいろと討論しなきゃいけないと思っております。そういう中であります。そういったことを一つ一つ御理解をしておってもらいたいなと思います。

そういう中において、この大川の駅整備振興課の課長とか、誘致に関してもそうだったんですけど、非常に職員さんというのは、いい意味での公僕なんですよ。行政が、執行側が議案を提案される。そして、我々議会側がその議案に対してやるかやらないかを決める。決めた後のことで執行部、職員の皆さんというのは、それが滞りなくクリアできるように、体を挺して頑張っていたのが職員さんなんですよね。そういったことに関して、「大川の駅」と、いろいろ昨日からの答弁かれこれ聞いておりましたが、やっぱりちょっと、私自身の感じなんですけれども、言葉が足りないなというところは正直感じるところがございます。

職員の皆さんに関してもその辺のところ、理解も多分苦しいところもあると思います。やっぱりその職員との関係というのは非常に大事かと思しますので、その辺のところ、職員は私たち議員以上に、現場、行政、市民の方たちとか専門の職業の人たちに関しては非常に詳しく経験を持っておりまして、自分だったらこうやったらこういうことだったらまちづくりに生かせるよとかクリエイティブな意見だって出てくることです。そういう中において、この職員との関係、それをよくすることは当たり前なことではございますけれども、一般質問の昨日の中の打合せどおり、今のところ私、丁寧に質問しているつもりでございますので、答弁いただいているんですけども、やっぱり職員との関係の中で、これは何というのかな、通告外という言葉が多々出ておりましたけれども、この関係の中でしっかりと執行部側のほうも多分答えとかも出てくるんじゃないかなと思うので、市長として、職員——昨日は若者の職員に対しての勉強会とかをちょっとし始めているというふうな発言もあったと思うんです。しかし、やっぱり現行課長、非常に優秀な職員さんたちも多々おるわけなんですよね。今まで長年やってきた方たちの、そこをどう生かせるかということをして市長としてお答えをいただきたいと思いますが、よろしく願いいたします。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

平木議員、ありがとうございます。私が幹部の課長の人たちを全くおろそかにしているというわけではありません。私が今頼っているのは課長の皆さんです。本当にいろいろ教えてもらいながら、何度も何度も私の部屋に来てもらって、これを教えてくれとか、それを何度も要求して呼んでいます。そして、説明してもらっています。これは本当に私が大体この大

川市の市庁舎の全貌がほぼ理解できたというのは、やっぱりこの幹部連中、幹部の人たちのおかげだと思っています。私がこれは初めてなもんですから、なかなか理解が進まない面もあるんですよ、いっぱいあってですね。しかし、それも丁寧に教えてもらっています。本当に私自身はありがたいと思っています。

ですから、この市庁舎の中の人たちと、いい、本当に大川市の市役所で働いてよかったというような市役所づくりをしようと、働きやすい、本当に大川市で働いてよかった、市役所は本当に働きやすいんだというのを目指しています。それもやっぱり若い人たちともやりながらですね。そうすると、こういう若い人たちが大川市は本当に働きやすいんだよということを広めてくれると思っているんですよ。それがまた移住につながったりすると思って、これは本当に、今若い人と話しているのは、本当にこの大川市役所に来てよかったと、すごく働きやすいというようなことを今取りかかっています。どんなふうになるかというのはぜひ期待していただきたいと思っています。よろしくお願いします。

そしてまた、いろいろ平木議員も今までの経験が豊富ですから、聞かせていただくと私自身が助かります。よろしくお願いします。

○議長（遠藤博昭）

13番。

○13番（平木一朗）

やらなきゃいけないことは多々あると思います。初めての経験でもあり、そういうことはありますので、その中で職員の方というのは正直に答えてくれていることが多々多いと思うんですよ。その耳をしっかり傾けていただいて、御自身の中の納得、不納得もあるかと思いますが、納得できるような形で示していかなければ関係というのはいままでできなかったかなと思うし、ただ、今やっぱり市民の皆さんも、職場、市役所の中の空気のこととか、その辺は非常に敏感に言われております。それ自体に関しては、やはりこれは江藤市長、あなた自身のほうがしっかりとそれに前向きに考えていただいた上で、御自身の中で変えていくと言われたんですから、変えていかなきゃいけないことは多々あるんじゃないかなと思っております。

それともう一点、今回、人事案件とかありましたけれども、私自身、前副市長、また教育長、彼たちほど責任感が強かった人間はいなかったと思いますよ、本当に。なぜ辞めたのかということも、多分職員の皆さんだっただけ私達は理解していると思っております。なぜ任期

満了でもなくてその前に辞めたのか。そういったところは、私もこの場で言うともたいろんなことで侮辱かれこれになる言葉でもあると思うので、最低限控えるべきことは、初めての討論の場でありますので、控えることは控えさせていただきたいんですけども、議員のほうからまで失礼な言葉だつて出てきました。

そういう中において、私は本当に責任感が強い副市長、また教育長がなぜそのときに辞めなきゃいけなかったのかという部分をしっかりと御自身の中で考えていただき、そして、これをまた今後職員の方たちの関係の改善に生かしていただけたらなと思っている次第でありますので、その辺のことは詳しくは申しません、今回の件に関して。じゃろじゃろで言うてもいかんと思いますので。ただ、本当に責任感が強くて大変すばらしい副市長と教育長であり、またそういったことであつたのは事実でございますので、途中で辞めたみたいな発言がありましたけれども、やっぱりできないことは、失礼に当たることはできるだけ控えていただければと思っております。

最後になります。

何だかんだいっても、やっぱり広域連携、この大川市の中で自主財源も非常に少ない中で、近隣の差が、柳川、大木、また大牟田、みやまとか、そういう方たちと連携しながらまちづくりを進めていかなければいけないと思うし、我々が目指さなきゃいけないのは、この広域の中で、有明広域の中に定住という形で住んでいただく人たちを増やすことは、各市町の首長さんたちの総合的な努力の中で生まれてくるんだと思っております。

そういう中で、先ほど広域連携の話がありましたけれども、私自身、広域連携なくして経済の発展がないぐらいの今の気持ちでございますので、その辺、広域連携、会議がないからそういう話にまだなっていないというふうな、先ほど誰の質問やったかな、広域連携の話をしたいんですけども、まだ会議があっていない、話がないからということじゃなくて、御自身が動かなければ開かないものだってたくさんあるかと思っております。

この広域連携なくして大川の発展はないかと思っておりますが、その辺のところ、広域連携について再度市長のほうに、どのように考えていらっしゃるのか、お聞かせいただきたい。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

広域連携については、今本当しよっちゅう、関市長、大牟田市長ですね、それから、筑後

市長の西田さん、それから、柳川市長の金子さんですね、金子さんはもうすぐ引退されるんですけど、様々な首長と、広川町の氷室さんとか、大木町は広松さんですかね、そういう町長とか市長としょっちゅう会っています。私がまだ新米なもんですから様々なことを教えてもらってですね。そういうのを基に、あまりにも会い過ぎるから、会ったりするから冗談まで飛び交うみたいな感じのような信頼関係を築いています。それで、広域連携が必要なときにはすぐ動きます。どういう格好の広域連携が必要かというようなことも含めて、動こうと思っています。

1つ、西田議員が言った、蒲池から延伸ですか、こちらのほうまで、これについても、柳川市長とこのことについて、昨日ですかね、西田議員からいろいろ聞きましたから、このことについては早速、金子市長と話をしてみようと思っています。私もまだちょっと現場に行っ確認をしていませんけど、もしこれが必要性がかなりあるなら金子市長に言ってみようと思っています。

一応そんな感じで、広域連携は物すごく必要だと思っています。よろしくお願いします。

#### ○議長（遠藤博昭）

13番。

#### ○13番（平木一朗）

もう時間となりました。私自身は初めて江藤市長のほうとこうやって議会の中で対談というか議論をする、ここは討論の場です。議会側というのは、最後になりますけれども、この議場、一般質問ですね、そういうものに対してでございますけれども、質問を行う目的といたしましては、ただ単に執行機関の所信をただしたりとか、事実関係を明らかにするだけにとどまることではないと思っています。所信をただすことによって、執行機関との政治姿勢、明らかにして、それに対する政治責任を明確にさせたり、そして、結果としては現行の政策を変更、また是正させる、また新規の政策を採用させるなどの目的があるわけですよ、この議会という、この討論の場では。そして、大所高所からの政策を建設的に討論を行う場なんです。

最後になりますけど、先ほど広域連携の話をいただいておりますけれども、初めてのことで、誰から教示されたか分からないけれども、通告外だから答えができないとかではなくて、できる限り、例えばという言葉であったりとかいいけれども、やはりできれば私、関係する質問であれば、今の答えでもいいので、そういうことをやり取りしながら、議会とい

うことに関して、ノーサイドということが言われておりますけれども、やっぱりそういったことでこちらもできるだけ、初めてのことであれば紳士的に、また、いろんな政策をなるべく聞きたいということもあってそういうことを発言していることをございますので、その辺のところはよろしくお願ひしたいと思ひます。

これをもちまして私の一般質問のほうを終了させていただきます。

**○議長（遠藤博昭）**

ここで暫時休憩いたします。

なお、再開時刻は14時15分としますので、よろしくお願ひいたします。

午後2時6分 休憩

午後2時15分 再開

**○議長（遠藤博昭）**

休憩前に引き続き本会議を再開し、一般質問を続行します。

次に、2番宮崎貴仁議員。

**○2番（宮崎貴仁）（登壇）**

皆さん改めましてこんにちは。議席番号2番、宮崎貴仁でございます。議長のお許しをいただきましたので、これより一般質問をさせていただきます。

市長が交代され、新体制となつての初めての本会議での一般質問となりますが、どうぞよろしくお願ひいたします。

まず冒頭に、第10代の大川市長として2期8年にわたり、全ては市民の皆様の笑顔のためにと、昼夜、休日を問わずして市政の発展に御尽力をいただいた倉重前大川市長をはじめ、市三役としてお務めをいただいた皆様に深甚なる敬意を表し、心から感謝を申し上げます。

また、さきの衆議院選挙において、ここ大川市選挙区でも圧倒的な得票を得られて4期目の当選を果たされ、今般の第2次石破内閣において、地方創生を管轄する内閣府副大臣に御就任されました第9代の大川市長でもありました鳩山二郎代議士にも心から祝意を申し上げます。

そして、11代市長となられました江藤市長におかれましては、今本会議初日の所信表明にて述べられましたよう、持てる力の全てを傾け、大川市政発展に日夜御奮迅いただきますことを切に願ひ、質問へと移らせていただきます。

今回の私の一般質問は、子育て・教育、文化芸術の振興における市長の政策についてであ

ります。

通告、そして執行部との打合せに従い、子育て・教育、そして文化芸術に関する施策や取組などをできるだけ幅広くお尋ねしてまいりたいと思いますので、市長をはじめ、執行部におかれましては、できるだけ簡潔明瞭に御答弁いただきますようお願いいたします。

それでは、これより質問席のほうより質問をさせていただきます。

**○議長（遠藤博昭）**

2番。

**○2番（宮崎貴仁）**

それでは、早速質問のほうへと移らせていただきたいと思います。

市長は今日までの政治活動や選挙活動の中において、子育て・教育においても様々な公約やお訴えを市民の皆様にしてまいられました。11月1日号の市報に掲載の就任挨拶や、この本会議初日の所信表明の中でも、幅広くして、未来を担う子どもたちへの投資を強化することで、次世代の活力ある大川を目指しますとされました。しかしながら、具体的なその内容が見えづらいものもありますので、まずは市長の子育て・教育施策に対する思いと内容がどのようなものか、端的にお聞かせください。

**○議長（遠藤博昭）**

市長。

**○市長（江藤義行）（登壇）**

宮崎貴仁議員、端的にですか。（「はい」と呼ぶ者あり）端的に子育て・教育ですね。

これは子育ては、本当に子育てして住みやすいまちにしたいと。それは本当に私が望むところでございます。そのためにいろんな支援をやっていきたいというふうに思っています。

それから、教育については、やっぱり子どもたちがなるだけ出ていかないで、大川で高校までおっていただけるような、そういうような教育環境をつくりたいと思っています。そのためにもどうすればいいかというのは、大川樟風高校というのが大川にはありますけど、ぜひ大川樟風高校を何か盛り上げる方法はないのかとか、定時制ですか、あれはかなりこの九州でも優秀なほうらしいんですね。そういうことも含めて、何か支援ができる部分があれば、ぜひ支援してまいりたいと思っています。

それから、文化芸術は言ったっけ。（「いや、言っていない」と呼ぶ者あり）次ですよ。

（「はい」と呼ぶ者あり）一応そういうことで頑張りたいと思っています。

○議長（遠藤博昭）

2番。

○2番（宮崎貴仁）

それでは、続いて質問させていただきます。

市長は先般の市長選を戦われる中で、昨日はこの本会議場において、どこの団体からも何の支援もなくとお答えをされておりました。保育関連団体からは推薦をされてあったのではないかと思います、その御記憶はございますか。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

ありません。

○議長（遠藤博昭）

2番。

○2番（宮崎貴仁）

分かりました。

それでは、続けて質問させていただきます。

市長は選挙公約の中で、保育園等の副食費について触れられてきたやに思いますが、今、幼児教育・保育現場の中で求められているのは果たして副食費の課題でしょうか。というのが、実は先ほど推薦の話をさせていただきましたが、私が聞き及んでいる限りでは、ある保育関係団体からは推薦状を出したと聞いておりました。そこをちょっと市長が御認識がないので、これから先にちょっと進めますが、まずは大川市の保育料はお幾らなのか、分かればお示してください。

○議長（遠藤博昭）

山口福祉事務所主幹。

○福祉事務所主幹（山口 馨）

お答えいたします。

保育所、認定こども園の保育料につきましては、子ども・子育て支援新制度が始まりました平成27年度から、保育料を国の基準額からおおむね7割の減額とすることで子育て世帯の負担を軽減し、子どもを育てやすい環境を整えてきたところでございます。

令和元年10月から幼児教育・保育の無償化により、3歳以上児の保育料については無償化となったところでありますが、3歳未満児の保育料につきましては、市独自の施策として引き続き約7割軽減を行っており、筑後地区で一番安い保育料となっているところでございます。

以上でございます。

○議長（遠藤博昭）

2番。

○2番（宮崎貴仁）

御答弁のとおり、現在は3歳から5歳児クラスは無料であって、大川市においては3歳未満児の保育料においては国の基準の約7割軽減となっているわけです。要するに、あまり負担なく保育所に預けられるシステムが今取られているわけですが、保育所というのは、やっぱり安心して子どもを預けられて、育ちを学ぶ場として、子どもたちが安心して通える環境づくりが先決ではないかと思います。今日の保育の場の現状と課題をどのように今認識されているのか。そして、市長がこの課題に向け、推薦を受けられていないと言われましたが、その課題に向けてどのように取組を今お考えなのか。何かあれば、分かってあることがあればお示してください。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

課題ですか。（「はい」と呼ぶ者あり）保育園とか、課題。

これは安心して預けられるような保育園環境等も大事だし、それからやっぱり親御さんが自分たちの子どもを、私自身もまだ認定保育園等もいろいろありますけど、そこら辺の認識はあまり深く理解していないんですけど、全ての子どもさんたちが安心して預けられるような環境にしたいと。そして、できる限り食費なんかも無料化したいというのは私のやまやまな思いです。すごくそれは思っています。

○議長（遠藤博昭）

2番。

○2番（宮崎貴仁）

その安心して子どもを預けられる場所である保育園等が、今、人材不足によってすごい

困ってあるんです。そうと言われましたけど、その課題に向けてどう取り組まれるかというのをお聞きしたかったんですけれども、副食費の問題もありますけど、実はその副食費よりも、先ほど市長も答弁いただきましたように、そこに預けられる環境を整えるのがまず先決じゃないかというお話をさせていただいております。

お隣、筑後市さんにおいては、なぜ人員不足になっているかというのは、保育士さんが転出されていくわけなんですよ。職場を変わられる。というのが、筑後市さん、ちょっといつかホームページを見ていただければ分かると思いますけど、「筑後市で保育士になろう！」という取組がありまして、20万円の給付金が出されます。10万円、取りあえず出されて、2年目10万円で保育士さんの確保をする。それはやっぱり保育現場の充実が図られて、それがひいては子育て、人口増にもつながっていつているわけですので、私の観点からすると、副食費よりも先に、そういう保育現場、安心して預けられる現場の拡充というか、充実が必要なんじゃないかと思って、1個目の質問をさせていただきました。

ちょっとこれは質問を終わらせていただきますけど、市長に申し上げさせていただきたいのが、私は先ほど申し上げましたように、保育関連団体から推薦状を出されたというのを認識しております。後日で結構だと思いますけど、選対におられた方に、私、この場でも言わせていただきましたので、御確認をいただけたらと思いますので、よろしく願いいたします。

次に、学校教育について質問をさせていただきたいと思います。

市長におかれましては、就任後、各部局による丁寧なヒアリングを受けておられ、既に御承知のこととは思いますが、本市は教育振興プログラムにおいて、「未来へつながる、人がつながるまち おおかわ」を基本構想として教育大綱が策定され、本年、まさに第2次木の香プランが始動している最中でありますが、現在の本市の教育方針に対する市長の考えと、新たに市長が目指すとされる教育方針があれば、どのように描かれているのか、お示してください。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

これは本当に宮崎貴仁議員、通告外。それを書いとってってもらえれば、私いろいろ考えたんですけど、通告外案件のために答弁は差し控えたいと思っています。

○議長（遠藤博昭）

市長選挙のときに……（「議長、いいです」と呼ぶ者あり）いいですか。2番。

○2番（宮崎貴仁）

通告書を読ませていただきます。「子育て・教育、文化芸術の振興における市長の政策について」。そして、ここにまた小さく見出しをつけさせていただきます、子育て・教育に関する施策と取組についてと表立って銘打たせていただいております。これに入っていく前提の、私は課題がこれだと認識をして通告をさせていただきます。これが通告外と言われるなら、どこまでを細かに書かなくちゃいけないのかという非常に困難になってきますし、質問する側としてはなかなか投げにくい問題になってくるとは思いますが、次の質問へ移らせていただきます。

これは市長が公約として掲げられている分に関してお話しさせていただきますので、通告外と言われなくても済むのかなと思いますが、公約の中でも英語力トップの自治体へと英語教育の強化が示されていましたが、本市においては既に英語教育への取組も始まっているのではないかと認識をいたしております。

現在の取組内容を、執行部のほうからでも構いませんので、お答えをいただき、そしてその後に、その現行の取組説明後に、市長が公約とされている英語教育の強化とは具体的にどのような取組なのか、市長のほうより御教示ください。

順次、続けてお願いいたします。

○議長（遠藤博昭）

藤岡学校教育課主幹指導主事。

○学校教育課主幹指導主事（藤岡忠司）

宮崎貴仁議員の御質問にお答えします。

まず、本市における外国語教育の実施状況ですが、小学校においては、中学年で週1時間、年間35時間、外国語活動を行っております。高学年では週2時間、年間70時間、外国語科を実施しております。中学校では教科として英語を週4時間、年間140時間実施しております。授業にはALT、外国語指導助手を小学校5名、中学校1名を導入し、指導の充実に努めているところです。また、大川小では、同じ敷地内にある大川桐英中学校の英語担当教師が外国語活動、外国語科の指導を行い、小中の連携が図られているところです。

また、本市では、英語を用いた暗唱やスピーチを他校の児童・生徒と発表し合うことを通

してコミュニケーション能力の基礎を養うとともに、さらに英語力を伸ばしたいという意欲を高めるため、小学校6年生及び中学生を対象にした大川市小中学生英語スピーチコンテストを毎年9月に実施しております。このコンテストは、学習指導要領の改訂に伴い、小学校での外国語が教科化された令和元年度から実施しております。

なお、教育委員会が主催して、小学生も含めた英語スピーチコンテストを行っているのは、筑後地区で大川市だけです。

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の拡大のため中止をいたしました。その後、オンラインで各学校を結び、今年で第5回目を迎えることができました。児童・生徒の発表はどの学校もすばらしく、英語でのスピーチに加え、身ぶり手ぶりを入れたり、友達とのやり取りを行ったりして、年々そのパフォーマンスの高まりが見られます。さらに、このスピーチコンテストに出場した中学生が南筑後地区のコンテストでも優秀な成績を収め、令和5年度、令和6年度、連続して県大会に出場することができております。

以上です。

**○議長（遠藤博昭）**

続けて、市長。

**○市長（江藤義行）**

スピーチコンテストについては、今、理解できました。

今後、英語教育に関しては、やっぱり本当は留学するような制度を設けたほうが一番いいんですよね。私たちが属している大川ロータリークラブというのがありますけど、そこは毎年、1年間交換留学をしています。1年間、向こうで日本語を全く話さないと、帰ってきたときにすごく成長しています。だから、こういう交換プログラムを設けるようにすれば、本当にすごく成長が早いということを私たち実感しています。

日本の中でも、この交換留学制度は大川が一番多いそうなんですよね。これを本当は、年間1人だけしか予算の関係でないんですが、これを2人とか3人ぐらいにしていけばすごくいいんじゃないかなというのはあります。しかし、お金も要ることだしですね。だから、何か交換留学というのをもう少し広げていければなという思いがあります。そのことをどう実現していくかは今後の課題だということで考えていきたいと思っています。

**○議長（遠藤博昭）**

2番。

○2番（宮崎貴仁）

交換留学制度はよく理解できましたけれども、市長がここに書かれている子育て支援と教育の充実の中で、英語力九州トップの自治体へと公約の中に書かれているんですね。これの具体的な内容が交換留学制度というふうに今認識したんですけど、それでよろしいですか。——分かりました。じゃ、それを授業体系の中に何かを持っていくというわけじゃなくて、その交換留学制度の充実を図るということで九州のトップに持っていくということの認識でよろしいですか。

○議長（遠藤博昭）

ちょっと返事だけは。市長。

○市長（江藤義行）

取りあえず、今そのことが念頭にあります。

それと、ほかに考えていることがありまして、今後、少しずつ絵が描ければ、おいおい発表していこうと思っています。

○議長（遠藤博昭）

2番。

○2番（宮崎貴仁）

それでは、次にお尋ねをいたします。

これからA Iの時代、もうまさに入っております。ビジネスも言語翻訳、全てA Iでビジネスも繰り広げられています。そのような中で、未来の教育を形づくるのに、今、最も重要とされ、注目をされています教育D X、それとI C T教育については、市長はどのようにお考えなのか、お聞かせください。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

非常に二律背反的なものがあって、この前、P T Aの会合に出ました。本来なら教育長がそこにいる場なんですけど、いなかったんで、私のほうが挨拶させてもらいました。これも議会でちょっと説明したかと思いますが、スマホをどうやって使うかとか、どうやって子どもたちに制限するかとか、そんな意見の交換がなされて、意見を言うと、そこにA Iが絡んでいるということで私もびっくりしました。へえー、こんな場でA Iを使っているんだと

ということで、私の昔からの認識では、K J法という分析の仕方があったんですよね。それがA Iに替わってきたということで、こういう技術の進歩にすごく私自身びっくりしているところですよ。ぜひこういうようなことも取り入れていながら、その悪い部分も除去していくような格好にしなきゃいけないかなという認識があります。

○議長（遠藤博昭）

2番。

○2番（宮崎貴仁）

ちょっとスマホとICTとかDXの教育、若干ずれがありますので、後でまた資料をもしあれでしたらお渡ししますので、読んでいただけたらと思います。

次に参りたいと思います。

それでは次に、生きた教材である筑後川を活用した自然体験型の学習についてであります。市長は去る10月29日の定例記者会見で、国土交通省が支援制度に8月8日に認可、登録をし、ハード、ソフトの両面から国が整備支援を決めた筑後川下流大川地区かわまちづくりについて、これ以上工事はしないと発表されましたが、その計画は、子どもたちの郷土愛を育み、大川の子もだから経験のできる筑後川での水辺学習や体験学習に大いに活用できるものではないかと思いますが、このような教育振興にも大いに期待されることも考えての発言だったのでしょうか。その発言に今もお変わらないのか、お答えください。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

この川の駅、水辺のそういうようなことについては、今後どうするかについては様々な場面で検討していきたいと思っています。それが本当に必要なのかとか、環境問題もあるしですね、そのことを今後検討していきたいと思っています。

○議長（遠藤博昭）

2番。

○2番（宮崎貴仁）

ということは、工事はこれ以上しないと記者会見の中で述べられましたが、ちょっと今後また検討し直すという捉え方でよろしいのでしょうか。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

方向としてはしません。しかし、様々な機関と連携しながら、どういう格好でやめるのかとか、もちろんあそこの埋立てしているところをどういう利用をするかというのがありますから、そこら辺も含めて検討していきたいと思っています。

○議長（遠藤博昭）

2番。

○2番（宮崎貴仁）

ぜひ、せっかく国がハード面、ソフト面にかけて、両方とも支援をしてくれる事業ですので、前向きに御検討をいただきたいと思います。

それでは、昨日、そして先ほどの平木議員の一般質問の中でもありましたけれども、市長の子育て・教育における最大の公約でもあったであろうかと思われまます給食費の無償化についてであります。

副食費、給食費の無償化は、確かに子育て世代の負担を軽減するためには大変有効的な施策であるし、大変助かる施策ではあると思っています。しかしながら、この課題は、今、選挙ツールとして大変聞こえのよい施策であって、江藤市長、いわゆる大川市の自治体を取り組むべき施策としてふさわしいものなのか、ちょっとお尋ねをしていきたいと思っています。

この件に関し、市長が公約として小・中学校の給食費完全無償化をうたわれた一番の要因は何から来たのか、教えてください。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

私もこういう市政をあずかるに当たって勉強しました、様々な本を読んですですね。どこそことは言いませんけど、それをすることによって、ずっと10年間減少していたのが2年か3年後ぐらいに増加していったと。そいけん、今も増加していっているというふうなことの本を見て、そこには給食費とか無料化も当たり前だと。医療費も無料化も当たり前だというふうにして書いてあったんですよね。私自身もぜひしたいと思っています、給食費の無料化。

今までいろんな方とお会いしました。3人の子どもさんを持っている、4人の子どもさんを持ってもらわれるんですね。それで、本当にこれをすれば、本当は2人、あるいは1人ぐら

いのお子さんも、ああ、こんなに給食費が要らないんだったら、今、苦しんでおられるんですよ、給食費も上がってですね。そしたら、もう少し2人よりも3人がいいからという格好で、3人も4人となるんじゃないかなという気がしています。すごく今、食費の値上がりとかで、多くの子どもさんを持っておられる方は苦勞されています。そういうことで、ぜひできるというふうに思っています。財源の裏づけと言われるかもしれないんですけど、様々なことを勘案するとできると思っています。

以上です。

○議長（遠藤博昭）

2番。

○2番（宮崎貴仁）

ありがとうございます。

ちょっと先ほどもだったんですけど、そして午前中の一般質問の中でもだったんですけども、市長の御答弁の中で、給食費が年々上がってきているという御答弁を先ほどもされましたけれども、これは私が文教厚生委員会の中にいる記憶の中じゃ、ここ近年上がっていないと思うんですね。これは執行部のほうからちょっとお答えをいただいて、この議場での発言ですので、全国的に流れています。これは誤解を招く発言でしたらお取消しをお願いしたいので、よろしく願いいたします。

○議長（遠藤博昭）

添田学校教育課長。

○学校教育課長（添田宗孝）

すみません、今のほうで訂正をさせていただければと思っております。

令和2年に給食費の改定を行って、現在まで据置きでやっております。物価高騰分に関しましては、国の重点交付金を使って、その分は保護者負担の軽減を行っているところでございます。

以上です。

○議長（遠藤博昭）

どうですか、今のを聞いて。市長。

○市長（江藤義行）

最近、打ち合わせたときに、私たちは大体1億円ぐらいで済むだろうと。給食費の無料化、

1億円。（「ちょっとごめんなさい」と呼ぶ者あり）

○議長（遠藤博昭）

ちょっと待ってください。

○市長（江藤義行）続

済むだろうと思ったんですけどね。そして、話をするうちに、いや、今では1億3,000万円とか、ひょっとしたらそれ以上かかるんじゃないかなというのを聞いて、それを私自身は、ああ、給食費が、食費が上がっているかなという認識で言いました。私どもが最初、これを無償化しようとしたときには1億円ぐらいの試算でした。それで最近、この答弁の打合せをしたときには、いや、実を言うと1億3,000万円以上かかるんじゃないかなということがあって、それを私自身がその場で食費が値上がりしているかなという認識で言いました。

以上です。（「今ので大丈夫です」と呼ぶ者あり）

○議長（遠藤博昭）

いいですか。2番。

○2番（宮崎貴仁）

多分、今、市長がおっしゃっているのは、給食の原材料費等々のお話ですよ、今御答弁されたのは。午前中、そして今、私たちの認識の中では、給食費が年々、親御さんが上がっていると言われるのは、御負担される給食費が上がっていると、多分ほぼほぼ議員の皆さんもネット中継を見られている方も認識されていたと思うので、給食の御負担される給食費が年々私は上がっていないと認識していたので、誤解を招きますよということで執行部にお尋ねしたところでした。市長の、ちょっと逆に言われた認識が若干ずれがあったのだと思いますので、ちょっとそのまま続けさせていただきます。

市長はお母さん方からも物価高騰のお話等々もよく聞かれると今おっしゃっていましたが、昨日の答弁の中においても、日々の暮らしに困っている人がいるとは思わなかったという御発言もありました。市長は日常生活を送られている中で、物価の高騰をどのようなときにお感じになりましたか。

○議長（遠藤博昭）

いいですか。市長。

○市長（江藤義行）

皆さん御承知のように、マスコミも新聞も様々な形で、ガソリン代も値上がりしているし、

食品が卵やったら5割値上がりしているし、それから米も5割以上値上がりしているとか、それは御承知だと思います。こんなに私自身も上がっているのかということ、実を言うと驚いています。そういうことでございます。

○議長（遠藤博昭）

2番。

○2番（宮崎貴仁）

要するに、実体験としてじゃなくて、マスメディアを通じて、そういうことが何か理解されているということで認識をさせていただきたいと思います。

私が聞いている中では、給食費に戻らせていただきますけれども、昨今、小・中学校において給食費の滞納はほぼないのではないかと——ほぼですよ。ほぼないのではないかと認識をしており、低所得者家庭等には就学援助や教育扶助といった支援策も手厚く執り行われると承知をしておりますが、本市におけるその取組等の内容と適用率等が分かればお示ください。

○議長（遠藤博昭）

添田学校教育課長。

○学校教育課長（添田宗孝）

お答えいたします。

経済的な理由により、学校での学習等に必要な費用の支払いにお困りの御世帯に対して就学援助制度を設けております。学用品費や給食費等を援助することで、保護者の経済的負担を軽減するものでございます。対象の保護者には給食費の全額を援助しており、率といたしましては児童・生徒数1,987人の約25%、約500名が対象となっております。額にして約2,500万円となっております。

以上です。

○議長（遠藤博昭）

2番。

○2番（宮崎貴仁）

ありがとうございました。

さきにも述べてきましたように、給食費の無償化は子育て世帯への支援策としては本当にいい施策だと思っております。効率的かつ本当に人目につく施策と思いますが、昨日、古賀

寿典議員だったと思います。質問をされて、お答えをちょっと通告外ということでされなかったと思いますけれども、改めてお聞きをします。

給食費無償化に取り組んである近隣自治体があれば、これは市長でも執行部でもどちらでも構いませんけど、分かれば教えてください。

○議長（遠藤博昭）

分かりますか。添田学校教育課長。

○学校教育課長（添田宗孝）

近隣自治体で完全無償化の自治体はございません。

以上です。

○議長（遠藤博昭）

2番。

○2番（宮崎貴仁）

市長はこのような施策、本当にいい施策、皆さん多分そう思われていると思いますけれども、このような施策をなぜ近隣自治体が取られていないとお感じになりますか。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

政策というのは近隣自治体を見ながらするものではないです。やっぱり今、大川がこれだけ地場産業が低迷しているときに、そして人口が減っているときに、何かやるのは、やっぱり子育て支援じゃないかなと思っています。そうすれば人口減の対策にもなるし、これは私の公約だからぜひ実行したい。本当にこれはやるべきです。それは私、自信を持っています。そうすると、子育てがすごい助かります。本当にそれがまた子育て世帯の消費につながって、それから余裕ができたなら海外に留学させようとか、心配しなくてよくなりますから様々な消費につながる、そんなことを私は考えています。

以上です。

○議長（遠藤博昭）

2番。

○2番（宮崎貴仁）

この施策、私も絶対やってほしいと思います。ただ、私が今、近隣自治体はなぜやらない

か分かりますかとお話をさせていただきました。午前中の馬淵議員、そして先ほどの平木議員のときに市長も御答弁いただきましたように、近隣自治体との連携強化というのはすごい重視されると御答弁をいただきました。その話も踏まえた上で、次に進ませていただきます。

先日、10月の末に、この議会で同席している文教厚生委員会で視察に行きました。実はその視察先の自治体の中で、給食費無償化に取り組まれている自治体があったんですね。そこで、全委員同席をさせてもらっている中ではありましたけれども、給食費無償化についての効果をお尋ねさせていただきました。その自治体のお答えというのが、効果はあまりなくて、1つの自治体が始めると、周りの自治体もやり始めますと。結果、各自治体が財源の負担が増えていくだけで、やっていないところが悪い自治体みたいに見られてしまうというお答えをいただいたので、一端を述べさせていただいて、文科省が昨年9月に給食費無償化を実施している教育委員会に向けたアンケート調査によりますと、給食費無償化を実施している自治体のうち、約76%がふるさと納税や寄附金を使わない自主財源、もしくは地方創生臨時交付金で賄っており、無償化における課題として財源の確保が挙げられています。本市の小・中学校における給食費、材料費だけでも、先ほど市長仰せのとおり、年間約1.3億円と認識をいたしております。今や連日のように新聞やメディアで103万円や106万円の壁が大きな話題となっております。地方自治体の税収の減額が懸念されていることは市長もよく御承知のことと思います。

本市では本年より学校校舎等の本格的な改修工事に取りかかっており、令和7年は1.1億円の改修予定額も示されておりました。まさに、まず取り組むべきは子どもたちの安心・安全に学べる環境づくりが先決ではないかと考えますが、給食費の無償化をされる際の財源確保をお聞かせいただこうと思いましたが、先ほどいろいろ方法がありますと言われましたので、ここの見解はお聞かせいただかなくて結構ですので、そのまま私の思いを述べさせていただきます。

本市の限られた財源の中で、これまでの行政サービスや市民サービスを低下させることなく財政運営していくことは、まさに市長の手腕にかかるものと思いますが、私は義務教育下における公立小・中学校の給食費の無償化の課題は、先ほど平木議員もお話しになりましたけれども、地域の格差や地方自治体財源への影響を及ぼさないようにするためにも、現在、国がこども未来戦略方針などで実際に取りかかって、動き始めている事業であることは市長御存じだと思います。

先ほども何度も繰り返しますけれども、近隣自治体が一緒に手を組んでやるべき施策だと私は思っておりますので、近隣市町村と手をつなぎ、国への要望、陳情活動を一日でも早くしていただくことがまさに重要であって、公約として掲げてこられた江藤市長、あなたのこれは責務として、私は近隣自治体と一緒に国への予算要望というか、取組要望に行っていただきたいと思いますが、そこはいかがお考えでしょうか。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

いや、それも取り組んでいきたいと思っています。貴重な御意見ありがとうございます。

○議長（遠藤博昭）

2番。

○2番（宮崎貴仁）

多分これは公約に出されるときに、市長もたくさん調べられたと思います。国だけの資料で、物すごい莫大な量があります。多分再来年ぐらいにはひよっとすると始まるかもしれませんが、ただ、今いろんな実施アンケートを今年度取らせてもらっているみたいですので、その辺も踏まえた上で、とにかく近隣自治体と一緒に、これは地方自治体を守るためでもありますので、ぜひ一緒になって要望活動を行っていただきたいと思います。

市長は昨日、様々な自治体で効果が出ていると答弁されておりましたが、この課題は全国PTA連絡協議会の中でも、社会的、経済的、教育的な観点からも、多岐にわたり影響を及ぼす複雑な問題であり、無償化に伴うメリット、デメリットを十分に理解し、検討することが必要との見解がされておりますので、ぜひぜひいろんな資料に目を通していただきたいと思います。

それでは、残る教育についての取組はまた後ほどさせていただきますが、これからは文化振興に関する取組と施策について質問をしてみたいです。

市長の選挙公約の中において、文化芸術や生涯学習に関する一切の政策提言がなされておられません、大変残念に思いましたが、市報の就任挨拶の後半に音楽や文化芸術の振興はまちの品格を高めるとの記載がありましたので、少しほっとしたところでもあります。まさに市長のおっしゃるとおりかと思えます。

市長も御存じのこととは思いますが、大川市はかつて文化不毛の地と呼ばれていた時代が

あります。この汚名を返上すべく、多くの先達が渾身の努力を傾注され、文化の薫り高い大川市へと変革を成し遂げてまいりました。市長は心の豊かさや人との絆が求められる今日において、具体的な文化振興策をどのようにお考えなのか、お答えください。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

具体的にはまだ考えていませんけど、少しずつ煮詰めていきたいと思っています。

○議長（遠藤博昭）

2番。

○2番（宮崎貴仁）

この前、古賀政男の生誕祭がありまして、その中で市長の御挨拶の中で少しお聞かせをさせていただきました。古賀政男先生の顕彰は、まさに大川市にとっては本当に切っても切り離せない音楽文化の振興だと私も思っております。本年は古賀政男先生の生誕120年の年でもあり、本市の市制70周年も相まって、3月には古賀政男先生のまな弟子でもあります小林幸子さん、そして古賀メロディーを歌い継ぐ大川市音楽親善大使の田口こうきさんをゲストに大川音楽祭が開催されます。もちろん市長は既にチケットをお求めになってあることとは思いますが、古賀先生の顕彰とお話をいただく中で、まずはぜひ市長が自ら率先して事業への協力をお願いしたいと思っております。

古賀先生のお話をする中で、先日、記念館で生誕祭があり、市長も御出席を先ほど申し上げましたとおりにしていただいております。時の流れとともに、その時代の背景を歌った流行歌というのは自然と風化を遂げてまいります。生誕祭では田口小学校の生徒も参加してくれて、記憶のどこかにきつと残るものだと感じたところでもあります。

しかし、その場において、少し残念なことがありました。生誕祭後に子どもたちが描いてくれたスケッチ大会の表彰式が行われましたが、市長はその表彰式には御参加をいただけませんでした。来年はぜひ市長にも参加してもらい、一生懸命に描いてくれた子どもたちをたたえていただき、古賀先生の偉業とメロディーを市長からも顕彰していただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

次に、本市には旧吉原家住宅、清力美術館、今、改修が進んでおります旧緒方家住宅などの文化的建造物や文化センターなどの文化・生涯学習施設が多くありますが、このような施

設を活用した文化芸術振興についてはどのようにお考えか、お聞かせください。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

文化センターと、どこと言ってもらいましたか。文化センターと……（「旧吉原家、清力美術館」と呼ぶ者あり）ああ、そういうのを利用して。文化センターはやっぱりいろんな催し事ができますから、音楽会とかも含めて、それは今後ともやっていかなきゃいけないと思っています。ただ、あそこはまだいっぱい修復するところがあるから、それをちょっと優先的に、これはこのことは答えたと思っています。

それと、旧吉原家住宅とか、あのまちづくりはぜひ重要だと思っていますから、宮崎稔子議員の今日の質問、御意見にもあったように、ぜひ大切にしていきたいと、それはつくづく思っています。

○議長（遠藤博昭）

2番。

○2番（宮崎貴仁）

実は倉重前市長は、アートが持つ力を子どもから高齢者の方にまで市民に広く発信すべく、このような施設をフル活用したアートフェスを開催され、市内外より本当に多くの来場者が訪れ、まさに本市が文化芸術の薫り高きものだったと私も感じております。

市長におかれましても、子どもたちの豊かな創造性や感性を磨くため、そして多くの市民の心の豊かさの気づきのためにも、ぜひアートの持つ力も発信していただきたく、音楽文化だけではなくて、アート事業や企画展にも前向きに取り組んでいただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

次は、文化事業振興には欠かすことができない環境整備についてであります。本市の大きな文化事業の公演の多くは文化センターにて開催をされております。これは先ほど市長が御答弁されたとおりであります。

私は以前から質問を重ねてまいりましたが、現在の文化センターは約50年前に建築をされ、座席もその際に設置されたものであると認識をいたしております。心の豊かさやひとときのゆとりを持って鑑賞するにはふさわしくないものと――座席がですよ――と感じております。よりよいものをよりよい場所と環境で鑑賞することによって、そこで感じ得るものには大き

な差が出てきます。きっと市長はそうお感じになられているのではないかと思います。

今後、長寿命化を踏まえ、大規模改修や時代のニーズに合った建て替え、市民ホールと図書館などを掛け合わせた複合施設化など、様々な形で検討が進んでくるものかとは思いますが、費用対効果を鑑みた上での文化センター大ホールの座席の取替えは、文化芸術の振興の一助としても重要であり、喫緊の課題ではないかと思っており、この質問を投げかけさせていただきましたが、さきに市長の御答弁にあったとおり、ありがたいことに優先的に取り組むという御答弁をいただきました。この取替えについて、いま一度、市長のお考えをお願いいたします。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

いや、文化センターの、先ほど宮崎貴仁議員が申されましたように、休みを取って見に行きました。そして、いろいろ案内してもらいました。雨漏りもしているところもあるし、これは本当に何とかしなきゃいけないということで、最優先課題じゃないかなというふうに思っています。ぜひいろんな場面で協力をお願いしたいと思っています。

○議長（遠藤博昭）

2番。

○2番（宮崎貴仁）

ホール座席に関しては、私もこれを本当にずっと長年持ってきた課題ですので、多くの会館等を視察等々させていただきました。様々な方法があるやに感じますので、文化芸術振興が大川の品格を高めるとお感じであれば、本当に今御答弁のとおり、早急に御対応をお願いしたいと思います。

それでは、今回の一般質問に与えられた時間、私あと25分までですか。

○議長（遠藤博昭）

15分。

○2番（宮崎貴仁）続

15分まで。あと15分となりましたので、ちょっと教育の取組に戻らせていただきたいと思います。主権者教育についてお尋ねしたいと思いますが、市長はこの主権者教育についてどのように御理解をいただけるのか、お聞かせください。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

御説明をお願いします。

○議長（遠藤博昭）

2番。

○2番（宮崎貴仁）

ちょっと要約して、主権者教育のブックがありますので、読ませていただきますね。

未来の地域を担う子どもたちに、地域活動へ参加、地域づくりの参画に興味、関心を持ってもらうことに、地域の多様な民意を集約し、広い見地から個々の住民の利害や立場の違いを包摂する地域社会の在り方を議論し、地域公共団体の意思を決定する議会等の役割について理解してもらうことが主権者教育としては非常に大切なことであると。要するに、子どもたちに地域の政治に関わっていただきたい、そのための教育をしていくわけなんですけれども、こういう主権者教育の取組についてどう思われますか。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

まだそこまで考え方が至っていなくて、これから勉強していきたいと思っています。

○議長（遠藤博昭）

2番。

○2番（宮崎貴仁）

多分、大川市も主権者教育には取り組んでいただいていると思います。

実はさきの市長選挙において、このようなビラが不特定多数に配られたことは御存じですか。（現物を示す）（「見えません」と呼ぶ者あり）持っていきます。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

これは知りません。これは知っています。これはどこかで見たような気がしています。これは初めてです。

○議長（遠藤博昭）

2番。

○2番（宮崎貴仁）

ちょっと今、軽くお目通しをいただいたんだと思いますが、市内に住所を移して初めての選挙となった大学生の中に、これは時期的にたまたまであったと思うんですが、ポストの中に投票入場券とそのようなビラが複数枚入っており、投票することが嫌になったと、ビラとともに入場券をごみ箱に捨てた学生がこれは事実数名います。

今や広く全国で主権者教育の取組が行われており、子どもたちが民主主義や地方自治について学ぶ重要なものになっている状況にもかかわらず、このようなことがあったことに対して、今、軽くしか見られていないと思いますが、そういうビラが不特定多数に選挙期間中に配布されたことについて、市長は率直にどのようにお考えか、お聞かせください。

○議長（遠藤博昭）

市長。

○市長（江藤義行）

当然よくないことだと思っています。

○議長（遠藤博昭）

2番。

○2番（宮崎貴仁）

以後、主権者教育にもぜひ力を入れていっていただきたいと思います。

最後になりますが、人権教育についてであります。

一昨日、12月4日より人権週間が始まりました。本市においても、大野島小学校3年生によるパネル展や講演会など、様々な啓発行事が行われ、それぞれが改めて人権について考える週間真ただ中に入っております。

次のことは御存じのことだと思いますので、御質問させていただきます。

江藤市長の記憶にも新しいことかとは思いますが、市長の政治活動、選挙活動の中において、市長の後援会の幹部であり、一時は政治の行政にも関わられ、公立高校の同窓会長まで歴任された方の口から、幾度となく前市長の友人はゴキブリだとの発言がありました。これは御記憶に新しいことだと思います。この発言に対し、多くの人が耳を疑い、多くの方が自分のことを言われているのではないかと心を痛めたことも事実であります。

事もあろうか、その発言に対し、市民の方に注意を受けられた後には、注意を受けたので、アブラムシに言い換えますともおっしゃいました。このことも御存じのことだと思います。まさに不特定多数の多くの人の心を傷つけ、人権を侵害するような発言ではありませんか。このゴキブリ発言は市内の小学校でも話題となり、面白おかしく子どもたちが使い始めたとも聞いております。この発言に対し、市長は当時どのようなお気持ちでお聞きになっておられたのか。

そして、人権以外にも、最近各地でハラスメントの条例制定や取組が行われてもおりますが、市長も77歳、私も間もなく50歳になるわけですが、過去、私たちが普通に話していた言葉さえもハラスメントになるような時代を迎えました。市民を守るべく、人権をつかさどる大川市のトップである市長となられた今、そのことに対してどのように感じておられるのか。当時どのようなお気持ちでお聞きになったかと、現在どのようにお感じになられているのか、市長の御答弁をお願いいたします。

**○議長（遠藤博昭）**

市長。

**○市長（江藤義行）**

当時、私も選挙運動にいろいろ邁進していましたから、それだけしか頭がなく、様々なことは、本当に何とかな、素通りしていったということで、私の選挙運動にも何の組織もなかったものですから、一生懸命になっていました。

それと、ハラスメント。（「いや、その発言に、そのときと今私が聞いた……」と呼ぶ者あり）いや、だから、そのとき本当に一生懸命で、今言われてどう感じられますかというのは、それはよくないことじゃないかなと思っています。

あともう一つ、何かあったですね。（「いや、もうハラスメントは全然いいです」と呼ぶ者あり）

**○議長（遠藤博昭）**

2番。

**○2番（宮崎貴仁）**

じゃ、当時は全然言われたことが記憶にないということで受け止めさせていただきたいと思います。

実際、こういうことがあったのは事実でありますので、しっかりと心の中にでも結構です

ので、受け止めていただきたいと思います。

子どもたちに誇れるまちづくりに向け、市長の持てる力の全てを傾けられ、市政運営に今後とも取り組んでいかれることを願い、一般質問を終わらせていただきます。

**○議長（遠藤博昭）**

ここで暫時休憩いたします。

なお、再開時刻は15時15分としますので、よろしく願いいたします。

午後3時7分 休憩

午後3時15分 再開

**○議長（遠藤博昭）**

休憩前に引き続き本会議を再開し、一般質問を続行します。

次に、12番永島守議員。

**○12番（永島 守）（登壇）**

皆さんこんにちは。少し声が枯れておりますけれども、失礼をさせていただきます。

いよいよ12月議会最後の質問者となりました。大変声が枯れておりますから聞きにくいこともあるかと思っておりますけれども、最後までひとつお付き合いいただきますよう心からお願いを申し上げておきたいと思っております。

私の発言の中には大変失礼なことも中にはあるかと思っておりますけれども、よろしく御容赦いただきますようお願いを併せてしておきたいと思っております。

まず、私が今回通告いたしておりますのは、この大川市長選の総括についてということでお話をさせていただきたいと思っております。さらには、後世への大川市の政治行政についてと、この2つの間のその質問をさせていただきます。

また、今回、江藤市長には通告外というようなことを言われるところもあるかと思っておりますけれども、これは明らかに私は分かりやすくお伺いをしますので、ぜひお答えをいただきたい。選挙戦の中身について私はお伺いをしてみたいと思っております。

それでは、詳細にわたっては質問席にて質問をさせていただきたいと思っております。

**○議長（遠藤博昭）**

12番。

**○12番（永島 守）**

まず最初にお話をさせていただきたいと思っておりますけれども、このたびの市長選、本当に私

は大変な市長選挙であったというふうに思っております。いわれなきことを私は随分と、ネット上でも、また、怪文書と言われる、最後にはこの我々の同僚の中から、A4の封筒に堂々と書かれて、市長も御一緒願いましたけれども、これは全て筑後警察署のほうに出しておりますけれども、深くは申し上げいたしません。私も時を選んで、私は今回こうしてこの大川市議会の本会議場に立たせていただく、そのときまで、静かに私は過ごさせていただいております。しかしながら、私の自宅の周辺においては、いまだに嫌がらせが続いているわけでありまして、私もこれに対応することなく、しっかりと今見守っているわけでございますけれども、こういう選挙はあつてはならない、私はこういうふうに思うわけでありまして。

内容等については皆さん方既に御存じのとおりでありますけれども、私が職員を2人自殺に追い込んだ。さらには、1人の職員をパワハラで退職させたと、自主退職をさせたというものもございます。いろんなことを詳細にわたって申し上げれば切りがない、それぐらいの私は誹謗中傷を受けてきたわけでありまして、今現在、こうして大川市政のトップが替わられたという中において、いい時期を迎えて、私は今回まで、鳩山、歴代6人の市長と共にこの大川市政の中で活動してまいりましたけれども、今回の選挙だけは本当にですね、私にとってだけかもしれませんけれども、非常に選挙でない。本来、市長がどのように思われているのか分かりませんが、選挙というものはこういうことではなく、選挙ですから、しっかりと政策をもって政策を競うと。今回の選挙は、「大川の駅」、この事業に対して賛成か反対かということを使いやすいフレームで、そして、市民に訴えられたと。私は黙ってこれも見守ってまいりましたけれども、内容等々について大きな誤りがある。これは江藤市長が今度、いわゆる諮問をする、そういう委員会をつくられて、そして、中身については精査をします。それはしっかりとやってください。どういうことがあっているのか。私は大変誹謗中傷された中に、最後には、今回、契約一部変更がこの本会議に諮られたわけでありまして、それ以前に、今回、削減された予算約1,800万円ですか、この件についても、永島と倉重が使ったと、そういう怪文書すら流されたと。もう江藤市長もしっかりと就任されて、中身については大方お分かりかと思っておりますけれども、そういう事実はあるはずもございません。

そしてまた、今回この質問の中において、川野議員の質問においても、市長も確認をされましたけれども、中身については詳細には今この場では申し上げませんが、何か利害

関係、もしくは利権があるのではなかろうかという部分から発されたことも随分と私の耳にも入ってきておりますけれども、本日、この場まで私はしっかりとこれは辛抱しながら、永島さん、我慢してくださいという中において、私はこれまでしっかりと倉重良一君を支えてまいりました。彼の意気込み、そして先進力、しっかりと私は見させていただいております。その中において、そういうものというのは私自身が、これは職員の皆さん方も十分御理解と申しますけれども、もしもそういう利権に絡む人があってはならないと。御存じのように、私も一度は収賄でやられましたけれども、この金も私は受け取ってはおりません。しかし、事を収めるために私は自ら身を投げ出したわけでありましてけれども、そういうものもいろんな形で私の耳にも入ってきておりますけれども、とにかく私は我慢をしろと、しっかりと自分自身にも言い聞かせながら、こうして本日を迎えているわけでございます。

この選挙が済んで、江藤市長はノーサイドだということをおっしゃってございましたけれども、昨日の古賀議員へのお答えの中においても、そろそろおっしゃったんだから考えてはどうですかというお話もございました。ノーサイドというお言葉を発せられているわけですから。しかし、それを拒否されましたと。私は実はがっかりしたと、そういう思いがございます。

要するに詳細にわたっては申し上げませんが、私たちは互いに、この議場にいる議員はお互いの政策を競ってやるのが市議会議員の選挙であります。私は今回の選挙においては非常に残念だという思いがしております。これは後ほど江藤市長も言いたいことがございましょうから、それは言われて結構ですけれども、私はただただ政治が好きで、政治が好きで好きで、私はこうして平成3年の初当選からしっかりと大川市議会の中において一生懸命政治について学ばせていただきました。私が最後の質問者でございますけれども、そして、今日は開会と同時に議員の質問の順番がおかしいんじゃないかというようなお話もございましたけれども、これは通告しておりませんので、お答えもいただく必要ございません。しかし、我々は議員として、まず自己学習というのが必要なんです。今回、私はまた永島が押さえてというような勘違いをされる方がおられるものですから、いろんな形でのやじもございまして、いろんなこともございます。しかし、私はこの場に立つまで一言も発しまいという気持ちでやっておりました。この順番かれこれというのは、議長もおっしゃいましたけれども、1つだけ欠けているのが、今日、局長がおられますけれども、私が言うことが違うんであれば違うと言ってください。

議会運営委員会というのは、議長の唯一の諮問機関なんです。執行部の方々に、市長三役に出席を願っていたんじゃないんですよ。これは互いの信頼の下に、そして、議事進行がスムーズにいくように、互いが話し合いながらやるのが議会運営委員会なんです。ですから、そういうことを議員として、これは自己の学習の中に学ぶべきものであって、そしてまた、議員一人ひとりの先輩方から指導を受けながら、議会というのはどういうものだと、議会運営委員会とはどういうものだということをしっかりした先輩が指導するべきであろうと、私はこのように思っておりますし、そうでなければなりません。

市長を入れなければならない、そういう決まりは、局長、決まりがありますか。

○議長（遠藤博昭）

西原議会事務局長。

○議会事務局長（西原 真）

ございません。

○議長（遠藤博昭）

12番。

○12番（永島 守）

そういうことでございます。

だから、本来は議長の唯一の諮問機関なんです。江藤市長、そうなんです。ですから、できれば定例会の前に、江藤市長が自ら議会事務局なり、それから、職員の方にこうして気持ち伝えていただくと。だから、定例会前だけしか——臨時議会というのはありますけれども、そのときだけ参加いただく。ふだんは議会の運営については議会運営委員会だけでやるんですよ。全協も一緒なんですね。全協も、江藤市長、一緒なんですよ。三役、職員が参加しない全協もあるんですよ。一部の職員だけしか出てこない全協もあるんです。

私も平成3年初当選以来、私は政治が好きですから、機会を得て、いろんなことを学び、そして、やっぱり教わってきました。ですから、そういうことが間違いがないように、そしてまた、議会と行政がよく言われます両輪というのも、いい意味で一緒にやっていくのが両輪なんです。だから、選挙中においても、これは代議士も発言をしたことございますけれども、やっぱりそういう亀裂を生むような、そういうことというのは子どもでも分かっているんですよ。政治というのは、みんなが一緒に同じ方向に進むのが一番いい結果を得るんですよ。

しかし、やっぱり選挙戦ともなれば、これはしっかり両陣営とも、自分の主義主張、政策の主張、これをしっかりと戦わせてやるのが、いわゆる首長選挙なんです。うその情報を得れば、必ず間違った結果が出てきます。コンピューターでも一緒なんですよ。いつも私は皆さんに申し上げますけれども、誤った情報を入れれば、当然として誤った答えしか出ないんですよ。

だから、私はやっぱり共にある政治というのは、いい結果を得る政治なんだと。そして、しっかりと私は機会あるごとに、私は個人的に利権の話を市長室に足を運んでいたことでも何でもなし。互いの信頼の下に、大川市をどうするのかと、どうあるべきなのかと。これは議長たちを含めて、私どもは前市長であります倉重良一君ともそういう意見を交わしたことは度々ございます。ですから、私はいろんな、2日間の質問、皆さん方の思いを聞かせていただきましたけれども、市長、本来は、誰から教わったのか分かりませんが、通告外というのを、要するにバリアを自らつくったらいけませんよ。

そしてまた、私が今回、市長にお尋ねをしたい、そのことについては、やはり私は大野島出身でありますから、利権だ何だかんだという前に、しっかりと地元をですね、私は市長が言われるあげな島に生まれ育ったんです。皆さん方には平成3年から永久に島を守ると、こういうしっかりとした約束を私はして、この議会に参りました。長年、私は宝として、鳩山二郎、倉重良一、しっかりと私は支えてきたんです。その気持ちは関係者皆さん方も十分に御理解いただけるものだろうと私は思っております。

いろんな形でいろんな政策を互いに語り、そして、私がいいように結局人を扱っているような、そういう無礼な怪文書、ネットまで使って、暴力議員、入れ墨暴力議員、今見てみてください。ドジャースの優勝後のシャンパンのかけ合いをやる、ああいう中にもしっかりと絵を描いた人がいるんですよ。私は暴力議員と言われますけれども、暴力は振るっておりませんよ。私はこれから守るものもない。しっかりと私は倉重市政を支えるために、いろんな誹謗中傷も耐えてきました。中では怒鳴ります。永島守に入れるやつは何々しかいないというのが世間に話になっている。私は何とも思いませんよ。もう守るものがない。なくすものもない。私に残されたのは政治の道だけです。辞めろというコールもありますけれども、私は絶対に辞めません。

だから、江藤市長にお伺いをしたい。御無礼なことも申し上げました。しかし、江藤市長、「大川の駅」をやめると思った段階で、前日からの答え、要するに答弁をいただけませんで

したけれども、やめてどうするんだということも、いや、今いろんな様々などというような答弁をいただいておりますけれども、幾つかの例えばこういうものがございまして、やっぱりそれは示すべきですよ。ただやめるんじゃないくて。やめるのであれば、必ずやめた後どうするかということ併せて私はお聞きしたかった。通告外と言うのは簡単です。しかし、昨日から質問を受けるその内容等について私も黙ってずっと聞いておりました。自分が大川市政を担おうという思いを持って市長になられた江藤市長ですから、やっぱり答えられるべきはしっかりと答える。私は今後どうするか。いろんな形で、有明海、環有明海、有明海地域の浮揚政策というのはずっと私は昔から申し上げてきました。そして、この「大川の駅」を鳩山二郎君が英断を下してくれた。だから、いろんな形でいろんな利権絡みの話があるのではなからうかと、私は直接そういうものが誰々がどういう話をしていたということは知っているんですよ、全部。しかし、私は大野島の地権者かれこれともお茶一杯飲んでいません。ほとんど立ち話です。

もう私は75歳です。75歳ですよ。私もそう長い政治というのはいできないかもしれない。しかし、こういう時代にこういう状況があれば、決して大川市はよくなりません。だから、市長が本当にノーサイドと言われるのであれば、嫌だち、好き嫌いだけで決して判断するものではないと思います。あなたが言われる市民に問いかけをしなかったと。私はあなたともう随分長い間、お話をしたことございません。お会いする機会もなかった。そして、これはよそであった話ですけれども、私が市長の自宅に押しかけて、妻が怖がったと。私は行ったことがないんですよ、江藤市長の家には。会社には2度行きました、会社には。江藤市長の自宅には一度も行ったことございません。そういう話がですね、そしたら、それは作り話かもしれませんけれども、私は江藤市長とは、以前に会社のほうにはお邪魔したことあるけれども、それ以来、私は一切江藤市長のところの会社にも関わったこともなければ、一切の利害もその後はございません。ですから、皆さん方を、一人ひとりの議員を呼んだり会ったりして、いろんな話を聞かれたと。これは私は木材組合には職員を動員して一度お邪魔したことがあるんですよ。しかし、それ以外には接することもない。そして、「大川の駅」ですね、これは鳩山二郎君が英断を、そして、後継者である倉重良一君がしっかりと、やっぱり後継を受けたわけですから、それを一生懸命やってきた。彼は立派ですよ。それは確かに人脈も物すごい、それぐらいの8年間の中にいろんな形で信頼をされております、国県においても。私と同じ付き合いも、本人とも一致する、そういう付き合いもありますけれども、

やっぱり政治は力なんです。人脈なんですよ。信頼なんですよ。信頼なくして政策の実現はできない。うそで固めた政治は必ず崩壊する。

私がなぜ議会にこうして75歳までいるかというのは、一旦議会議を去り、そして、新たなやり直しをするために私は議会に来たんです。ですから、私はなみなみ言うたら悪いけれども、やっぱりそれぐらいのやるべきことというのはいろんなものを考えてきました。そしてまた、人として、男として、政治家として、墓場まで持っていかなければならないこともしっかりと背負っております。これまでしっかり口に出してきませんでしたけれども、私ももう75歳、守るものがない。もうこれ以上なくすものもない。まして欲しいものもない。だから、今後は一切私は妥協することなく、いいことはいい、悪いことは悪い、しっかりと私は態度で示していきたいと。そういうものについては私は絶対負けません。なぜならば、勝つまでやります。

長話になりましたので、市長、本音で、江藤市長の本音で、今後、この大川の後世をどのようにしたい、すればいいとお思いになるのか、ぜひ率直にお話をいただきたい。これは要するに通告外ではないんですよ。ちゃんと通告しております。職員の皆さんも、そしたらどうしましょうかということで、私は壇上の答弁も要らないと。私が話するのは、互いの二元代表制の、いわゆる市長である人と議員である私が直接思いを語る場だから、もう壇上答弁、あなた方の答弁書は要りませんよと、そういうお話をして今日を迎えているわけですから、私がなぜこういう長話をするかということ、そういう打合せも何もない中において、お分かり、御理解いただけるならば、自分の思いをです、それは分からなくて、そしたら結構です。そしたら、率直に言って、この大川市、後世のことをどういうふうにやっていこう、それからまた、先ほど言いましたように、本来は事業をやめるならば、その後でどういう有効な活用をしていくかというのを本来はそのとき考えるのが私は市政を担おうとする人の思いだろうと。何度も言いますが、やっぱり政治家の選挙というのは政策を語る、政策を競うのが選挙でありますから、今現在の気持ちをお聞かせいただきますようお願いいたします。

(傍聴席より発言する者あり)

○議長（遠藤博昭）

傍聴席は私語を慎んでください。そこをお話しになるなら出て行ってください。

市長。

○市長（江藤義行）（登壇）

守議員とこんなに話をするのは初めてなんですけど、さっきトイレで守議員のお尻をたたいてよろしくねとって別れました。しかし、守議員とは本当に初めてですね、こんなにこういうことで話すのはですね。守議員が守るものがないというのは、本当に立派なことだと思っています。

今、いろいろお聞かせいただいて、守議員の人柄とか、様々な今までの思いとか、十分聞かせていただきました。本当に私と2つしか違わないんですよ。昭和24年生まれですかね。本当に同じ年代として、初めてこういう場で話をすることができました。今まであまり本当に話をしたことがないからね。ただ、一度だけお宅にお伺いして名刺を交換しました。

そういうことで、通告外というのは、今までこの議会で2回ぐらい言ったんですよ。言いました。しかし、守議員が長々しゃべられるから私も——今何分ぐらいしゃべられたんですか。あとどのくらいありますか、時間。

**○議長（遠藤博昭）**

まだあと30分。

**○市長（江藤義行）続**

私も30分ぐらいしゃべろうかな。

いや、本当に守議員がこんなにいろいろしゃべられるというのは私もびっくりしました。もしあれだったら市長室に遊びに来てください。そして、いろいろしゃべっていいじゃないですかね。本当に雄弁で、すごいなと思って、今まで議員としてすごく長い期間、三十数年ですかね、議員生活は。（「もう33年になっですかね」と呼ぶ者あり）へえ、すごい、すごい。

だから、政治経験では私の大先輩なんですよ。本当にこれからもいろいろ教えていただく場面がいろいろあると思います。本当にこんなに長くしゃべるのは初めてなんですけど、何となく私の同年代ということで、親近感まではいかないんですけどね、親近感が生まれつつあります、それは。ぜひそこら辺はお酌み取りいただきたいと思っています。

「大川の駅」のことに関しては、やっぱり選挙というのは、私自身もちろん組織が何も無いもんですからね、必死だったんですよ、必死。それで、どう動いていいかも分からないしですね。だから、その場で何か言ったりしたことは覚えてもいないしですね。しかし、本当に必死に動き回りました。そして、つじ立ちしか方法がなかったもんですからね。支援する団体も本当に私は一人も知りません。ただ、選挙運動で、私の知らない人たちが自然と集

まってきた動いてくれたんですよ。だから、私も選挙は初めてだし、この年齢ですから、あの暑さで回るのにふらふらだったんですよ。よくもてたなと思っています。その間、永島議員とは一度も会わなかったですよ、選挙期間中は。本当にその間、どこかでお会いできていればよかったんじゃないかなと今思っているんですけどね。そうすると、その間、いろいろ意見を交換できれば。（「江藤市長、今後についてお話をしてください」と呼ぶ者あり）

今後についてはまたいろいろ、守議員が言われたように、今後についてはいろんなことを相談しながら決めていきたい。ただ、大野島で道の駅を造ることもマニフェストに書いておるとおりなんですよ。今後どんなふうにするかというのは様々な人の意見を聞きながら、私自身で勝手に決めるわけにはいけないものですからね、諮問委員会なり様々な人の意見を聞きながら、皆さんが納得できる形で決めたいというふうに思っています。

それと、今回、選挙戦が激しかったというようなことを言われていますよね。選挙戦はとにかく激しくなるもんなんですよ。だから、私自身も随分いろいろ言われました。様々なことを言われました。本当にこんな老いぼれでいいのかとか、あれは務めたらすぐ死ぬよとかですね。私はそれはみんな忘れてるんですよ、そういうのは。やっぱり選挙の期間中だからだろうということで、老いぼれじじいがもうすぐ登庁したら二、三日で死ぬよとか、そんなことも本当にいろいろ言われました。信じられないと思うんですけどね。しかし、私は本当に何か知らんけど、飛んでしまっているんですよ。これがノーサイドじゃないかなという気もしています。

だから、永島議員とこの場でこんなふうに話すことができるのは本当によかったと思っていますよ。会えてよく話ができ、そんなふうに思っています。これからもいろいろ政治談義を一杯飲みながらしていてもいいんじゃないかなと思うんですけどね。そうすると、永島議員のいろんな知恵が借りれますから。ぜひそれは私が設けてもいいし、永島議員が一つの場をつくっていただいて、話合いをしましょうよ。それはぜひ永島議員の今までの経験を聞きたい。様々な貴重な経験があるだろうから。

もうこれでよろしいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）

○議長（遠藤博昭）

12番。

○12番（永島 守）

こうして話す機会は初めてでございますけれども、私はそれなりに今回の選挙を通して、

いろんな形でいろんな方々からいろんな話を、お会いすることはなかったと言われてすけれども、私は皆さん方に倉重、私はしっかり応援していますから、今でも信頼しているんです、彼を一番。だから、そういう中において、いろんな怪文書を流される。だから、事務所に迷惑をかけたらいけないと。本当の選挙ができるように、批判をされる私が事務所に出入りするんでは、これは倉重君にとっては大変な迷惑だろうと、そういう思いを持って、私は事務所にも、これは議長が一番御存じですけれども、出入りを私は遠慮させていただきました。それでも結局批判は続くんですね。だから、私はこういう選挙というのは、きちんと政策で戦うのが選挙だろうと、私はそういうことを今現在もしっかりとっております。

大川市長選に、ここでお話しするのもなんですけれども、ほとんどの市長選、平成3年から私は深い関わりを持ってやってきました。そのために批判も物すごく現在まで続いているわけでありましてけれども、ほとんど私がお会いしない、そういう方々からの批判というのがいまだに続いております。これは当然江藤市長も耳にされておりますと思いますけれども、まだまだ続いておりますけれども、私はやっぱりどうしてもですね、あなたと話したこともない。私は長年、倉重良一君と8年、鳩山二郎君と3年、私はしっかりと話をさせていただきました。ですから、彼らの人間性、これは私は本当に気持ちの上では親子の関係ぐらい私は持っているんです。それは鳩山君も倉重君も私に対する思いがそうあるのかどうか分かりませんが、今現在でも、余計な話ですけれども、私は親のつもりでおります。これは生涯続くと思います。ですから、こういう在り方というのは私は決していいことではないと。

それから、今日いろんな話がございました。ちょっと出ばなをくじかれたこともありますけれども、私は常にそういうふうに思っております。まだまだ、要するにできるだけ私は控えながらやっておりますけれども、言いたいことはたくさんあるんですよ。（発言する者あり）いえいえ、それはここで話して解決する話ではございませんので、私は本会議のたびに少しずつお話をさせていただきたいというふうに思っておりますけれども、まだ私が話せば、御存命の方もいらっしゃるわけですね。まだ元気でおられる方もおられる。周りにも御迷惑かけますからですね。私は自伝というのをずっと書いているんですよ。いずれかの時期に表に出しますけれども、しっかりとやっております。

だから、私は今回、こうして皆さん方の話を聞きながら、私の最初のここに議会に臨む、そのときと少しトーンダウンしておりますけれども、私の思いというのは、まだまだ強い思いがあります。だから、今さっきお話を聞かせていただきましたけれども、大野島で私が言

いましたあげなところというのは、これは江藤市長、失礼な話ですよ。私は大野島の方々から何人からも言われております。あんな失礼なやつだと。そういうふうみんな言っていますよ。結局、先ほどの話がありました、人権の問題。それこそ地域差別に当たるんですよ、それは。やっぱり行政のトップ、要するに大川市民に対する福祉から子育てからいろんな質問がありました。全てにわたって上で指揮をなされる江藤市長がそういうことを言われるということは、これは市民からの信頼をなくす、一番ですね、今、貴仁議員が言っておりましたように、今はすぐハラスメントでやられるんですよ。昔通用していたことが今は通用しないんですよ。私は女性のことをおなごと言うたら、うちのかみさんからくそんごと言われてます、またそういうことを言うてからと。

ですから、私は本来、まだまだ怒りがあったんですけども、怒りがありましたけれども、今日はやめておきますよ。時期を選んで、ちゃんと少しずつ言いますけれども。私は何度も言うように、私はそうころころ気持ちが変わる男じゃないです。しっかりと要するに自分の信念というのを持っておりますから、やっぱり言うてはならんことは男として言っちゃならんのですよ。

あまり多くを語るとおかしな話になりますから、そのような話はここでやめておきますけれども、私は江藤市長に今後の――確かにこの間、4人で採決いただいて、契約の一部、要するに変更後の採決をいただきました。そして、事業が盛土終了まで継続をしていくという結果であろうと思いますけれども、その後、いや、いろいろ様々などというお話をされますけれども、その後の思いというのは幾つもあるんであれば、少しはやっぱり地元の人に対して、あそこは「大川の駅」を造るということで地権者の皆さん方も喜んで御賛同いただいているわけですから、それを仮に違う方針転換をされて何かを考えられても、再度また理解を得るための期間も要するわけでありまして、まして今の状況の中では道路がないんです、あそこは。道路がですね。御存じのように、県道も収用法で買収した土地でありますから。また、言うならばそういう道の駅という、「大川の駅」という事業がなくなった以上、道路もできないということは、これは当然として、新たなことを考えれば、新たなですね、昨日、誰かの質問の中に、今まで使った金は幾らだというのが7億幾らやったかな、ありましたけれども、私はこのあれも含めて、この金額が、江藤市長流でいうと負の遺産と表現されますけれども、今まで投資されたこの7億円余りの、これも税金ですから、併せて判断を願いたい。投資を当然しているわけですから。花畑という話もされていたようでありますから、

中には焼却処分場というの也被われております、以前から。これは幾ら造ろうとしても地元が納得しませんよ。

ですから、そういうことを含めて、今回お話をするつもりがないようですから、回答いただくつもりがないようですから、どういう有効な活用方法があるのか、近々検討をしていただきたいというふうに思います。今日この場で、言うならば結論、ある一定のお答えをいただく、そういうことができないわけでありますから、私はこれにて質問をやめさせていただきます。（「ちょっと私もいいですか」と呼ぶ者あり）いいですよ。

**○議長（遠藤博昭）**

何か御発言されますか。市長。

**○市長（江藤義行）**

いやいや、永島守議員、本当にいろいろありがとうございます。

大野島の方に対するあのようなどか、それについては前回の議会で釈明いたしました、私の言葉足らずだったということをですね。それはぜひ御理解いただきたいと思います。

守議員から大野島に対する思いも聞かせていただきました。ぜひ来年から市政報告会をしますから一緒にやりましょうよ。そして、今後、大野島の人たちと対話しながら、いろんなことを含めて対話しながら、今までのいろんなしこりなんかをほぐしながら、次、大野島の振興に向けてどうするのかというようなことは、2人一緒になってコミセンとかで報告会をやったらどうかなというふうに私は思っています。

それと、今後、このような場で守議員とこんなに長く話せることは本当によかったなど。何となくやっぱり話しにくかったんですよ。しかし、本当によかったなど思っています。そして、本を出版されるときにはぜひ連絡していただきたいと思います。いつ頃刊行されるんですか、大体。（「これはまだ言えません」と呼ぶ者あり）まだ言えない。ぜひそのときはお知らせ願って、私もじっくり読ませていただいて勉強させていただきたいと思っています。

それと、今日、守議員を最後に、いろんな質問が終わりますけど、私はもっと痛めつけられるかなと思っていました。しかし、本当に議員の反対派の皆さんも賛成派の皆さんも、今後、大川に向けて、どう大川市政を担当していくかというふうなことを本当に忌憚なく対話させていただいて、これを糧に私は命を賭して大川市のために尽くしていきたいと思っています。ぜひ皆さん方、選挙は終わりました。しかし、ノーサイドです。一つの目標に向かっ

て進んでいきたいと思っています。ぜひ守議員を先頭に、いろいろ話合いしながら市政を進めたいと思っていますから、どうぞよろしくお願ひしたいと思っています。ぜひ私も頑張ります。よろしくお願ひしておきます。

○議長（遠藤博昭）

12番。

○12番（永島 守）

これは互いに政治家ですから、やっぱり政策を持って、どういう考えであるのか、今後どうしたいのか、そして、江藤市長が言われる、いわゆるこの亀裂をどういうふうにして収められるのか、まだまだゴールは遠いですよ、はっきり申し上げて。今先ほど言われたように、私は大概のことを腹くくって、この本会議場まで、ここに要するに立たせていただいております。だから、先ほどまでしっかりと、いろんな声を出す人がおりましたけれども、外野席にもおりますけれども、また永島がと。私は議員の同僚の皆さん方を押さえつけて物は言っていないよ。ですから、江藤市長が選挙後に、いわゆる動画配信サイトで、もう日本国中探しても大川市議会みたいないところはないんですよ。これは私の知り合いもいっぱい見ているんですよ。これは申し上げるのもなんですけれども、あれは永島さん、あなたのことを言いよつとやないとて幾つも電話がかかってきました。だから、私はさらに辛抱しながら、ただただ倉重良一君に申し訳ないと、そういう思いで私は出入りもしなかったんですよ。だから、私が江藤市長からいろいろ言っていたのは本当にうれしいけれども、私は倉重良一が大好きなんです。彼のまだ傷も癒やされていない。ここでそういう話は私はしたくないんですよ、はっきり言って。私は二郎も良一君も大好きです。しっかりと私は意見の交換もやってきました。私も浪花節ですから、そうころころ気持ちが変わる男ではございません。ですから、私の戦いは終わっていない。戦いは今後はいい意味で、江藤市長、戦おうじゃありませんか。いい意味で、大川市のために。私はそういうふうに思います。

私たちが一緒に行動している議員たちも、大川市のためにという大義名分を掲げてやっているんだらうと、私はそばにいてそういうふうに思っております。だから、本心でしっかりと、昨日は議長もわざわざ議長席を離れて質問に立ってくれたんだらうと私は思っております。言いたいこともいっぱいあるはずですが、議長というのは。質問の場に毎回質問に立っていたんですよ。議長という立場で頻りに下りてしゃべるということは、みんなの前でありますから、なかなかできない。やりたいとしょっちゅう言っとったんですよ。あえて今回は

しっかりと言いたいことは言うと、そういう思いを持って、腹くくって議長もやっとするんですよ。それから、副議長にしてもそうですよ。ふだん非常におとなしいです。しかし、やっぱりですね、本人言っておりましたよ、奥さんから気合を入れられたと。（「気合」と呼ぶ者あり）うん、こういうものは何度も言うべきことやないんですよ。

そういうことで、みんなやっぱりふだんの思いかれこれというのをですね、これはしっかり思いを持って語っているんですよ。先ほど私の前にやった貴仁君、それから平木君、思いというの、やっぱり話を聞いて、皆さんもお分かりと思いますけれども、倉重良一がみんな大好きなんです。それはぜひ江藤市長、分かってやってください。いい意味で大川市を支えていくというのは、これは皆さんも、みんなも思いは一緒だと思います。それから、職員にしてみても、職員の皆さん方も、やっぱりいろんな話を、江藤市長がよその自治体に訪問されたら、市長に会われたという内容等についても私の耳にすぐ入ってくるんですよ。そういうこととお話しになったと、そういうこともあるんです。それから、上京されたことも話をされておりました。最近私あまり行きませんが、コロナから行っていません。みんなで行ったり、個人的に行ってみたり、よくしてくれるんですよ、誰が行っても、はっきり申し上げてですね。だから、私どもも代議士は何名も知っております。昔からの付き合いも最近の付き合いもございます。そういう中において、やっぱり国県の理解を得ると。昨日の質問の中にもございましたけれども、やっぱりきちんとした形で皆さん方の理解をいただく、理解をいただく、そういう中において、国県も、上級行政でありますから、そういう流れの中の出先もございます。こういうところもしっかり見ているんですよ、みんな。聞いているんですよ。大川市にはどういう対応をすべきなのかと。

昨日は総務課長がきちんと、要するに浅くこうして話をしておりましたけれども、やっぱり支援というのは信頼関係なんです、信頼関係。恐らく県の方も、国の方も一部では、今日の今の私の発言を見ておられる、聞いておられるかもしれません。今はそういう時代ですから。ですから、交付税というのは、昨日、課長が説明をしておりました。普通交付税と特別交付税、これは何のためのお金ですよということは書いていないんですよ。書いてありません。その中身を話すことはタブーなんです。小さく書くわけいきませんから。ですから、私は江藤市長の話を黙って聞いておりましたけれども。（「議会で」と呼ぶ者あり）いろんな形で、あなたが言われる様々な形で聞いておりますけれども、私が言うように、やっぱりいい指導者がいないと政治というのはできないんですよ。最初言うように、誤った情報で判

断すれば、誤った答えしか出てこないんですよ。人はやっぱり信頼関係なんです。私はそう思います。

今後、江藤市長がどういう方々に接せられて、どういう学びをされるのか、それはちゃんと毎年結果が出てくるわけでありますから、多分にして余計なことですけども、来年は税収は落ちますよ、必ず。というふうに思います。いろんな財政については、企業財政については詳しいようでありますけれども、企業と行政との、言うならば会計というのは違うんですよ。ですから、その辺のところも、やっぱり分からなければ職員の皆さん方にお教えをいただかなければできないわけですから、だから、やっぱり人間関係というのは大事ですよ。一方的に言ってきた話というのは、耳元でささやく話というのは、昔からあまりいい話はないし、結果もありません。余計なことですけども、2歳も先輩に失礼でありますけれども、そういうことですから、余計なことを言うと、またあいつがいろんなことをしゃべると言われるから、この辺にしてやめておきますけれども、とにかく我々もしっかりと大川市を支えていくという気持ちには変わりません。しかし、はっきり申し上げて、私どもというのはやっぱり倉重が大好きなんです。何度も言いますけれども。ぜひその辺のところは御理解をいただいて、またみんなでお話をする機会もあるかと思いますけれども、私もちょっと変わり者でありますから。

それでは、議長、もうこの辺でやめましょうかね。

○議長（遠藤博昭）

はい。

○12番（永島 守）続

それでは、私の一般質問を終わります。

○議長（遠藤博昭）

いいですか。（「すみません、最後にちょっと」と呼ぶ者あり）言いたいですか。

（「ちょっとだけ」と呼ぶ者あり）じゃ、市長。

○市長（江藤義行）

いやいや、守議員、本当にありがとうございました、いろいろ教えていただいて。今後とも守議員が倉重前市長を大好きだということは本当によく分かりました。ぜひ今後とも倉重前市長を支えていただいて、また大川市にいつか戻ってこられることを期待しています。ぜひ支えてやってください。

それと、守議員が様々なことを言われた。大野島にぜひ一度行って、住民説明会をしたいと思っています。ぜひ御同行いただければと思っています。本当に守議員から様々なことを教えていただいて、この場を借りてお礼を言いたいと思っています。ありがとうございました。今後とも私にいろんなお教えをお願いしたいと思っていますから、どうぞよろしく願いしておきます。

終わります。

#### ○議長（遠藤博昭）

以上で一般質問を終わります。

次に、議案第57号から議案第62号、議案第64号並びに議案第68号から議案第76号の計16件を一括議題といたします。

これからただいま議題としております案件について質疑を行います。所定の時刻までに質疑の通告はあっておりません。よって、次に進みます。

次に、議案を所管する委員会に付託いたします。

お手元に配付しております議案付託表のとおり付託いたします。

次に、この際、お諮りいたします。明日12月7日から12月12日までの6日間は議事の都合により本会議を休会といたしたいと思いますが、これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

御異議なしと認めます。よって、さよう決しました。

それでは、次の本会議は来る12月13日午前9時30分から開くことになっておりますので、念のため申し添えます。

以上で本日の会議は終了いたしました。

本日はこれにて散会いたします。

午後4時14分 散会